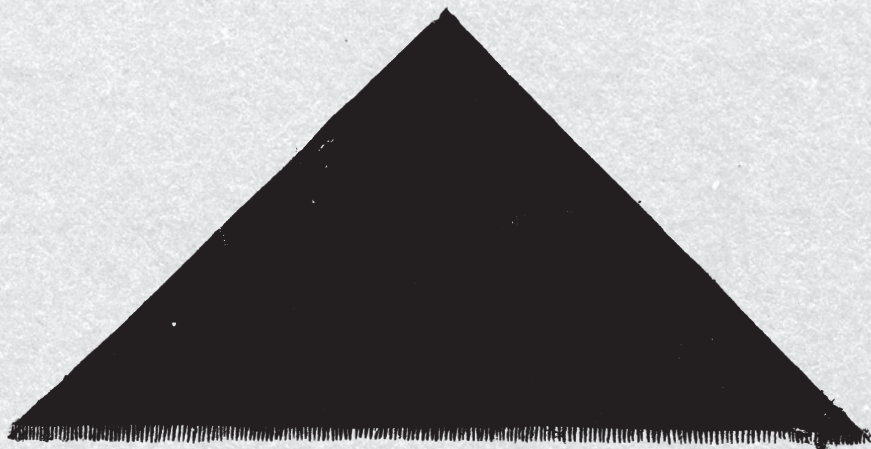


Japanese Cultural Heritage  
and Global Audiences 2

文化財多言語化研究報告2



奈良文化財研究所研究報告 第32冊



Japanese Cultural Heritage  
and Global Audiences 2

文化財多言語化研究報告 2

奈良文化財研究所

Nara National Research Institute for Cultural Properties



# 文化財多言語化研究報告 2

目次  
例言

---

|      |   |
|------|---|
| I 論考 | [1] 異言語間翻訳を超越する<br>——科学技術社会論の視点から見る文化財多言語化<br>吳修喆……………6               |
|      | [2] 文化財を「翻訳」する(二)<br>——飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文<br>のブラッシュアップ<br>吳修喆……………20 |
|      | [3] 韓国における文化財用語醇化に関する断想<br>——「질그릇(ジルグルッ)」の迷走を通じて—<br>扈素妍……………27       |
|      | [4] 初めて校閲者として経験したこと<br>魏佳瑤……………47                                     |

---

|         |   |
|---------|---|
| II 事業報告 | [5] 平城宮跡の文化財多言語展開<br>——文化庁文化財多言語解説整備事業の報告を中心に—<br>高田祐一……………50 |
|---------|---|

---

|        |   |
|--------|---|
| III 実験 | [6] 発掘調査報告書から多言語対応収蔵品データベースへ<br>Yanase Peter ……62 |
|--------|---|

---

|       |  |
|-------|--|
| IV 資料 | [7] 2021年度日英対訳集<br>Yanase Peter ……68               |
|       | [8] 文化財関連用語日中対訳集<br>吳修喆……………77                     |
|       | [9] 文化財関連用語日韓対訳集<br>扈素妍……………92                     |
|       | [10] 多言語に関するガイドラインリスト(関係法令・ガイドライン等)<br>高田祐一……………98 |



## 例言

- ・本書は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が実施する多言語化事業の研究報告である。
- ・本書は、[I 論考] [II 事業報告] [III 実験] [IV 資料] の4部構成からなる。Iは文化財多言語化に関する書き下ろしの研究論考などを収録し、IIには2020年度に行われた「平城宮跡資料館 特別史跡平城宮跡に関する多言語解説情報発信強化事業」の内容と意義に関する報告を掲載した。IIIは、同事業で作成されたデータベースに関する報告である。IVは2021年度に奈文研において展開された多言語解説整備事業を遂行する際に作成された文化財用語対訳集になっている。
- ・表紙画像は「舞楽面 案摩」（国立博物館所蔵品統合検索システム [https://colbase.nich.go.jp/collection\\_items/tnm/C-1149?locale=ja](https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/C-1149?locale=ja)）を編集・加工したものである。
- ・本書に使用した写真・挿入図は、特に断りのない限り、奈良文化財研究所が著作権を有するものである。
- ・本書の編集は、奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室多言語チームの協議の上、高田祐一の指導のもと、扨素妍が担当した。

# I

## 論考



# 異言語間翻訳を超越する

——科学技術社会論の視点から見る文化財多言語化

吳 修喆・奈良文化財研究所

## Beyond Interlingual Translation: Rethinking Foreign-Language Texts on Japanese Cultural Heritage Through Science and Technology Studies

Wu Xiuzhe・Nara National Research Institute for Cultural Properties

翻訳/Translation 科学技術社会論/Science and technology studies  
アクターネットワーク理論/Actor-network theory  
サイエンスコミュニケーション/Science communication

### 1. はじめに

「とまり、きき、みて、とおれ」

職場近くの踏切に標示されているこの言葉がなぜか好きで、おそらくこの一行に何らかの詩情を感じたのだろう。試しに中国語に訳してみると、「停、听、看、过」となる。なるほど、悪くはない。悪くはないが、やはりどこか違う。中国語の動詞が単音節であるために原文のリズム感を再現できていないからか。もしそうでしたら、「停一停、听一听、看一看、再请过」のほうがリズム的に近いかもしれない。

現職に就くまでの2年半の間、筆者は個人研究を中断し、大学の中国語非常勤講師とフリーランス翻訳の二足の草鞋を履いて生計を立てていた。訳文を吟味するのはもはや一種の職業病である。奈良文化財研究所の多言語化アソシエイト・フェロー（AF）として着任してから、正確に言えば、このポストに応募した時から、〈多言語化〉と〈翻訳〉の違いについて日頃から考えるようになった。

奈文研の多言語化チーム（3名のAFが在任）は、奈良文化財研究所の多言語化





を加速させるために発足し、特別史跡平城宮跡および奈良時代の都城遺跡を訪れた外国人来訪客に向け、日本古代の歴史・文化への理解を深め、より効果的な展示解説・情報公開を目的とした事業を担当している。〈多言語化〉と聞くと、多くの人は「異言語間翻訳」を連想するだろう。実際には、専門的情報と一般向け情報の間における「同一言語内翻訳」も行われる。それは、言語の異同に関わらず、専門知識を非専門家にうまく伝えることによって、科学研究への関心や支援を取り付けるなどの結果が期待されるためである。また、既存の日本語解説は日本人読者を想定して書かれたものが多く、想定読者には外国人旅行者や翻訳者が含まれていない。そのため、翻訳者にわかりやすくなるよう工夫しなければならない(Yanase2021: 9-10 頁)。しかし、以上の点に注意を払って事前に工夫さえすれば、外注の翻訳で事足りるのではないか、いわゆる「多言語化担当者」は必要ないのではないと思われるかもしれない。このような誤解を招かないよう、本稿では、筆者が2020年9月から手がけてきた文化財多言語化業務を事例として取り上げ、多言語化の多種多様な実態を示すとともに、コミュニケーション機能としての〈翻訳〉を全体的にコントロールし、科学技術社会論的〈トランスレーション〉<sup>[1]</sup>をも担う多言語化担当者の役割について考察したい。本稿の主な目的は以下である。

- ・観光振興目的のツーリズム的多言語化から脱皮し、次なるフェーズを見定める
- ・文化財多言語化事業を科学技術社会論的〈トランスレーション〉概念として認識することで、文化財研究のイノベーションを促す刺激的かつ不可欠な要素として構造的に組み入れる重要性を説く

## 2.〈トランスレーター〉としての多言語化担当者

### 2.1 アクターネットワークにおける〈トランスレーション〉

事例分析を行う前に、まず本稿で導入する〈トランスレーション〉概念について簡単に紹介したい。科学技術社会論 (Science and technology studies = STS) とは、科学技術をめぐる歴史・理論・政策・コミュニケーションなど幅広いテーマを対象とした学際的な研究の総称である(浅野・田中・若杉2017: 264頁)。そのなかで、1980年代にフランスのB. ラトゥール、M. カロンおよびイギリスのJ.

[1] 両方とも英語では translation だが、異なる概念であるため、区別しやすいように本稿では後者をカタカナ表記にする。

ローの3人を中心に提起された「アクターネットワーク理論 (Actor-network theory = ANT)」というアプローチが影響を及ぼしている。ANTは、人間・非人間を問わず、事物や状況の構成要素の最小単位を「アクター」として捉え、そのアクター同士が接近・反発などしながらネットワークを構成するさまを捉えようとする方法論である。各アクターが当該ネットワークの要件にもとづいて適材・適所・適時に用意されることが「トランスレーション」と称される。そして、知識や技術が正確・有効なものとして確立され普及していく過程における専門家以外の人々や社会的要因の積極的な働きを認め、知識や技術も人々の関心や目的に応じて変形され増殖していくプロセスを描くのが、ラトゥールが提案した「トランスレーション・モデル」である (平川2005: 260頁)。

一言でいえば、〈トランスレーション〉とは、アクターたちが置かれている場面がどのようなものかをはっきりさせ、そのなかにおけるそれぞれの役割を明確にすることによって、他のアクターに働きかけたり、自ら行為したりすることを可能にするものであり、アクター同士の結び付き・協働の枠を作るプロセスである (大橋・竹林2015: 17頁)。このプロセスにおいて、それぞれのアクターのアイデンティティを把握し、アクター同士の間における相互作用の可能性を探り、必要な方策や実施方法を決めるのが「トランスレーター」の役割となる。要するに、トランスレーターはネットワークの構成要素である多くのアクターと関連するものが望ましい。一般的な状況で考えると、情報やデータがより集まりやすいアクターをトランスレーターに選んだほうが効率的である (唐磊2015: 42頁)。

奈文研では、多言語化担当者が中心となり、専門家・非専門家・文化財・展示施設・印刷業者・文化財情報・情報端末などのアクターを協働的ネットワークに動員し、トランスレーターとしての役割を発揮している。その実行過程を、次に挙げる「多言語化木簡リーフレット」の事例で説明したい。

## 2.2 多言語化木簡リーフレットのプロデュース

トランスレーションの各段階において、最初に行われるのは「問題化 (problematization)」<sup>[2]</sup> というものである。それは、あるアクターを別のアクターに対し、後者が解決したい問題の定義と解決の仕方として、前者が提案するものを受け入れるように働きかけ、後者を前者のネットワークに動員することを

[2] トランスレーション・モデルは問題化 (problematization)、関心付け (interessement)、組み入れ (enrolment)、動員 (mobilization) の四つのモメントからなるプロセスである (M. Callon 1986: p. 201)。

表している（出口2009：87頁）。木簡リーフレットの事例における「前者」とは、すなわちトランスレーターの役割を担う多言語化担当者である。では、他のアクターが解決したい問題とはどんなものか、簡単にまとめると以下のようになる。

- ・ 専門家（研究員）：研究成果にもとづき、日本の歴史文化を広く国民や訪日外国人に伝え、理解を促す責務をどう果たすか
- ・ 非専門家（非日本語話者の来訪客）：日本古代特有の文字表現や制度などの理解を必要とする、比較的「ハードルの高い」文化財である木簡を理解したい
- ・ 展示施設（平城宮跡資料館）：多言語による平易な解説を拡充していくとともに、来訪客が「手に取りたくなる」「読んでみたくなる」「共感してしまう」「持ち帰りたくなる」ようなリーフレットを製作・配布したい

ここで忘れてはいけないのは、多言語化担当者がこのネットワークにおいて、〈翻訳〉も行わなければならないことである。翻訳者としてまず解決したい問題は原文を入手することである。困ったことに、原文は最初から用意されているわけではない。なぜなら、一言で「ハードルが高い」と表現したが、各言語文化圏の人々にとって、木簡を理解する「ハードル」の具体的な様相は異なる。日本と同じく漢字文化圏に位置する国でも、現代まで漢字を使用している中国とほとんど漢字が使われなくなった韓国とでは、採用すべき説明手法が違ってくる。理解を阻む様々な障壁が言語ごとに存在するため、それらの文化的背景を考慮し、それぞれの言語文化圏に親和性が高いように、言語ごとに異なる内容を一から構成したほうが、単一の原文から翻訳するより良い効果が期待できる。

本来ならば、実際の来訪客へのアンケートやヒアリングなどをおして関心付け（*interessement*）のステップに移るが、コロナ禍の影響で、訪日外国人が減少しているため、新しく着任した多言語化担当者が自ら代表となり、それぞれの言語文化圏からの来訪客の関心要素を提案した。提案は展示施設が期待する効果に沿って、形と内容の二つの面から出された。まず、「手に取りたくなる」「持ち帰りたくなる」効果を目指すために、従来の小冊子型ではなく、変わったギミックで構成・印刷した楽しめるものを作る。また、「読んでみたくなる」「共感してしまう」ような内容を構成するために、デザインや原稿がすべて異なるリーフレットを作成することで、それぞれの世界観を表現することを提案した。また、形状と内容をマッチさせ、相乗効果を発揮させるというコンセプトを設定した。

上記のコンセプトを実現するためには、印刷業者というアクターをネットワークに組み入れる（*enroll*）必要がある。そこで、多言語化担当者が印刷業者を招

き入れ、両者による打ち合わせを行った。多言語化担当者は、自ら提案した形での印刷が可能かどうかを打診し、印刷業者は既製品のサンプルを持参した上で、それ以外の形も提案した。この段階で、英語版は「フラッパー」という特殊変形印刷を採用し、四コマ漫画風に木簡調査の流れを解説するという形式に決まった。韓国語版は奈良時代における貴族邸のコース料理をイメージに、中国語版は木簡を使ったクイズにする、という素案ができあがっていたため、内容とのマッチ度を吟味しながらそれぞれの印刷物の形が決定されていった。後日、印刷業者から印字されていない白いダミー製品が提供され、それにもとづいて、各言語版リーフレットの内容に関する詳しい打ち合わせが多言語化担当者と木簡担当研究員の間で数度にわたって行われた。以下の流れは中国語版のプロデュースを中心に説明する。

前記のように、各言語文化圏において木簡を理解するハードルは異なる。漢字の国である中国では、紙が普及する前の長い間、「簡牘」による書文化が発達していた。それゆえ、中国人にとって、記される内容はともかく、「簡」そのものは馴染みのある出土文字資料である。ただ、日本では木簡が紙と併用されていたことや、木簡の定義・分類・使用場面など詳しい情報については、一般向けに基礎知識を普及する必要がある。さらに、日本の木簡は漢字が書かれているが、そのすべてが中国から伝来したままの漢文というわけではない。中には漢字仮名表記による和文なども相当数あるため、それ相応のリテラシーを持たないと解読することが困難である。その難しさを面白さへ転化し、目標言語である現代中国語とリンクできるように、多言語化担当者である筆者は、リーフレットの内容をクイズ形式にすることを提案した。謎めいたイメージとマッチさせるために、一枚一枚開きながら読む「蜂の巣カット」仕様にしたデザイン案を出した。リーフレットのデザインにQRコードを入れることで、奈文研による「木簡庫」データベースもアクターとして組み入れられるようになった。

「役者」がほぼ揃ったところで、残りのステップは、ネットワークとして協働体をフル稼働させるための動員 (mobilization) である。まず、原稿を構成するために「クイズ」というテーマに沿った材料を収集する必要がある。そこで、中国人である筆者から答えとなる中国の熟語をいくつか候補に挙げ、研究員はその豊富な木簡知識にもとづき、熟語から連想できそうな文字や墨画がかかっている木簡を木簡庫からピックアップし、題として提供してくれた。最終的に、熟語連想クイズ3問および木簡の概念に関するクイズ1問が作られ、各問の答えの下に付く一言解説とコメントは、研究員から口頭で原案をもらい、筆者が中国語原稿を

書き上げた。さらに、その原稿はすぐに使用するのではなく、木簡を専門とする別のAFによって日本語に訳されたものを担当研究員と読み合わせ、見解の齟齬が生じていないかを確認した。ここまでの作業を経たのち、筆者が原稿文字を配置したレイアウト案を印刷業者に送付し、本デザインと製版を依頼した。

中国語版木簡リーフレットに入れたQRコードは二つある。一つは「木簡庫」データベースへのリンク、もう一つは中国語版解説シートのアドレスである。解説シートにはリーフレットに載せている各木簡の詳細情報が記されている。読者はリンク先の奈文研リポジトリからPDFファイルをダウンロード・閲覧することができる。「木簡庫」への案内と同じように、リーフレットで日本の木簡に興味を持った読者を「専門的領域」へといざなう。これは、奈文研が長年蓄積してきた文化財情報と読者の手元にある情報端末も、このネットワークのアクターであることを意味する。ちなみに、解説シートには研究員による日本語原稿が存在する。ここではじめて、〈翻訳者〉としての筆者が「通常」の異言語間翻訳業務を行った。翻訳が終わると、簡体字版・繁体字版をそれぞれ担当する2名のネイティブ校閲者の校閲を経て、研究員の最終チェックが行われ、ようやく最終段階である紙媒体での印刷・配布、そして電子版のリリースが可能となった。

以上、木簡リーフレットのプロデュース過程をとおして、多言語化担当者による〈トランスレーション〉の流れを紹介した。この事例において、異言語間翻訳が作業全体に占める割合が小さく、トランスレーターが戦略的に他のアクターと協働関係を構築する行動がメインとなる。今後の文化財多言語化事業にとって、この関係構築にかかった準備・適応するプロセスがきわめて参考になる。

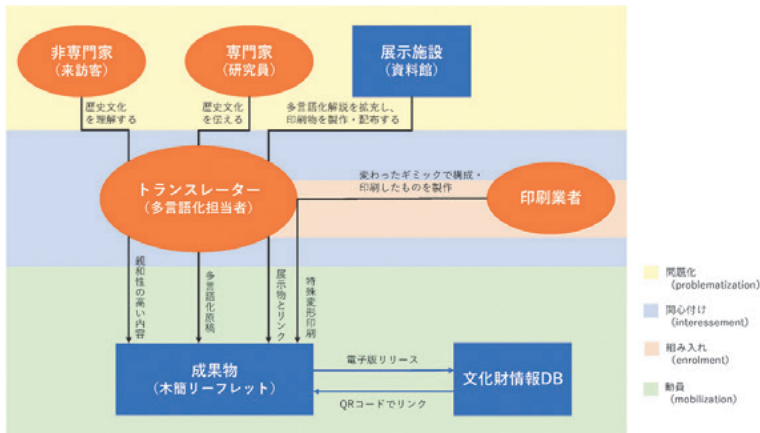


図1 木簡リーフレットのプロデュースにおける4つのモメント



### 2.3 専門家による一次情報を「プロトタイプ原文」とする

上記の木簡リーフレットの事例では、文化財情報データベースは既成のアクターとして取り扱われており、その働きがブラックボックス化<sup>[3]</sup>されているが、ここで、奈文研収蔵品データベース（以下「収蔵品DB」）を事例に、木簡リーフレットの節で詳しく説明しなかった文化財情報・情報端末の動員および同一言語内翻訳の実態を紹介し、多言語化データの整備に関わる具体的な作業について説明したい。

平城宮跡資料館では、多言語での解説の拡充を順次進めているが、館内の展示スペースには限りがあり、複数言語での解説をすべて掲示することは難しい。そこで、より効果的な展示解説と情報発信を目的に、奈文研は収蔵品DBを公開し、さらに、タブレットやスマートフォンなどのモバイル端末で閲覧できるアプリで多言語化解説の提供を開始した。収蔵品DBでは500件ほどの多言語化データが整備され、新たに撮影した展示品全品の写真および展示品の出土状況の写真や図面を追加している。アプリでアクセスできる展示品の解説は100件ほどあり、早稲田システム開発株式会社の「ポケット学芸員」という製品を利用している。展示品近くにある番号をアプリの検索欄に入力するだけで閲覧可能となっている。また、資料館内では2020年12月にフリーWi-Fiを導入した。

木簡リーフレットと同じように、アプリで閲覧できる多言語化解説文にも、翻訳元となる日本語原文は存在しない。したがって、最初の作業は、データ入力補佐員の協力の下、展示品のリストアップとプロトタイプ原文の作成である。プロトタイプ原文とは、奈文研が公開する「全国遺跡報告総覧」「学術情報リポジトリ」で各収蔵品の発掘調査報告書など文献資料を調べ、そこから当該収蔵品に関する記述を抽出したものである。情報が整理しやすいように、データ入力補佐員にプロトタイプ原文を「これは何」「どのようなもの」「その他説明」の3項目に分けて入力するように指示した。しかし、基本情報を洗い出したとしても、中には簡略すぎる記述もあり、展示解説として不十分な文章が多く見られる。多言語化担当者はそれらを元に、情報量を適宜に調整しつつ、各言語で記述を再構成していく必要があった。例えば、「漆紙文書」のプロトタイプ原文は以下のようなものである。

[3] ブラックボックス化とは、安定化したネットワークはより大きなネットワークの変動のなかで硬い点のように振る舞い、さらに他の要素を巻き込み、それらの関係を変えていくことである（平川2002：29-30頁）。

- ・これは何：漆片に文字のあるもの
- ・どのようなもの：オモテ面（漆の付着していない面）に4行の墨書が認められる。宝亀2年(771)の年紀があるが、月日のない点や記載位置からすると、文書作成年そのものとは考え難い。漆付着面に8行の墨書が認められる。内容は左京または右京の計帳で、ある戸の冒頭の統計記載である。
- ・その他説明：これが漆紙文書の中でも最も早く報告されたものの一つである。

非常に正確な記述であるが、はじめて「漆紙文書」という用語を目にした読者にとって、そもそも「漆紙」とは何なのか、なぜそのような紙に文字が認められるのか、などの基礎情報が不足している。収蔵品の命名（モノの判別・確定）に関する記述は、読者の信用を得るために、サイエンスコミュニケーションにおいて重要な意味を持つ。それを補った形で作成した中国語解説は以下のような文章となった。下線部は追加した情報である。

古人将废旧纸质文书用作漆罐盖子，被漆渗透的纸可抗腐蚀，因此得以留存至今〔古代では、廃棄文書が漆の入った容器の蓋として使われていた。漆に浸潤された紙は腐食されないため、現在まで残った〕。该藏品是最早报告的漆纸文书之一。表面（未附着漆的一面）可见4行墨字，其中包括宝龟二年（771年）的记述，但未涉及详细日期，并且，从文字的位置来看，很难认为这就是文书的实际写作年份。反面（与漆接触的一面）可见8行墨字，内容为左京或右京的征税账，有账簿开头对某户的统计。

このように、記述を「漆紙文書の定義」「当該収蔵品の位置付け」「詳細情報」と、全体から細部までという順番にした。

この事例をとおして形成された平城宮跡資料館におけるヒトとモノのネットワークは、以下の図式で表すことができる。

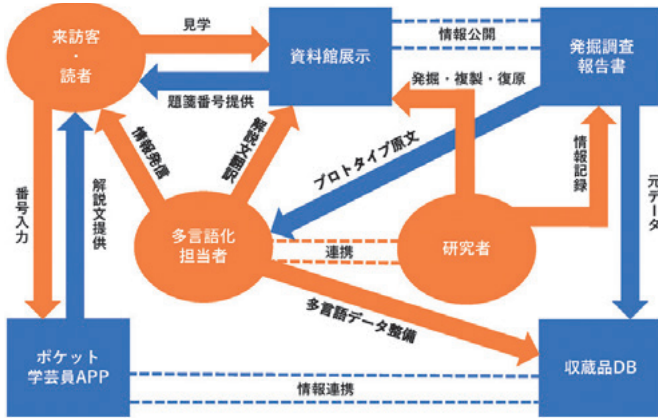


図2 平城宮跡資料館における人とモノのネットワーク

### 3. サイエンスコミュニケーションとしての多言語化

#### 3.1 専門家と非専門家の間

奈文研における文化財多言語化は、簡単に言うと日本語を読むことができない、または得意としない方に研究成果を発信する仕事であり、サイエンスコミュニケーションの分野に属する。実際、奈文研は、すでに資料館・資料室の活動を中心に多くのサイエンスコミュニケーションの実践をしてきた。また、オンラインでは「なぶんけんブログ」や「なぶんけんチャンネル」などWebコンテンツを積極的に展開している。

上記のように、文化財多言語化の作業は、翻訳すべき原文が存在しない段階から他のアクターを動員し、二人三脚で成果物を作り上げるケースがある。なら、原文がすでに存在する場合はどうなるか。たしかに、既存の一般向けコンテンツを異言語に翻訳すれば、それだけでも「多言語化」と言えるかもしれない。しかし、実際に翻訳作業をしてみればわかるが、日本人向けに書いた原文は必ずしも異言語翻訳用に適しているとは限らない。そのような場合、翻訳用の日本語原文を別に作成するか、翻訳の過程において多言語化担当者が適宜に内容や文体を調整する必要がある。

サイエンスコミュニケーションと多言語化にまつわる共通した誤解の一つは、「素人／外国人向けだから、わかりやすい文章に超したことはない」ということである。なぜ「誤解」かということ、受け手は必ずしもサイエンスの素人とは限らないし、「わかりやすさ」を優先すると別物になる恐れもあるからである（渡辺

2011:16頁)。そもそも、「公衆」の科学リテラシーを正確に想定することが不可能であり、また、受け手を限定することは逆効果をもたらす場合もある。ちなみに、脳科学研究者である筆者の友人は最近「弁護士からのメールを読んで、全部自分の知っている単語が並んでいるとなんとなくいやで、逆に自分の知らない単語がいっぱい入っているとうれしい」と言った。この言葉から示唆を受けた点が二つある。一つは、専門用語には「信頼性」を担保する機能を持っているため、専門用語を排除すればするほどいいコミュニケーションが取れるというわけではない。もう一つは、たとえ科学技術の専門家でも、分野が違えば当然ながら門外漢となることである。サイエンスコミュニケーションとは、相互の科学リテラシーの溝を埋める行為、ひいてはお互いの「常識」をすり合わせる行為でもある(渡辺2011:15頁)。

人はそれぞれ認知バイアスを持っているのは自然であるが、認知バイアスをひとえに有害なものとして捉えてはいけない。専門外の間人であるからこそ、時に「内部」の人が気づかないような用語の曖昧性に気がつく。非専門家として、外国人として、何重ものバイアスを持つ多言語化担当者は当然、気をつけなければ誤訳してしまう時もある。例えば、なぶんけんチャンネルで公開中のCG動画「平城宮へのご招待～奈良時代の政治の中心地～」のナレーション原稿の中に、「重層の門」という表現がある。辞書を引けば「二階建ての門」とわかるが、筆者は最初、外側・内側に設置する二つの門、あるいは二層の扉を持つ門と理解した。なぜなら、中国語には「重門疊戸」という四字熟語があり、「防衛のために何重もの門を設置している状態」という意味である。また、現代中国語の「双層門」をインターネット上で検索すると、筆者がイメージした扉が二層の門が出てくる。中国人として、「重層の門」という文字を見て真っ先にそのように想像するのは、さほど不思議なことではないかと思う。こうした思わぬ落とし穴を避けるためには、できるかぎり実物または図面を見ながら翻訳するか、随時研究員に相談するのがベストである。木簡リーフレットの事例のように、完成した訳文をもう一回日本語に訳して研究員に最終確認を依頼することの意味もそこにある。気づかないうちにお互いの「常識」に惑わされて誤訳が生じてしまうかもしれないからである。

同じく国営平城宮跡歴史公園内にある平城宮いざない館との差別化をはかるために、現在、平城宮跡資料館は既存の平城宮・京の展示に加え、考古学や奈良時代に限らない奈文研の最新の研究成果を展示公開する施設として位置づけられている。このような展示施設の来訪客や宣伝物の読者は、考古学など文化財科学関

連の従事者でないにしても、別領域の専門家か技術者、あるいは、研究者ではないが該当分野を愛好するいわゆる「〇〇オタク」である可能性が十分にある。奈文研の多言語化担当者はそれぞれ日本史・日本思想・文化研究を中心とした分野で個人研究を行っているが、文化財科学関連においては非専門家である。そういう意味でも、多言語化担当者は情報の送り手と受け手の中間に位置し、サイエンスコミュニケーションを円滑に進めるための〈トランスレーター〉として適任である。

### 3.2 ジャーゴンの処理

上述のように、バランスの良いサイエンスコミュニケーションを成立させるには、専門用語を残しつつ、受け手がより正確に理解できるように説明を補うという方法が有効である。ただし、多言語化において慎重に扱うべきなのは、必ずしも特殊な専門用語とは限らない。日常語であっても、コミュニティが異なれば業界特有のジャーゴンとなりうるため、異分野コミュニケーションの壁を崩すリテラシーの共有をはかる工夫が必要となる（渡辺2011：15頁）。例えば、2021年度の奈文研新人研修において、「出土建築部材の調査法」の研修資料に「イキ・シニの判別」という項目があった。講義中は何んともなく「イキ＝使用された当時の形状が保たれている状態、シニ＝折損や腐食など損傷によって原形が失われている状態」と理解をしていたが、研修後、講師の鈴木智大主任研究員に訊ねたところ、「必ずしも一般的な言い方でないかもしれないが、考古学にしても、建築史学にしても、皆さんなんとなく理解されている」との返答を得た。また、『出土建築部材における調査方法についての研究報告』に、「当初の形状を残す部分と残さない部分については、特に名称があるわけではない。ここでは便宜上、当初の形状を残す（生きている）部分を『イキ面』とし、当初の形状が残らない（死んでいる）部分を『シニ面』と呼び表すことにする（奈文研2010：17頁）」と、定義らしき記述が見られる。このような命名の仕方も研究者の思考が反映されているため、興味深い言語現象である。外国語で説明するにはやや難しいが、豆知識として注釈付きで紹介するのもいい試みではないかと思う。ここでは一例だけ挙げたが、研究者が使い慣れていて、なんとなく「共通語」と思われているが実は小範囲内でしか通じないような用語は他にもたくさんある。この問題に関する詳しい整理と議論は別稿に譲りたい。

その他、「なぶんけんブログ」の記事には、時々研究者の遊び心がうかがえる用語が登場する。例えば、「巡訪研究室（9）都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）史



料研究室」には「ざぶとん」と「なみへい」が出てくる。「ざぶとん」とは、木簡を水の入ったバットに入れて保管する時、木簡の下に敷く清潔なタオルのことである。これは奈文研内部における通称として使われている。「なみへい」とは木簡の洗浄に使う毛を一本だけにした研究員自作の筆のことで、日本人にはお馴染みの国民的アニメ『サザエさん』の登場人物である「磯野波平」にちなんだ名称である。これらのユーモラスな呼び方は、異なる言語文化圏の人には伝わりにくいが、生き生きとした研究者像を構成する文化的要素として、なるべく訳註付きの形で残し「物語」に組み入れたい。

### 3.3 研究の進展過程を記述するという事

最後に、もう一つ忘れてはいけないのは、「事実」と「常識」は常に見直されることである。どれほど専門的な一次情報も、「事実」ではなく「人間によって事実と主張されるもの」であり、それ自体が見直されていく可能性は常にある（野原2011：24頁）。「科学の不確実性 (scientific uncertainty)」<sup>[4]</sup>をサイエンスコミュニケーションで公衆に理解してもらうためには、現段階の通説だけでなく、新たな発見や知見が加わることで研究が進展していく様子をも解説中に記述すべきである。それによって、解説を更新する度に「物語」は成長し、より豊かで多彩な筆致で科学の歴史・研究の道筋を描くことができ、内容の陳腐化を防ぐことができる。

前述したように、平城宮跡資料館は平城宮いざない館など施設との差別化をはかるために、常設展にしても、特別展にしても、最新の研究成果にもとづくストーリー構成を心がけている。ただし、官衙復原展示コーナーの大極殿・大極殿院模型は1996年当時の研究成果にもとづいており、現在の研究成果と異なる部分が見られる。資料館のウェブサイトでは、歴史公園内に実際に復原された建物と見比べることをすすめている。その他、展示品の中にも研究の進展を反映するものがある。例えば、表面に残る痕跡から本来とある「栓」と考えられていて、「轆轤残材」と名付けられた木製品は、百万塔の未完成品の可能性が高いことがわかった。日本語の原稿にこのような情報が入っている場合、中国語に翻訳する時も省略せずに丁寧に訳す。多言語化担当者としては、海外も含めた研究動向を俯瞰し、発信する情報が古くなっていないか、背景知識として説明を補足する必要がある

[4] 知識の状態としては、自然現象や社会動態の化学的分析結果に、断言のできない内容が含まれている状態を指している。そしてこれらは、科学の知的努力によって低減可能か不可能か、のいずれかの性質をもつ（宗像2005：259頁）。

かどうかを常に確認しながら作業していくのが理想的である。

#### 4. おわりに

以上、筆者が2020年9月より多言語化担当 AF に着任してから、およそ一年間にわたって手がけた文化財多言語化業務を事例に、科学技術社会論の視点から分析を行った。事例分析をとおしてわかるように、多言語化の作業は単なる異言語間翻訳ではなく、多言語化担当者は文化財情報の送り手と受け手の間に介在し、サイエンスコミュニケーションをより円滑にするために、企画・動員・調整・翻訳・編集・情報発信・フィードバックなど、一連の働きを担っている。失敗の少ない文化財多言語化を推進するためには、多言語化担当者という「必須通過点 (obligatory passage point)」が必要である。

2021年7月に行われた奈文研の新人研修では、本中所長のレクチャーの最後に「『余計な』ひとこと」と題されたページがある。そこには、「今の風景との断絶やつなかりを意識し、ときどき上を向いて歩こう。人・社会との関わりの中で研究成果を振り返ってみて、常に気に留めよう」と書かれている。この言葉から、本稿冒頭で書いた踏切に立っているあの標識——「とまり、きき、みて、とおれ」と、どこか似た思いを感じ取ることができる。メタファーとして理解するならば、ここの「とおれ」を「超越せよ」と捉えたい。文化財多言語化は、日本の文化財研究に複眼的な視点を与え、文化間・言語間のギャップを逆手に取り、新しい知見を創造する行為として、次なるフェーズへと向かわなければならない。

#### 参考文献

- 浅野義弘・田中浩也・若杉亮介 2017 「アクターネットワーク理論の Fab への援用」『Keio SFC Journal』17 (1) : 260-275。
- Callon, Michael. "Some Elements of a Sociology of Translation: Domestication of the Scallops and the Fisher-Men of St Brieuc Bay." In *Power, Action and Belief: A New Sociology of Knowledge?*, edited by John Law, 196-223. Routledge & Kegan Paul, 1986.
- 出口雅敏 2009 「<世界>は、いかに記述されるのか：ブルーノ・ラトゥール著『虚構の「近代」—科学人類学は警告する—』川村久美子 (訳)、新評論、2008年」『生活学論叢』15 (0) : 78-89。
- 平川秀幸 2002 「実験室の人類学」金森修・中島秀人編『科学論の現在』、23-62頁、東京、勁草書房。
- 平川秀幸 2005 「拡散モデルと翻訳モデル」藤垣裕子『科学技術社会論の技法』、292頁、東京、東京大学出版会。
- 宗像慎太郎 2005 「科学の不確実性」藤垣裕子『科学技術社会論の技法』、292頁、東京、東京大学出版会。
- 奈良文化財研究所 2010 『出土建築部材における調査方法についての研究報告』
- 平成 18年度～21年度科学研究費補助金基盤研究 (A) (課題番号：18202026) 「遺跡出土の建築部材に関

- する総合的研究」研究成果報告、215頁、奈良。
- 奈良文化財研究所 2021 「平城宮跡資料館における木簡に関する多言語リーフレットの配布」 <http://hdl.handle.net/11177/9398> (最終閲覧日：2021年11月22日)
- 奈良文化財研究所 2021 「巡訪研究室 (24) 企画調整部 文化財情報研究室」 <https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2021/09/junpou24.html> (最終閲覧日：2021年11月22日)
- 野原佳代子 2011 「科学技術コミュニケーションの言語と機能—原発事故情報を翻訳理論で読む試み—」『専門日本語教育研究』13 (0) : 19-24。
- 大橋昭一・竹林浩志 2015 「観光事業論におけるアクターネットワーク理論の意義：ポスト・アクターネットワーク理論をふまえて」『観光学』12 : 15-25。
- 唐 磊 2015 「アクターネットワーク論研究 2 : ANTにけるデータの活用法及びメディアコミュニケーション研究での応用」『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書』291 : 37-45、千葉大学大学院人文社会科学研究所。
- 渡辺政隆 2011 「なぜサイエンスコミュニケーションなのか：『想定外』を想定するために」『専門日本語教育研究』13 (0) : 15-18。
- Yanase Peter 2021 「文化財の多言語化に失敗しないためには」『文化財多言語化研究報告』奈良文化財研究所研究報告第28冊、6-11頁、奈良。

## 文化財を「翻訳」する(二)

——飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文のブラッシュアップ——

吳 修喆・奈良文化財研究所

## Tips on Translating Cultural Heritage Information: A Case Study

Wu Xiuzhe・Nara National Research Institute for Cultural Properties

翻訳／Translation 山田寺／Yamadadera

## はじめに

2021年、奈良県桜井市に位置する山田寺跡は史跡指定100周年を迎えました。奈文研では、1976年から山田寺跡に対し計11次の発掘調査を行い、出土した建築部材を保存処理後、組み直し再現した山田寺東面回廊の一部を中心に、国の重要文化財に指定された山田寺の遺物を飛鳥資料館第二展示室にて常設展示中です。現在、山田寺跡は「飛鳥・藤原の宮跡とその関連資産群」の構成資産として、飛鳥・藤原地区の遺跡とともに世界遺産登録を目指しています。これを機に、多言語化整備の一環として、飛鳥資料館第二展示室のパネルテキストを英・中・韓に新訳して、公式サイトに公開する予定です。

前回は、外注翻訳を利用する時の注意点と訳文のブラッシュアップ方法を紹介しました。今回はチェックポイントに照らし合わせて、実際の訳文を使って説明します。

## チェックポイント&amp;ブラッシュアップ

## 凡例

|     |                  |
|-----|------------------|
| 下線部 | 主な修正箇所の原文        |
| 紫色  | 言い回し修正           |
| 青色  | 読みやすくするために追加した語句 |
| ピンク | 専門用語（対訳集参照）      |
| 赤色  | 誤訳修正             |
| 緑色  | 俗っぽい表現修正         |
| 橙色  | 固有名詞（既存訳参照）      |

### ☑ ネイティブから見て読みやすく自然な言い回しになっているか

#### 〈原文〉

7世紀、日本に仏教が根をおろします。それまで人々がみたこともない異国風の大建築が、飛鳥地方を中心に次々と作られていきました。仏教寺院は、わが国に流れこんだあたらしい文化を代表するものでした。

#### 〈外注訳文〉

7世紀時、佛教在日本扎根。以飞鸟地区为中心，许多此前人们从未见过的异域风情的大型建筑物在这个时期建成。佛教寺院是传入日本的新文化的代表。

#### 〈修正案〉

佛教于公元7世纪传入日本后，人们陆续在飞鸟一带建造了许多日本人此前从未见过的、充满异域风情的大型建筑。在当时传入日本的新文化中，最具代表性的便是这些佛教寺院。

- ・外注訳文は典型的な直訳で、語順が原文と完全に一致しています。日本語の「～を中心に」「～をはじめに」という慣用表現は、中国語では「以……为中心」「以……为首」と訳するのが基本ですが、文章によっては翻訳調が強すぎるように感じられます。ここでは「飞鸟一带」と表現を変えました。
- ・文章の全体的な流れをよくするために、時制を表す単語を補いました。

### ☑ 主語の省略などにより、意味が不明瞭な点はないか

#### 〈原文〉

これらの大寺院の建築のほとんどは、時代の変遷の中で地上から姿を消し、永遠に失われた、とするのがこれまでの常識でした。1982年、山田寺の発掘調査が、この常識をくつがえします。東回廊が倒壊した状況のまま、土中からみつかったのです。その後の数次にわたる調査の結果もあわせると、東回廊の建築部材千点以上が確認できました。

#### 〈外注訳文〉

此前人们认为这些大寺院的建筑，几乎都在时代的变迁中从世人眼中消失了，永远不见踪迹。1982年，山田寺的发掘调查推翻了这个常识。东回廊以倒塌的状态被人们从土中发现。加上之后的几次调查结果，发掘出一千多件东回廊的建筑材料构件。



## 〈修正案〉

在大众原本的认知中，这些大型寺院建筑几乎都已经随着时代变迁从地面上消失，不复存在了。然而，1982年，对山田寺遗址的**考古发掘**推翻了这个常识。因为**考古人员惊讶地发现**，山田寺的东面回廊竟保持着倒塌时的样子，原封不动地沉睡在泥土之中。经过后续的几次发掘，目前已经找到一千多件东回廊的建筑构件。

- ・「発掘調査」は対訳集を参照して「考古发掘」に修正しました。
- ・原文は、モノを主語とした文によって構成されているので、ヒトは出てきません。中国語では自動詞・他動詞の区別がなく、常識の持ち主や発掘調査を行う主体を入れないと、不自然に感じられるため、主語となるヒトを補いました。

 現代中国語で使わなくなった単語や、見慣れない表現はないか

## 〈原文〉

埋没していた東回廊は、木造寺院建築の現存する最古の实例であり、日本の建築をはじめとする文化の歴史を考える上でかけがえのない資料となるものです。はるかな時をへだてて残された、もろく、壊れやすい部材の保存のための科学的な処置には14年の歳月がかけられました。この展示室では、最も残存状態のよかった回廊の三間分の部材を使用して、当時の構造と規模がわかるかたちで組立て、山田寺の東回廊を再現しています。

## 〈外注訳文〉

被掩埋的东回廊是木造寺院建筑现存最古老的实例，**是研究以日本建筑为首的文化历史**时不可替代的资料。为了保存在遥远的时间长河里留下的脆弱、易碎的建筑材料构件，考古人员花了14年的时间对其进行科学的处理。在这个展示室里，采用保留状态最好的三**隔间**回廊的材料，以能展示出当时的构造和规模的形式组装，再现了山田寺的东回廊。

## 〈修正案〉

被掩埋的这段回廊，是木造寺院建筑中现存最古老的实例，**也是研究日本建筑等文化的历史**时无可取代的珍贵资料。为了保存这些从遥远时间长河中“**打捞**”上来的脆弱、易碎的构件，考古人员花费了整整14年时间对其进行科学处理。本展厅采用保存状态最好的三**开间**（**两根柱子之间的距离称为一间**）

回廊构件，成功地重现了山田寺东回廊倒塌前的结构与规模。

- ・前述したように、「～をはじめとする」を「以……为首」に直訳すると翻訳調になり、ここでは「日本建築等」にしました。
- ・外注訳文は「时间长河（時の河）」という比喻表現を使っていますが、これに合わせて、「発掘」という動作を「打撈（引き上げる）」にたとえました。
- ・「間」は古代建築用語ですので、対訳集を参照し、補足説明も入れました。

#### ☑情報に間違いはないか

〈原文〉

山田寺の建立については、聖徳太子の伝記『上宮聖徳法王帝説』<sup>じょうぐうしょうとくほうおうていせつ</sup>の用紙の裏に6行にわたって記した『裏書』にくわしい。その第1行目には「十三年辛丑年春三月十五日、浄土寺を始む」とある。浄土寺は山田寺の別名で、<sup>じよ</sup>舒明天皇13年（641）3月15日に山田寺の建設がはじまったのである。

〈外注訳文〉

关于山田寺的建立，在圣徳太子传记《上宫圣徳法王帝说》一书的背面，其长达6行的『**里书**』中有详细记载。第一行写着“十三年辛丑年春三月十五日净土寺始建”。净土寺是山田寺的别称，意思是舒明天皇13年（641）3月15日开始建设山田寺。

〈修正案〉

在圣徳太子传记《上宫圣徳法王帝说》的**背面**可找到6行关于创建山田寺的记载。其中第一行写到，“十三年辛丑春三月十五日净土寺始建”。净土寺是山田寺的别称，由此可见，山田寺始建于舒明天皇13年（641）3月15日。

- ・『裏書』とは古文書学の用語で、紙背に記された別の文章のことです。外注翻訳では、明らかにそれを書名だと誤解しています。

#### ☑口語的な表現や、俗っぽい表現はないか

〈原文〉

大化5年（649）、願主石川麻呂が中大兄皇子に対する謀反<sup>むほん</sup>の疑いにより、完成間もない金堂の前で自害。寺の造営は中断する。天武朝にはいって、伽藍の全体が完成することになるが、これには石川麻呂の孫に当たる、後の持統天皇の力が大きかったのだろう。

## 〈外注訳文〉

大化5年(649年), **山田寺之主石川麻呂因对中大兄皇子造反的嫌疑, 在即将完工的金殿前自杀。**寺院の修建因此中止。进入天武朝后, 在石川麻呂的孙辈, 后来的持统天皇的主导下, 寺庙的整体建筑完成。

## 〈修正案〉

大化5年(649), **发愿建造山田寺的石川麻呂遭人密告, 被疑对中大兄皇子(后来的天智天皇) 怀有谋反之心。石川麻呂深觉无力自证清白, 最终选择在完工不久的金堂前自杀。**寺院の修建因此中止。进入天武朝后, 在石川麻呂的孙辈——后来的持统天皇主导下, 寺院整体建筑得以完成。

- ・「造反」は民衆によるもので、体制に逆らう行動を指します。また、一般的に「謀反」より俗っぽいニュアンスがありますので、ここでは「謀反」とします。
- ・補足的な情報を入れつつ、日本古代史における事件の流れをわかりやすく解説してみました。

 施設名など、既存のオフィシャルな訳語に統一されているか

## 〈原文〉

山田寺の**仏たち**

現在、興福寺の宝物館にある**仏頭**と**東金堂**の日光・月光の両菩薩とは、もともと**山田寺講堂**に安置されていた**薬師三尊像**である。焼失した興福寺の**東金堂**を再建し、そこに安置するため鎌倉時代に山田寺から移したもので、その後、中尊の**薬師如来像**は、破損してその**仏頭**だけが残ったのである。

このほか、山田寺旧蔵とされる**阿弥陀三尊像**が、法隆寺献納宝物144号として、東京国立博物館に所蔵されている。台座の腰板背面に「山田殿像」の銘を刻んでおり、像の様式からすると、山田寺が完成した天武朝末年のころに寺に納めたのだろう。

## 〈外注訳文〉

山田寺供奉的**佛祖**

现在兴福寺宝物馆中展出的佛头和**东金殿**的日光、月光两座菩萨, 原本是安置在**山田寺讲经堂**中的**药师三尊像**。镰仓时期为了重建被烧毁的兴福寺的**东金殿**, 这三尊佛像从山田寺被移置过来, 之后中间一尊的药师如来像受损, 只

留下了佛头。

此外，被认为是山田寺旧藏的阿弥陀佛三尊像，作为法隆寺献纳宝物 144 号被收藏在东京国立博物馆。在其底座的腰板背面刻着“山田殿像”的铭字，从佛像的形制分析，可能是在山田寺建设完成的天武朝末年时收入寺庙中的。

### 〈修正案〉

#### 山田寺の佛像

现在兴福寺宝物馆中展出的佛头和兴福寺东金堂の日光、月光两座菩萨，其实原本是安置在山田寺讲堂中的药师三尊像。源平合战时期，为了重建被烧毁的兴福寺东金堂，兴福寺僧侣将这三尊佛像强行移至东金堂充当主佛。之后几经灾害，中尊药师如来像破损严重，目前只留有佛头部分。

此外，目前收藏于东京国立博物馆，作为法隆寺 144 号献纳宝物的阿弥陀佛三尊像也被认为是山田寺的旧藏。因为在其底座腰板背面刻有“山田殿像”铭文，从佛像的形制可以推测，该像可能是在天武朝末年，即山田寺建成时供奉于寺内的。

- ・「佛祖」は宗派の開祖、特に釈迦を指すやや俗っぽい表現です。ここでは文脈的に仏像のことを指しているので、「佛像」にしました。
- ・「東金堂」「山田寺講堂」は建物名で固有名詞ですので、既存訳に統一しました。
- ・原文では、山田寺の丈六薬師三尊が鎌倉時代に興福寺東金堂衆によって強奪された経緯がほぼ省略されているので、『山田寺発掘報告（本文編）』（奈良文化財研究所 2002）第 16 頁の記述を参照して情報を補いました。

### ☑ 専門用語などは対訳集を参照したか

#### 〈原文〉

軒丸瓦、垂木先瓦は八弁の単弁に子葉をもつ蓮華文がつく。金堂・塔・回廊・講堂、それぞれに同モチーフで、大きさの違うものがつくられ、重弧文軒平瓦と組みあう。

東回廊では、倒壊時に屋根にのっていたすべての瓦が、そのまま地面にずり落ちた状態で見つかっている。平瓦がどれくらいの重なりをもって葺かれていたか、あるいは、建物が使われた 350 年のあいだに、どの場所でどれくらいの補修がおこなわれたかなど、古代の瓦の使い方を示す非常に珍しい実例となっている。

## 〈外注訳文〉

**轩丸瓦**、**垂木先瓦**带有八瓣莲花单瓣有子叶的莲花图纹。**金殿**、佛塔、回廊、**讲经堂**，分别以同一主题，用大小不同的瓦片，与重弧文**轩平瓦**组合在一起。

东回廊倒塌时，屋顶上的所有瓦都直接掉落在地面上。**平瓦**是重叠多少层修葺而成的，或者在作为建筑物被使用的350年间，在什么位置进行了怎么的修补等，这些都是呈现古代瓦片使用方法的非常珍贵的实例。

## 〈修正案〉

山田寺的**瓦当**和**椽头瓦**均带有单瓣带子叶的八瓣莲花纹。这些主题图案相同、大小不同的瓦被铺设在**金堂**、塔、回廊、**讲堂**屋顶，与重弧纹**滴水**组合使用。

东回廊倒塌时，屋顶上所有瓦件都直接掉落到地面，原封不动地埋藏于土中。通过这段东回廊，我们可以直接得知当时**板瓦**铺了多少层，以及这段回廊实际被使用的350年间，在什么位置接受过怎样的修补等。对于研究古代瓦件的使用方法来说，它是非常珍贵的实例。

- ・瓦の名称は専門用語ですので、対訳集を参照して修正しています。

## おわりに

以上、前回「文化財を『翻訳』する—より良い訳文を提供するために—」に掲載された訳文校閲における基本的なチェックポイントをブラッシュアップ作業の事例で説明しました。主な修正箇所のほかに、文章表現を適宜修正しています。最後に、訳語を統一するのに重要な「□ 専門用語などは対訳集を参照したか」を追加しています。ただ、対訳集は必要に応じて随時修正・更新されますので、最新のものであるかどうかを確認してから作業しましょう。

# 韓国における文化財用語醇化に関する断想

—「<sup>ジル グ ルッ</sup>질그릇」の迷走を通じて—

扈 素妍・奈良文化財研究所

## What Happened to ‘Jill-gurut’? The Cultural Heritage Terminology Purification Movement in Korea

Ho Soyeon・Nara National Research Institute for Cultural Properties

韓国語／Korean 文化財用語／Cultural heritage terminology

ハングル醇化事業／Korean language purification movement

考古学用語／Archaeological terminologie 陶磁器用語／Ceramic terminologie

※本文における韓国語原文の用語集や新聞記事などは、筆者が適宜現代日本語で訳したものである。

### はじめに

20代の初め頃、一度、歯ブラシだと思って一ヶ月程使っていたものが、実はちいさな靴磨き用のブラシであることに気づいた経験があった。当時、家に遊びにきた友達に指摘されなければ、そのまま二ヶ月くらいは使い続けたらう。使用する時に違和感や硬すぎるといった感覚はあったが、そもそもそういうものだなと思いついていた。これはちょっと極端な例ではあるが、誰もが一度ぐらいいはこのような経験をすることがあるだろう。言葉においても、このようなことはしょっちゅう起こる。特に、翻訳や通訳をしていると、自分がネイティブとして完璧に理解していると考えていた言葉が、実は初見した外国語より知らなかったことを悟ることが相次ぐ。

「<sup>ジル グ ルッ</sup>질그릇」もそうであった。今年の上半期に多言語チームでは、文化財の多言語化において「土器」と「陶器」の定義が各国でブレがあると話題になったことがある。各国の文化や歴史が異なることを考えれば、定義のブレがあることは不思議ではないだろう。しかし、この場合、そのブレが文化財を多言語化する際のネックになる。説明を付け加えることができる付箋や説明文などはともかく、遺物名のみが表記されている付箋を多言語化する際にはどうすればいいのか。これが、多言語チームが直面した課題であった。その際、私は韓国語担当として、短い時間で調査が足りなかったことはあるものの、現在韓国の定義や用例を調べて、次のような図と文章にまとめ、6月の室長会議資料や部員会議資料として提出した。



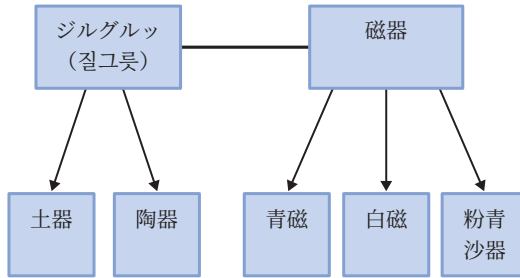


図1 日本語で翻訳した유홍준の<図2>

→ところが、韓国文化財庁は「韓国では日本の翻訳物に従い、土器・陶器・炆器・磁器と区分する」としている（『陶磁器保存・管理案内書』2014年）。考古学や美術史学によって定義のズレがある。ジルグルッ（질그릇）を土器という意味で使う用例も散見。

▶韓国内部での用例や定義にばらつきがある。

この資料の図は、主に「陶磁器分野分類体系及び基本用語の翻訳に関する考察」という論文（박현주, 2019）に載った俞弘濬<sup>[1]</sup>氏の<図2>を翻訳して、作成したものであった。部員会議においては、これに基づいて報告した。ところが、会議後、国際遺跡研究室の研究者から、次のような質問を受けた。

ジルグルッ

질그릇は北朝鮮の考古学で使用する用語で、韓国の考古学では使ってないと知っていますが、どうですか？

これは想定外の質問であった。考えてみれば、多言語業務に就く以前から私は考古学や歴史学における北朝鮮の影響をほとんど意識したことがなかったことに気づいた。また、確認したところ、実際に北朝鮮では考古学の専門用語として論

[1] 韓国で著名な美術史学者で、『私の文化遺産踏査記』という著書が1990年代大ヒットし、『私の文化遺産踏査記』1・2・3は2000年には200万部以上の売り上げであった。現在まで、『私の文化遺産踏査記』のシリーズは18巻に至っている状態である。ソウル大学校の美学科出身で、成均館大学校で哲学博士号を取得した。『私の文化遺産踏査記』を出版した時は、嶺南大学校の教授で、2002年に明知大学校の教授になり、2006年には文化財庁長に任命された。現在は、韓国学中央研究院の理事長である。「80년대 미술운동 돌아보는 전국 순회전」『연합뉴스』1991.11.27; 「책마을 이야기」 베스트셀러, 출판사 얼굴은 아니다」『東亜日報』2000.5.5; 「명지대, 유홍준 교수 영입」『韓国経済』2002.1.14; 「<프로필> 유홍준 문화재청장」『연합뉴스』2004.9.1; 「한국학 중앙연구원 이사장에 유홍준 석좌교수 선임」『해럴드경제』2021.6.30.

文や報告書などにも使用されていた<sup>[2]</sup>。そのような事実を知らなかった自身が恥ずかしかった。同時に「ならばなぜあのような図が韓国の論文に載っているのか」「韓国における文化財用語として질그릇<sup>ジルグルッ</sup>は用例があるのか」「そもそも질그릇<sup>ジルグルッ</sup>とは何を示すのか」などの疑問が生じた。本稿は、このような疑問に答えようとする試みである。そのため、辞典類や用語集の定義と解説を探り、また、新聞記事を取り上げて、用例や当時の雰囲気を検討する。

## 1. 「질그릇<sup>ジルグルッ</sup>」とは

まずは、「질그릇<sup>ジルグルッ</sup>」の辞典的な意味を探ってみる。질그릇<sup>ジルグルッ</sup>は韓国の国立国語院が提供する『標準国語大辞典』には「釉を塗っていない、泥土のみを焼いて作った器。表面につやがない。」<sup>[3]</sup>と定義されている。すなわち、土で作った器、土器という意味を含んでいる。ならば、「土器」の場合はどうだろうか。同じ『標準国語大辞典』から確認したところ、「土器」には二つの定義があって、一つ目は「歴史」の専門分野の用語と分類<sup>[4]</sup>されていて、「原始時代に使われた、土で作った器。模様、文様などで民族や時代の特色を表す」となっている<sup>[5]</sup>。二つ目は「工芸」に分類されていて「泥土で作って釉を塗らずに焼いた器」となっている。ここから、土器の場合は、「歴史」と「工芸」という分野に分けて定義されていて、歴史分野では時代や民族の特徴を帯びたものとして提示されていることが分かる。

一方、「질그릇<sup>ジルグルッ</sup>」と「土器」のより専門的な定義は『韓民族文化大百科事典』から確認できる。ここで「질그릇<sup>ジルグルッ</sup>」は、「陶土、つまり泥を材料にして土焼き窯で焼いた容器」と定義し、その内容について次のように説明している。

一般的に陶器をいう。질그릇<sup>ジルグルッ</sup>として「陶器」は現在、土器と陶器に分かれて使用されている。土器という名称が20世紀に入って使われる用語であるのに

[2] 사회과학원 고고학연구소편 『조선 고고학개요』(세남, 1989); 한창균 『북한 고고학 미술사 용어집』(백산자료집, 1996)。

[3] 『표준국어대사전』 「질그릇」([https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word\\_no=484479&searchKeywordTo=3](https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word_no=484479&searchKeywordTo=3), 2021.11.22 閲覧)。

[4] 『標準国語大辞典』の凡例の「01 表題語の範疇と専門領域表示」によると「専門語と固有名詞には該当専門領域を表示した」と提示されている。『표준국어대사전』 「일러두기」([https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word\\_no=266066&searchKeywordTo=3](https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word_no=266066&searchKeywordTo=3), 2021.11.23 閲覧)。

[5] 『표준국어대사전』 「토기」([https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word\\_no=496515&searchKeywordTo=3](https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do?word_no=496515&searchKeywordTo=3), 2021.11.22 閲覧)。

対し、三国時代から今日に至るまで広く使われた言葉は陶器であった。陶器には弱い軟質陶器と硬い硬質の硬質陶器があり、釉薬を塗った施釉陶器や釉薬を塗らない無釉陶器がある<sup>[6]</sup>。

このように、『韓国民族文化大百科事典』によると、<sup>ジルグロッパ</sup>질그릇は「陶器」であり、その理由は、「土器」という名称は20世紀に入って使われる用語であるが、「陶器」こそ、三国時代から使用され続けて来た言葉であるためだとされている。ここで、一つ、注意しておきたいのは、<sup>ジルグロッパ</sup>질그릇が『韓国民族文化大百科事典』には「工芸」の「概念用語」として提示されている点である。

また、『韓国民族文化大百科事典』で「土器」<sup>[7]</sup>は「先史文化」の「概念用語」として掲載され、「粘土を練って500℃以上の高温で焼成した容器」と定義されている。また、その内容において、まず、「今から1万2千年前に発明された土器は世界各地で使用された人類の最も一般的な生活容器の一つとして人類文化の発展に大きく寄与した」と土器の意義を説明した後、「土器」と「陶器」という項目を設けて「瓦質土器」と「陶質土器」について述べている。「瓦質土器」は窯の底が水平をなして、その温度が850～950℃までになり、その温度で焼成したもので、その温度では胎土に含まれている酸化アルミニウムや珪酸などが溶融することができないため、土器表面に被膜が形成されないと説明している。一方、「陶質土器」については、韓国の三国時代と日本の古墳時代には、窯の温度を1000℃以上にすることができるトンネル式窯が登場して、胎土の中の酸化アルミニウムと珪酸が堅固な結晶にかわり、その体積が減ることによって「陶質土器」が生産されたと説明している。すなわち、ここでは実際に三国時代に「土器」という言葉が使われたのかの問題ではなく、どのような環境と技法によって制作されたのかを中心に「土器」という言葉の内容を説明している。

以上の定義を総合すると、<sup>ジルグロッパ</sup>질그릇は土で作った「陶器」であって、「土器」は韓国の歴史においては近代まで使用されていない言葉であった。しかし、「土器」は「粘土を練って500℃以上の高温で焼成した容器」であり、「人類の最も一般的な生活容器の一つ」で、韓半島には「瓦質土器」と「陶質土器」が存在したことになる。このように、同じ事典の中でも、<sup>ジルグロッパ</sup>질그릇、「土器」、「陶器」の定義が揺

[6] 『한국민족문화대백과사전』 「질그릇」 (<http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/SearchNavi?keyword=%ED%86%A0%EA%B8%B0&ridx=1&tot=766>, 2021.11.25閲覧)

[7] 『한국민족문화대백과사전』 「토기」 (<http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/SearchNavi?keyword=%ED%86%A0%EA%B8%B0&ridx=1&tot=528>, 2021.11.25閲覧)

れていることがうかがえる。もちろん、各分野において使う用語には、おなじ言葉であっても定義が違うことは珍しくない。しかし、このように、一方では相手を全面否定しているのに、向こうではそのような反応を全く無視しているような状態は中々珍しいと考えられる。ここからも見て取れるように、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」、「土器」、「陶器」の定義は専門分野によってずれがあり、分野によっては専門用語として認められていないような、もやもやする食い違いがある。ここで生じうる質問は次であろう。なぜこのような状況に至ったのか。

## 2. 植民地期の「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」

「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」という用語の根はどのようなものであったのか。どのように認識されて、使用されてきたのか。なぜ、近年、文化財用語として浮上したのかについて考察する第一歩として、植民地朝鮮では「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」がどのような意味で使われていたのかを検討する必要がある。そのため、ここにおいては、1920年に創刊されて強制的に廃刊になった1940年まで、植民地期の代表的な朝鮮語新聞であった『朝鮮日報』<sup>[8]</sup>と『東亜日報』<sup>[9]</sup>の記事を通じて近代における「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」の使用例を分析する。

1920年から1940年まで、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」という言葉が使用された記事は『朝鮮日報』と『東亜日報』を合わせて138件確認できる<sup>[10]</sup>。その中で、132件は「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」をハングルのみで表記して、その定義などは述べられていなく、記事の脈絡からみれば一般に使われる器という意味で使用されていたと考えられるものが多い。ところが、1921年9月17日の『朝鮮日報』には「有望な陶器業」という題目の新聞記事が掲載される。その内容は朝鮮社会で工業が発達していないのは、朝鮮王朝

[8] 一九二〇年三月五日に朝鮮貴族及び大地主などを軸としていた大正親睦会によって組合組織として創刊。パク・ヨンギユによると、これまで民族主義左派の論調を振るった新聞だと評価されてきたが、実際に民族主義左派が結集したのは一九二七年からであり、『東亜日報』と比較して論調は一貫していなかった。박용규 『식민지시기 언론과 언론인』(소명출판, 2015), 五九～一一一頁・二八五～二八七頁。

[9] 一九二〇年四月一日に創刊。創刊時から民族主義を標榜し、全体的論調は民族改良主義であった。同上、五九～一一一頁。

[10] Naver News Library で「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」を検索した結果の画面。(https://newslibrary.naver.com/search/searchByKeyword.naver#%7B%22mode%22%3A1%2C%22sort%22%3A0%2C%22trans%22%3A1%2C%22pageSize%22%3A10%2C%22keyword%22%3A%22EC%A7%88%EA%B7%B8%EB%A6%87%22%2C%22status%22%3A%22success%22%2C%22startIndex%22%3A1%2C%22page%22%3A1%2C%22startDate%22%3A%221920-03-05%22%2C%22endDate%22%3A%221999-12-31%22%7D, 2021.11.11 閲覧)。

期からであり、そのため磁器や陶器も徐々に減少しているが、「陶器（ジルグルッ）」<sup>[11]</sup>は朝鮮内で需要があることを論じるものである。ところが、この記事では、「高麗時代磁器（陶器）」「陶器（陶器）」という表記も並列になっているため、記者が土で作った器を全て「陶器」と認識したことが読み取れる。このように「陶器」と「ジルグルッ」を（ ）に入れて並列している例や「ジルグルッ」を「陶器」と同じものをしめす言葉として使用した例は、この他にも1930年代まで散見できる<sup>[12]</sup>。しかし、「ジルグルッ（磁器）」と表記した例<sup>[13]</sup>もあり、この時期には統一されていないことがうかがえる。

一方、「土器」の場合、「産業發達の由来（続）」<sup>[14]</sup>「原始時代の芸術（六）」<sup>[15]</sup>「近世朝鮮商工業の發達史（四）」<sup>[16]</sup>「新發掘した古物問題で慶州市民の奮起」<sup>[17]</sup>「多数發掘された樂浪古跡、今後五日調査完了」<sup>[18]</sup>など<sup>[19]</sup>、歴史や考古学における専門用語として、その分野に関わる記事に使用されたことが確認できる。

そうであるならば、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」に「土器」まで含めての言葉という認識はどこからきたのか。その手掛かりになるのが、1936年12月17日の『朝鮮日報』に連載された「朝鮮語標準語集」という記事である。この連載記事は1936年11月1日から同年12月27日まで45回にわたって、朝鮮語の標準語を（同義語）（近似語）（略語）にわけて、その言葉を羅列して、正しい標準語の様子を提示する内容になっている。この「朝鮮語標準語集」は「朝鮮語標準語査定委員会」によって作成されたものである。

「朝鮮語標準語査定委員会」とは、1933年に『朝鮮語綴字法 統一案』を刊行し

[11] 「도기(질그릇)」と表記されている。「有望한陶器業」『朝鮮日報』1921.9.17。

[12] 「日本全國에 遍滿한 = 巨額의 偽造銀貨」『東亞日報』1925.1.26；「消夏諷刺漫筆(8)」『東亞日報』1929.6.25；「陶器製造場보고 朝鮮의 歷史的 器物인 "질그릇" 製造村踏查코」『東亞日報』1931.8.1；「保險金請求訴」『朝鮮日報』1936.8.31。

[13] 「生活難과 愛子情에 ぞ들리는 一朵花」『東亞日報』1929.5.29。

[14] 「産業發達の由来(續)」『朝鮮日報』1920.8.9。

[15] 「原始時代の藝術(六)」『東亞日報』1920.5.18。

[16] 「近世朝鮮商工業の發達史(四)」『東亞日報』1921.4.23。

[17] 「新發掘한古物問題로 慶州市民의 奮起」『東亞日報』1921.10.22。

[18] 「多数發掘된 樂浪古跡 今後五日調査完了」『東亞日報』1924.11.11。

[19] 「新羅古蹟案内」『東亞日報』1924.1.02；「數百餘點의 塚藏古器發掘」『朝鮮日報』1926.6.2；「古朝鮮・古文化」『朝鮮日報』1926.6.28；「古釜鼎發掘」『東亞日報』1928.6.8；「古蹟巡訪(1) 燦爛한 新羅文化」『朝鮮日報』1928.11.17；「高麗時遺物 面鏡과土器 최승대서 발간」『東亞日報』1929.8.19；「漢高祖의 名臣韓信의 古墳發見」『朝鮮日報』1933.12.22；「續續發見되는 高句麗文化의 精華」『朝鮮日報』1933.5.12など。

た朝鮮語学会<sup>[20]</sup>の主催で結成された委員会であり、1935年1月1日の午後5時から温陽温泉の靈泉医院という所で第一読会を開催<sup>[21]</sup>した。6日まで続いたその会議において彼らは、朝鮮語の標準語を「交通・政治・文化の中心地である京城語」から、また、「通俗的でまた、中流階級以上の言語」から選定するため、討議及び査定することを決定し、査定語彙4500余語を審議・査定した<sup>[22]</sup>。ところが、第一読会では査定できなかった残りの語彙を査定し、また、すでに審議された査定語彙を修正する委員を設けて、同年3月に「第二読会」を開催し、再び査定することを決定した<sup>[23]</sup>。ところが、「第二読会」は3月ではなく、同年8月4日から9日まで京城の牛耳洞において開催された。ここでは第一読会に参加した30名の委員に、40名の委員を加えて総70名の委員が第一読会で決定された査定語彙を補充及び修正した4000余語と「ハングル文法統一案」の附録の「標準語」までを合わせて審議した<sup>[24]</sup>。この「第二読会」では、標準語査定の意義について、臨時議長の李熙昇が「『朝鮮語辞典』を編纂するための前提事業になる重大な」作業であると述べたという<sup>[25]</sup>。

「朝鮮語標準語査定委員会」の最終査定会は翌年の7月31日に仁川府牛角里の仁川公立普通学校で開かれた<sup>[26]</sup>。この「第三読会」では原案の5669ヶ語を審議し、そのうち、3001個を標準語として決定し、それに対して修正委員が修正を終えると共に発表することまで確定した<sup>[27]</sup>。そして、同年11月1日、ハングル記念490

[20] 民族主義國語学を提唱し、大韓帝国時代から韓国語の整備を率いた人物である周時經の学派を継いだ団体。その前身は周時經の弟子である張志暎・申明均・李秉岐などが1921年12月創立した朝鮮語研究会である。この朝鮮語研究会は1920年代を通して朝鮮語講習会を開き、1924年にはハングル日を制定、1929年には朝鮮語辞典編纂会を創立するなど、植民地期において朝鮮語研究と普及を図った団体であった。1931年には名前を「朝鮮語学会」に改めて、國語啓蒙運動を行い、1933年には『朝鮮語綴字法統一案』を、1936年には「標準語査定案」を、1940年には『外来語表記法』を発表した。최경봉 「쟁점: 일제강점기 조선어학회 활동의 역사적 의미—『해방 전후사의 재인식』에 나타난 인식 태도를 비판하며—」 『민족문화사연구』(민족문화사학회・민족문화사연구소, 2006); 김석득 「근・현대의 국어(학) 정신사—국어연구학회에서 조선어학회 수난까지, 그 역사적 의미—」 『한글』 272(한글학회, 2006)。

[21] 「우리말을精選할標準語査定委員會」 『朝鮮日報』 1935.1.4。

[22] 「通俗的京語를選擇 우리말標準語査定」 『東亞日報』 1935.1.5。

[23] 「修正委員에一任 今春中에再審査」 『朝鮮日報』 1935.1.8。

[24] 「標準語査定 二讀會終了」 『東亞日報』 1935.8.11; 「標準語査定 二讀會閉幕」 『朝鮮日報』 1935.8.11; 「標準語査定 着着審議進行」 『朝鮮日報』 1935.8.7。

[25] 「標準語査定 着着審議進行」 『朝鮮日報』 1935.8.7。

[26] 記事によると、その間数十回の修正委員会が開催されたが、大会としてはこれが最後になるという。「朝鮮語標準語 最終査定會」 『東亞日報』 1936.7.29。

[27] 「標準語査定 第三讀會終幕」 『朝鮮日報』 1936.8.3。



周年を迎えるハンゲルの日に『朝鮮日報』において、この成果が「標準語」として発表される<sup>[28]</sup>。上記の連載記事はこのような脈絡の中で、「標準語」の用例を紹介する場として設定されたのである。

ここで、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は「土器（無潤）」の「近似語」として提示されている<sup>[29]</sup>。一方、同記事で「陶器（有潤）」の「近似語」として提示されている朝鮮語標準語は「<sup>オジグルッ</sup>오지그릇」である。『韓国民族文化大百科事典』によると、「<sup>オジグルッ</sup>오지그릇」とは「赤い泥土で作って日で乾かした後、上薬を塗って焼いた器」を意味する<sup>[30]</sup>。つまるところ、この「朝鮮語標準語集」では「上薬」による「潤」の有無が土器と陶器を分ける基準になっていることが分かる。そして、この記事から、「朝鮮語標準語査定委員会」は「土器」と「陶器」いう漢字語をハンゲル言葉の中に位置づけようとしたことが読み取れる。しかし、前述した通りに植民地期では、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は日常に使われる土で作った器という意味で使用され、主に先史・古代の遺物を示す「土器」とは距離があったと考えられる。その上、この標準語制定は、朝鮮語学会の朝鮮語辞典編纂事業の基盤になるものであった。ところが、植民地朝鮮における日本語普及の拡大を図っていた総督府は「標準語査定案」が10月28日に公式に発表されると、朝鮮語学会の大衆集會を禁止し、国語〔日本語―筆者註〕常用化政策をより強圧的に行い、標準語を普及する機会を与えなかった<sup>[31]</sup>。そのため、この標準語査定の事業によって「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」が「土器（無潤）」の「近似語」であるという認識は、植民地期の朝鮮社会に普及されたとは考えにくい。ところが、この事業が、すでに存在している朝鮮語の言葉を「標準語」として査定したものであることを考えれば、朝鮮人たち、特に京城の識字層朝鮮人たちには「潤のない土で作った器」は朝鮮語で「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」であり、「土器」と近い言葉という認識を共有していたため、このように査定されただろう。

[28] この記事によると朝鮮語の標準語を作成した理由は、「朝鮮語辞典編纂の一基礎工作」として「朝鮮語綴字法統一案」と「朝鮮語標準語」事業を合わせ6ヶ月の時間をかけて完成したという。また、標準語査定委員は「各文化事業機関に従事し、また、言語方面に興味をもっている人」で、「京城や近畿で生長した人」が全委員数の過半になるように選定したと述べられている。李克魯「ハンゲル記念四百九十周年 標準語発表に際して」『朝鮮日報』1936.11.1。

[29] 「조선어표준말모음 (37) 돌재, 비숫한말 (近似語)」『朝鮮日報』1936.12.17。

[30] 『한국민족문화대백과』「오지그릇」(<http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/SearchNavi?keyword=%EC%98%A4%EC%A7%80%EA%B7%B8%EB%A6%87&ridx=0&tot=3>, 2021.11.11閲覧)。

[31] 総督府は朝鮮を植民地にして以来、一貫して国語、すなわち、日本語の常用化政策を推進した。しかし、急進的な推進よりは、二個言語併用政策を採択していたが、それは学校においては朝鮮語科目の授業を許し、日本人役人及び警察などに対しては朝鮮語の取得を奨励する政策であった。しかし、朝鮮語科目の授業を許したとしても、朝鮮語科目を除いた科目は全て日本語で行われたため、朝鮮人学生の学力低下は避けられず、学生たちの抵抗が続いた。최경복前掲論文、421・425-426頁。

以上のように、植民地時代には「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は「陶器」と、また、「土器」とも結びついて使われた用例はあるものの、全体使用例をみれば歴史学や考古学の専門用語ではなく、一般的に土で使った素朴な器という意味で使用されたと考えられる。ところが、1936年には「朝鮮語標準語査定委員会」によって、「土器(無潤)」の「近似語」として提示されるが、これもまた、専門用語として使用することを提議したわけではなく、むしろ「標準語」を確定することが重要であった。すなわち、植民地時代には、そもそも「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は専門用語として定義や用例が論じられたことがなかったのである。それは、次章で解放後に韓国の専門家たちが指摘する通りに、当時、歴史学や考古学という専門分野は日本人が中心になっているため、そのような問題提議が難しい状態であったためであろう。

### 3. 「文化財用語醇化」の動きと「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」

それでは、いつから「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は専門用語として論じられるようになったのか。Naver News Libraryの新聞記事らからみれば、すくなくとも1970年代まで「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」が歴史学や考古学の専門分野に関わる用語として使われた例は数少ない<sup>[32]</sup>。一方、陶磁器分野の記事ではその用例が少なくないことが確認できる<sup>[33]</sup>。

このような雰囲気反映された結果か。1979年に文化広報部<sup>[34]</sup>が刊行した『韓

[32] Naver News Libraryで1947年から1979年の間、「질그릇(ジルグルッ)」を検索すると、『朝鮮日報』『東亜日報』『毎日経済』『京郷新聞』に合わせて221件の記事が出てくる。しかし、その中で、「질그릇(ジルグルッ)」が歴史学や考古学の専門用語として登場するのは5件位である。「慶州文化財의今昔(2)金鰲山」『東亜日報』1961.11.05;「檢証앞고封土」『朝鮮日報』1968.11.21;「高麗葬때 쓴 노그릇발견」『京郷新聞』1968.4.3;「大邱 高麗磁器등發掘」『東亜日報』1970.3.11;「韓國의陶窯址보고 큰공부」『朝鮮日報』1970.4.14。

[33] 「陶磁器바자會」『東亜日報』1961.12.18;「實用·家内副業을 兼한내손으로 만드는 질그릇(ジルグルッ)」『朝鮮日報』1963.11.30;「國寶級美術品密輸出을企圖」『朝鮮日報』1966.3.18;「첫陶藝展을연 金碩煥 여사」『朝鮮日報』1967.11.19;「말고먼 完熟에의 길 현대陶藝展」『東亜日報』1970.8.31;「國寶순례 高麗靑瓷「고요의美」 담긴 뛰어난線과色...産地는全南北」『朝鮮日報』1971.10.22;「韓國의 再發見國寶·寶物을찾아 <29> 陶磁器篇—(5)」『京郷新聞』1973.10.30;「頂上에 도전하는靑少年들 ④ 陶瓷器細工 朴大鉉·劉永昌君」『朝鮮日報』1976.1.29;「李朝「노란색 찻잔」再現 慶南梁山도예가 申正熙씨」『東亜日報』1978.10.23;「家業 그脈을 찾아 ②「古水 자기」의 固守현장 窯業」『朝鮮日報』1979.1.26;「神祕의 傳統도예 再現 名匠 申正熙의 작품 세계」『朝鮮日報』1979.6.13など。

[34] 現在の文化体育觀光部の前身。文化・芸術・世論調査・言論・宣伝及び報道に関する事務に携わった中央行政機関。大韓民国政府樹立時、國務総理の直屬機関として設置された広報処が、1955年に大統領直屬機関である広報室に改編、1961年になっては広報行政の中央部署として広報部が発足したが、文化広報部の前史である。そして、1968年、文化広報部になり、それまで文教部で携わっていた文化財管理局と博物館を含む文化芸術業務を移管された。『한국민족문화대백과』「문화공보부」(<http://encykorea.aks.ac.kr/Contents/SearchNavi?keyword=%EB%AC%B8%ED%99%94%EA%B3%B5%EB%B3%B4%EB%B6%80&ridx=0&tot=17>, 2021.11.23閲覧)。

英文化財用語集(A Glossary of Korean Arts & Archeology(Korean-English))<sup>[35]</sup>では、「ジルグルッ질그릇」が「陶磁器」部分の用語として提示されている。この用語集は、「建築」「考古学」「工芸」「陶磁器」「彫刻」「絵画」の6つの分野に分かれ、各分野の用語を英語で対訳したものと、用語に対する韓国語説明とその英語訳が一つのセットになっている。ここで、「ジルグルッ질그릇」の英語対訳は「Unglazed earthenware, biscuit ware」となっていて、韓国語説明には「泥土のみで焼いて作り、上薬を塗ってない器」と述べられている<sup>[36]</sup>。一方、「考古学」の部分には「土器」がなく、「土器片」と「陶器」が載っている<sup>[37]</sup>。このように、「ジルグルッ질그릇」は1970年代には「陶磁器」の分野で、専門用語として吸収されつつあったことが読み取れる。

しかし、文化財用語の問題が本格的に台頭するのは1980年代からである。1982年10月5日、「良い我が言葉を使わずに外来語が横行 文化財用語」<sup>[38]</sup>という記事が『朝鮮日報』に載る。この記事は、文化財の用語として主に外来語で表記されている当時の状況を批判し、「国語醇化推進委員会」が「国民的な克日運動」に相まって提議した「文化財用語のハングル化」を紹介する内容になっている。記事によるとこの委員会は先月30日の第51回定期月例朝食会に当時、文化広報部の文化財専門委員であった金基雄博士を招聘し、文化財用語の汚染経緯と実態について聞き、文化財用語の韓国化作業を促し、肯定的な反応を得たという。金教授は、この委員会で「文化財用語には字典を探してみないと読みづらい難しい古字が多い」ことを問題視し、その例として「支石墓」「土壙墓」「積石塚」などの墓地関係の用語や、「柱穴」「石斧」などの考古学における用語を取り上げた。また、このような難しい用語を分かりやすい「我が言葉」へ変えないといけないという主張には「異論」がないと述べている。そして、金教授は文化財用語のハングル化がうまく進んでいない理由として、この分野の研究が外国より遅く始まったことをあげて、特に「日帝が彼らの侵略政策の一つとして非専門家である人類・史学・建築学者を動員して、我らの古い墓を掘り返して、勝手に定義した文化財用語」は、そのまま使ってはいけないと強調したという。そして、記者は金教授が陶磁器の場合も日本式名称が主であることを指摘したことに対して、ハングルで表記できるものはハングルに変更しないといけないといい、その一例として、「질그릇 (土器)」を挙げている。

[35] 『韓英文化財用語集(A Glossary of Korean Arts & Archeology(Korean-English))』(문화공보부, 1979)

[36] 同上、190頁。

[37] 同上、63頁。

[38] 「좋은 우리말 놔두고 外來語가 활개 文化財용어」『朝鮮日報』1982.10.5.

また、同年10月11日、延世大学校考古学科の孫寶基教授をインタビューした次のような記事が『京郷新聞』に掲載された<sup>[39]</sup>。孫教授は「考古学・解剖学・印刷・出版等、彼の研究領域の用語はもちろん、一般用語に至るまで目に入る外国語はほぼ全て我らの言葉と文章で書き直した」と、自分の作業を説明した。その後、このような作業が必要であると考えたのは1940年代からで、その理由は、「漢文や日本語では我らの感情や思想を確実に表現できない上、実感できない」からだとして述べた。そして、専門用語醇化作業の意義を「我が言葉と文章を見つけることで民族の根を見つけ、〔その根を一筆者註〕より深くおろすことができる」と強調した。

このような議論が浮上した理由は何であろうか。まず、同年6月から韓国で話題になったに日本の歴史教科書歪曲の問題があったと考えられる。これは、日本文部省が発表した翌年4月から小学校及び高等学校で使用する教科書の内容が問題になった出来事であった。詳しくは、第二次世界大戦後に「朝鮮は日本の35年にわたる支配から解放され」と述べられた教科書の原稿を、「日本は台湾南部・サハリン・朝鮮などに対する支配を拒否され」て領土が減ったと修正し、韓国においては韓国の解放という意義が削除されたということで、日本政府に対する反発が引き起こった出来事である。また、「侵略」は「進攻」に、「苛政」を「圧政」に、「出兵」を「派遣」に修正するなど、表現を緩めたこと<sup>[40]</sup>に対して、韓国のみならず中国、ソ連などの怒りが沸騰した<sup>[41]</sup>。この問題は新聞の一面を飾るほど<sup>[42]</sup>、韓国では大きく報道され、韓国政府が日本へ是正を要求することになる<sup>[43]</sup>。その中で、当然、日本語用語の根を絶とうとする運動とかも活発になる<sup>[44]</sup>。

[39] 「우리말찾기 40餘年 손보기교수 “우리말·글 살아야 우리얼 산다”」『京郷新聞』1982.10.11.

[40] 「日 새교과서, 2次大戦을 정당화 韓國지배권등 모욕적표현 中共, 歷史왜곡비난」『朝鮮日報』1982.6.29; 「日本 개편 高校교과서 「侵略역사」美化」『東亞日報』1982.7.7; 「日本 개편 教科書를 보고」『東亞日報』1982.7.8; 「日本 高校교과서 檢定말뎡 “侵略역사美化” 中共도 批判」『東亞日報』1982.7.9; 「日 교과서 檢定말뎡 蘇도 “歷史왜곡” 非難」『東亞日報』1982.7.15; 「한마디 日本의 歷史歪曲은 軍國主義의 産物」『京郷新聞』1982.7.19; 「高校교과서 侵略史 美化 日國內서도 거센反撥」『京郷新聞』1982.7.22; 「日帝, 「平和의 假面」을 벗었다」『朝鮮日報』1982.7.24など.

[41] 「日本人 출입禁止」 표지 歷史歪曲에 화난 食堂주인」『每日經濟』1982.7.27; 「“韓國렬시는 日本 「官」이 主導”」『東亞日報』1982.7.27; 「釜山 日영사관에 投石」『東亞日報』1982.7.30; 「홍콩大學生들 왜곡抗議시위」『朝鮮日報』1982.8.7; 「中共 계속 日맹비난 言論 연일 蠻行특집」『朝鮮日報』1982.8.7; 「홍콩 反日운동 擴大」『東亞日報』1982.8.14.

[42] 「高校교과서 侵略史미화 日서도 對外관계沮害우려」『東亞日報』1982.7.21.

[43] 「文教部서 책入手 政府, 日교과서 是正요구키로」『東亞日報』1982.7.22; 「日教科書문제 國會차원서」『每日經濟』1982.7.23; 「政府, 日에 眞相규명 公式요구」『東亞日報』1982.7.27.

[44] 「일본말 用語 뿌리뽑자」『朝鮮日報』1982.8.28.

そして、文化財用語醇化に対する関心が高まった二つ目の理由は同年の12月15日の国会本会議で修正・通過された「文化財保護法」の改正と、その審議過程において「文化財用語を専門的に研究し、合理的に体系化することを促した」<sup>[45]</sup>ことが注目されたことであると考えられる。

このような社会情勢の中で、翌年2月には国立中央博物館付設の韓国古美術研究所から考古学用語をハングルに醇化した成果が新聞に報道される<sup>[46]</sup>。この考古学用語のハングル醇化事業については、当時、国立晋州博物館長であり、この事業に始終実務担当者として参加したハン・ヨンヒ氏がこの事業の過程・意義について述べた論文<sup>[47]</sup>から、その詳細を確認できる。この論文によると、事業が起動したのは1976年7月に国立中央博物館内に仮称「考古学・美術史用語改訂審議委員会」を設けて、その作業の方法と基本指針を決定するために第一回会議を開いたことからである。事業は国家予算ではなく、韓国文化芸術振興院からの支援金によるものであった<sup>[48]</sup>。また、審議委員には考古美術分野のみならず国史学やハングル、漢文分野の有識者が含まれていた。その上、会議においては次のような五つの指針が決議された。

- 一、中堅学者たちを調査委員に委嘱して、細分化された分野別に現在使用される用語の収集作業を実施し、その資料に基づいて個別審議する。
- 二、外来語はそれに値するハングルを探して、我が言葉化することを原則にするが、技術的な過程に使われる用語は職人など、伝統的職業に従事する人と接して固有の我が言葉を見つけることにする。
- 三、難しい言葉は分かりやすい言葉を探して、使用することとするが、水準が低すぎる、もしくは低俗な言葉は避けて、大衆が理解するに無理のないようにする。
- 四、一つの概念を持つ対象の用語として、複数の用語が乱立しているものは、まずは分類して重複を避け、単一のものにする。
- 五、新造語は原則的に作らないこととするが、万が一必要である場合、その

[45] 特に考古学用語における英語・日本式漢字語など用語のばらつきが問題として取り上げられている。「動産문화재 등록」이 核心-國會 통과된 文化財保護法 개정 내용 『東亜日報』1982.12.18.

[46] 「考古学用語 우리말로 고쳤다」 『京郷新聞』1983.2.4; 「考古学용어 日式달피 우리말로 쉽게 풀이 7百 20항 확정」 『東亜日報』1983.2.7; 「考古学용어 우리말로 바꿔 7백 23개 ……年内적으로 발간」 『朝鮮日報』1983.2.8.

[47] 한영희 「고고학 용어의 말바꾸기 작업」 『배달말』10 (배달말학회, 1985).

[48] 同上, 14頁.

数を減らすこととする<sup>[49]</sup>。

このような指針に従って、各分野の専門家に一カ月間の資料収集を依頼したが、資料収集に予想外の時間がかかり、審議委員に渡した「考古学・美術史用語審議資料集」が完成できたのは、3年後の1979年12月であったという<sup>[50]</sup>。また、この資料に基づいて開催した審議委員会では英語・漢文・日本語の用語について方針が決定された。ここで、英語は「専門書籍で使われるものを並行して使うことにするが、結局は我が言葉で変えて使う」ことに、また、漢文は「直すことにするが学術的にいいものはそのまま使用して無理がない」ようにすること、日本語用語は「原則的に排除する」こととなった<sup>[51]</sup>。

しかし、この事業は81年に韓国文化芸術振興院からの支援金が途絶えてしまい、1年半の間、停滞することになる。論文によると、「翌年作業推進者らの根強い支援要請と韓国文化芸術振興院の配慮」によって再び支援金を貰うことが出来て、事業が再開されたという<sup>[52]</sup>。上述したような出来事と、社会情勢も支援金が再配布された一要因であったと考えられる。ともあれ、再開された事業の成果物は82年末に選定された用語を審議委員会が審議し、合わせて724項目を確定した<sup>[53]</sup>。これを整理し、図面を入れる作業までおわり、『韓国考古学改正用語集』（以下、改正用語集）として発刊できたのは1984年の3月であった<sup>[54]</sup>。

この『改正用語集』のはしがき<sup>[55]</sup>によると、この事業は、韓国の考古学は「草創期から数十年は日帝の支配下で、専ら日本人学者らによって遺跡発掘調査が行われた」ため、「自然に彼らの影の下で成熟」され、その後、結構な時間が経ったにもかかわらず、考古学の隅々には多くの外来語、特に「日本語のかす」が残っている実情であることに対する問題意識からはじまった。そして、ここの用語がすべて完璧なものとは考えない上、よりふさわしい用語があれば変更するのは当然であるが、「一日も早く統一された用語が定着し、この分野学問に新しい活力と気運」が訪れることを期待すると述べられている。

[49] 同上、7頁。

[50] 同上、8頁。

[51] 同上、9頁。

[52] 同上、10頁。

[53] 同上、10～11頁。

[54] 同上、11頁。

[55] 한국고고미술연구소編『한국고고학개정용어집』（한국고고미술연구, 1984）



ここで、土器は漢字を韓国語で発音した表記である「토기」となっていて、「土で作って焼いたすべての器」と説明されている<sup>[56]</sup>。一方、「陶器」の項目は存在しない。ところが、ここで「질그릇」は「胎土」の部分に「질그릇の原料になる土」<sup>[57]</sup>という説明として登場する。すなわち、ここで「질그릇」は「胎土」で作られたすべての器を総称している。以上を総合すると、「질그릇」は前掲した<図1>より広い範囲の用語として使われたが、それ自体は定義していないことは、「질그릇」を考古学用語として考慮していないためであったと考えられる。しかし、「질그릇」が「胎土」で作られるすべての器を意味する以上、「土器」は「질그릇」の同位言葉になる。

#### 4. 『文化財用語醇化案』と「질그릇」

以上のような『改正用語集』を刊行し、専門家や関係機関に配布しても、用語の統一はできなかつたためか、1980年代から90年代を通じて、考古学及び文化財用語を分かりやすくハングル化することと統一することの必要を論じる記事が新聞で散見される<sup>[58]</sup>。また、学者<sup>[59]</sup>や政府側がこのような動きに踏み出した姿も時々あらわれる<sup>[60]</sup>。特に1993年、新しく文化財管理局長に赴任した鄭徳容氏とのインタビュー記事<sup>[61]</sup>には文化財用語と考古学用語の関係が読み取れる。ここで、鄭は、文化財を生活の中に引き込ませる政策として、「まずは文化財関連用語を親しい日常語に変えて、それを考古学用語辞典として刊行し、文化財の生活化作業を始める」つもりであると語っていた。

このような、社会と学会の用語醇化に対する期待がある中で、1999年には文化

[56] 同上、80頁。

[57] 同上、45頁。

[58] 韓永熙「日本式 고고학用語」『朝鮮日報』1987.4.15；「박물관전시품 우리말표기 높고있다」『毎日経済』1991.3.6；「문화재 안내문用語 알기쉽게 쓰자」『東亜日報』1993.10.9；「새 문화재관리국장 鄭徳容씨」생활속의 문화재」 최대 역점」『京郷新聞』1993.3.18；「보기따라 달라지는게」 문화재」30～40대 박사급 학자주축 답사모임 국학연구소」『京郷新聞』1997.9.10；「박물관 문화재 안내문 쉬웠으면」『東亜日報』1999.3.29；「우리 문화재, 우리가 조금만 더 사랑합시다!」『京郷新聞』1999.11.29；「유적지 안내문 쉽게 써주기」『東亜日報』1999.12.14。

[59] 「「한국舊石器學연구의 길잡이」 펴낸 孫寶基박사」『東亜日報』1988.5.3；「한국도자사연구」『朝鮮日報』1993.10.9；「「國史교과서 미술史 다시 써야」」『朝鮮日報』1994.5.31；「「…한영한사전」 펴낸 성낙진 교수 경주문화재 한글·영어로 쉽게 해설」『京郷新聞』1998.10.15。

[60] 「문화재 안내판 이해쉽게 재정비」『한겨레』1997.1.8；「고문헌같은 문화유적 안내판」『한겨레』1997.1.1；「문화재 안내판 이해쉽게 재정비」『毎日経済』1999.9.4。

[61] 「새 문화재관리국장 鄭徳容씨 “생활속의 문화재」 최대 역점」『京郷新聞』1993.3.18。

財庁から『文化財用語醇化案』<sup>[62]</sup>（以下、『醇化案』と表記）が刊行される。この『醇化案』の「基本方針」から見ると、この事業は「1999年に施行したく文化財用語醇化事業学術用役を委任された」<sup>[63]</sup>ものである。その上、この事業の方針としては、「既存の文化財用語が概ね漢字造語であったものが多いため、ハングルで表記した時に意味の伝達が不可能であるものが多い故、これをハングル化する作業」であり、また、「北朝鮮の文化財用語がすでに大韓民国のそれと差異が大きいところ、それに対する望ましい統一案を提示する」ことが挙げられている<sup>[64]</sup>。そして、『醇化案』作成の基本方針を次のように伝えている。

- 1) 現在文化財関係学会の研究・活動実情に鑑みると、用語醇化統一案を提示することはとても急を要するもので、重要ではあるが、その作業量が大変難しく、膨大であるため、相当な時間を要する仕事であり、それゆえ、ここではこれに対する本格的な議論のための基礎資料を提示する水準の試案を用意することにする。
- 2) 我が文化財用語はほぼ日帝時代に作られ、用いてきたため、日本式口振りが残っているものが少なくないが、それを可能な限り、全て変えることにする。
- 3) 文化財用語はハングル化することが時流に適すると判断し、可能な限りハングル化の立場を堅持することにする。しかし、無理にハングル用語に作りだすことは避け、既存のハングル用語のうち、意味伝達上、問題があるものは漢字語に還元させることとする。
- 4) 漢字用語はハングル用語へ変換する過程で当分の間、併用の方が良いと考えられる場合とハングル用語と漢字用語が長い間併用されたため、一方を選択すると用語上、むしろ混乱が起こるかもしれない場合は、併用案として提示することとする。（例：ゴインドル、支石墓）
- 5) 完全に専門家間で使用される微細な専門用語はわざと無理に醇化案を提示しないこととする。
- 6) 国語学、言語学、漢文学上言語の一般原理に照らして既存用語の中で語法上無理があれば、醇化案として提示する。

[62] 문화재청 『문화재용어 순화안』 (문화재청, 1999)。

[63] 同上、5頁。

[64] 同上。

ここにおいては、「日本式口振り」が残っている用語は可能な限り全部変更するが、漢字用語は「当分の間、併用」するか、もしくはハングル化がむしろ混乱を呼び起こすと考えられる場合は、「併用」することを指針としている。また、「無理にハングル用語を作りだすことは避け」という部分は、前掲の『改正用語集』が新しいハングル用語は作らない方針としたことと同じである。要するに、ハングル化を目指すか、その実用がすでに普及されている用語や、既存のハングルの言葉に合致するものがない場合は、漢字語のままにするということである。

この『醇化案』の特徴は、前掲した通りに「北朝鮮の文化財用語」の統一までを視野にいれているところであると考えられる。それは、嶺南大学校の考古学教授であり、当時『醇化案』事業に研究員として参加した李清圭氏が、当該事業のうち、考古学用語部分の方針と用語醇化の意義を述べた「考古学用語醇化案の基本方向」からも確認できる。ここに、用語醇化における基本方向は「ハングル化の志向、北朝鮮用語の積極的検討、そして、常用された漢字語の受容」<sup>[65]</sup>であったと述べられている。ところが、「北朝鮮で純ハングル式表現に変えた用語があるが、それに対応した用語が韓国学界では漢字式の場合、北朝鮮式表現を積極的に受け入れる必要があると考えられる」と言いながら、その北朝鮮のハングル表現が「それほど不自然ではないが、我々にとって漢字用語がより慣れている場合」<sup>[66]</sup>、漢字用語を採択することになっている。

一方、兪弘濬氏は『醇化案』のうち、「美術史」における醇化事業の必要性を述べた「陶磁器の用語統一（案）」で、「韓国の文化財用語の中で最も混乱を起しているのは陶磁器分野である」と指摘し、その理由を「学術的考慮と検討から出たものではなく、日本植民地時代以来、慣行的に呼ばれたものを無意識的に使用したことによると判断している。続いて、その代表的な事例として「土器」と「陶器」の混乱を取り上げ、我々が現在「민무늬토기 [無文土器]」と呼んでいるものと「新羅土器」と呼んでいる二つの「土器」は「その製作方式と質が全く異なるにも関わらず、同じ「土器」と分類していることを問題視している」<sup>[67]</sup>。そして、「磁器」と「瓷器」の併用問題や、「沙器」と「砂器」を概念の区分なしで使っていることなどを問題として取り上げ、これらについて「必ず統一」しなければならないと主張している<sup>[68]</sup>。

[65] 同上、11頁。

[66] 同上、12頁。

[67] 同上、19頁。

[68] 同上。

その後、まず「土器と陶器」という項目を設けて、土器と陶器をどのように定義すべきかを語っている。ここで兪氏は、まず、「器に釉薬が塗られていない器には土器と陶器があるが、これをハングルではすべて<sup>ジルグルッ</sup>질그릇と呼んでいる」と明記している<sup>[69]</sup>。そして、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇のうち、土器は赤褐色を帯びて軟質であり、露天において700℃程度で焼かれたもの」であると述べ、陶器は「灰黑色を帯びて硬質であり、窯において1000℃以上で焼かれたもの」と定義した<sup>[70]</sup>。それ故、「민무늬토기〔無文土器〕」は「土器」であるが、伽耶や新羅、すなわち、三国時代の「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は「陶器」であると述べている。その上、「新羅土器、伽耶土器」という用語は、「日本植民地時代に日本人学者が日本の陶磁史に照らし合わせた名称で、それに無意識的に従ったために生じた間違いに過ぎない」と、文化財用語における日本語の残滓を批判している<sup>[71]</sup>。その後、「粉青沙器と粉青磁」という項目を設けて、「磁器」と「沙器」という用語の問題点を説明して、《図2》を提示している。

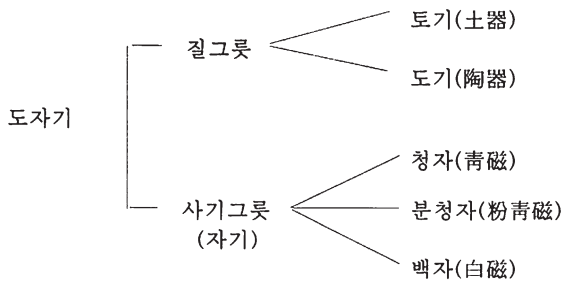


図2 『文化財用語醇化案』中「陶磁器の用語統一(案)」21頁の図

ところが、この『醇化案』の本文は、「考古学」「民俗学」「建築史」「美術史」の分野に分けて、各分野の専門用語醇化案を提示している。また、その形式は一列に「NO.」「分野」「醇化案」「ハングル」「漢字」「北朝鮮」「英文表記」「用語解説」の項目順に記入するシート式である。ここで、「<sup>ジルグルッ</sup>질그릇」は固有用語ではなく、「土器」の「ハングル」「北朝鮮」の項目に入っていて、その「醇化案」としては「토기」が提示されている<sup>[72]</sup>。また、『改正用語集』とは異なって、「胎土」の

[69] 同上。

[70] 同上、20頁。

[71] 同上。

[72] 同上、53頁。

説明は「土器を作るための原料になる土」となっている<sup>[73]</sup>。その上、「土器」と「胎土」は「考古学」の分野に分類されている。一方、「美術史」の方では「土器」「陶器」<sup>ジルグルッ</sup>「질그릇」について定義していない。以上を総合すれば、「질그릇」は「土器」と「陶器」を含む上位概念に位置付けられる同時に、「土器」を醇化するまえの「ハングル」「北朝鮮」の用語として片付けられたことがうかがえる。

## おわりに？

以上は、「질그릇」<sup>ジルグルッ</sup>という言葉を通じて、文化財用語というものが韓国において、どう認識されていて、いかに変化されてきたのかを探る試みであった。すなわち、文化財用語として純粋なハングル言葉を使うようになった理由と過程を、新聞記事と用語集の刊行を通じて検討した。その結果、次のようなことを確認できた。まず、ハングル言葉である「질그릇」<sup>ジルグルッ</sup>は植民地時代には専門用語として認識されていなかったが、1936年には朝鮮語の「標準語」として、「土器」の「近似語」に位置づけようとする動きがあった。また、そのことから少なくとも「標準語」を査定した委員たちにとっては「질그릇」<sup>ジルグルッ</sup>が「土器」の「近似語」として認識されていたと言えるだろう。

解放後、「질그릇」<sup>ジルグルッ</sup>は徐々に陶磁器分野に関する記事で専門用語として使用されはじめ、これは1979年に出版された『韓英文化財用語集』からも確認できる。1980年代には、日本の歴史教科書歪曲問題や文化財保護法改正などと相まって、考古学など文化財と深く関連のある分野の用語をハングル醇化しようとする意識が高まる。その中で1976年から国立中央博物館付設の韓国古美術研究所が行っていた考古学用語改定事業の成果物が1984年、ようやく刊行できる。この事業は日本式漢字語を多くハングル化した意義があるが、ここで「土器」は「토기」と、ハングル表記になった。ところが、この事業で「질그릇」<sup>ジルグルッ</sup>は、一つの個別用語としては提示されず、「胎土」の解説に「胎土」で作られるすべての器を総称するものとして記載された。

そして、90年代にも文化財や考古学用語のハングル醇化への要請が途絶えずに続く。そのため、個人研究者や政府側による、純ハングル用語を使用した論著の出版や文化財案内板の整備など、文化財用語の整備と定着を目的としたさまざまな試みがあった。その中、1999年には文化財庁から『文化財用語醇化案』が発刊

[73] 同上、41頁。

された。この『醇化案』は「日本式口振り」が残っている用語を「できる限り全部変更」という方針で作成された。ここで「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」は、「美術史」分野の陶磁器関係用語の中で〈図1〉の位置、すなわち、「陶磁器」の下で、「磁器」と対等で、「土器」と「陶器」を含める用語として位置づけられる。しかし、「陶磁器」の部分において「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」が提議されることはなく、また、「胎土」の説明は「土器を作るための原料になる土」になっている。そのため、実際に文化財用語としては浮いているように考えざるを得ない。要するに、「考古学」と「陶磁器」の分野の用語が相容れず、別々に成立しているように見える上、他分野用語との位置が明確ではないため、文化財用語としていかに使えばいいのかが見て取れない。そして、これは「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」だけが抱えている問題ではなく、文化財用語自体が含んでいる問題であろう。そもそも各分野の専門用語を別々に表示することによって、分野の間に共有している用語の定義やその用例が浮いているのである。

そして、2003年には文化財庁から「分かりやすく改めた文化財用語資料集」が行政資料として配布された<sup>[74]</sup>。すなわち、このような文化財用語の醇化及び整備事業は近年も続いていて、改定に改定を重ねていることが分かる。この「資料集」にも「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」は用語としては提示されてないものの、「考古学」の「胎土」の「用語解説」で登場する。ここでは「土器を作る際に原料になる土。<sup>ジルグルツ</sup>질그릇や陶磁器の下地になる土」と述べられている。ここから、1984年の『用語集』と1999年『醇化案』の解説を両方とも受け入れ、「土器」「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇や陶磁器」を並列することによって、「土器」と「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」、「陶磁器」の関係が全く見て取れず、全て等価の言葉のように表記されている。翻訳する際に、ある言葉を対象言語の対訳に使うためにはその言葉を理解し、また、その言葉の位置を確認しなければならない。例えば、ある文化財に関わる解説や題目を翻訳するためには、その文化財に関する情報、原文の各専門用語が意味することを的確に理解し、また、対訳語として用いようとする言葉の意味と、それが専門用語として使用してもいい「位置」のものかどうか問題になる。もちろん、専門家向けの翻訳か、一般向けの翻訳か、または子供向けの翻訳かなどによって、使用する対訳語には少しずつ差が生じる。その意味で、「<sup>ジルグルツ</sup>질그릇」は「土器」や「陶器」の一つの等価語として、一般向けの文化財解説をする際に韓国語使用者の読み手により親しく感じられ、韓国語の味を活かせる言葉として使用できると考えられる。ところが、今の状態では、

[74] 「쉽게 고친 문화재용어자료집」([https://www.cha.go.kr/cop/bbs/selectBoardArticle.do;jsessionid=1aVZNyiejZjKeV3Bmp2IYUi7NpiLMmy9NIyo8TeNZspamXBm0BCZmkETjKxIqfWZ.new-was\\_servlet\\_engine1?nttId=2964&bbsId=BBSMSTR\\_1045](https://www.cha.go.kr/cop/bbs/selectBoardArticle.do;jsessionid=1aVZNyiejZjKeV3Bmp2IYUi7NpiLMmy9NIyo8TeNZspamXBm0BCZmkETjKxIqfWZ.new-was_servlet_engine1?nttId=2964&bbsId=BBSMSTR_1045), 2021.12.01 閲覧)。



この用語が専門用語としては成立すると考えにくい上、そもそも専門用語との関係が曖昧であるため、専門家向けの翻訳には使うことはできない。すなわち、「질그릇<sup>ジルグלט</sup>」を専門用語として使うためには、より鮮明な定義と位置づけが必要になる。そして、「질그릇<sup>ジルグלט</sup>」のみならず、「土器」や「陶器」、「磁器」などの用語を分野別で論じるのではなく、「文化財用語」としてどう位置付ければいいのかを決定することが必要であると考えられる。

一方、本稿においては、北朝鮮の文化財用語と韓国の文化財用語との影響関係についてはほとんど触れることが出来なかった。前述した通りに、北朝鮮においては、「질그릇<sup>ジルグלט</sup>」は考古学論文などで確認できる専門用語であり、1999年の『醇化案』は「北朝鮮の文化財用語がすでに大韓民国のそれと差異が大きいところ、それに対する望ましい統一案を提示する」という方針のもとで作成されたものである。要するに、「北朝鮮の文化財用語がすでに大韓民国のそれと差異が大きい」という部分から、1990年代に韓国の専門家たちが北朝鮮の文化財用語と接することができる何らかの交流があっただろうという推測ができる。紙面の都合上、この推測については、別稿で論じたい。

#### 参考文献

- 박현주 「도자기 분야 분류 체계 및 기본 용어의 번역에 관한 고찰」 『번역학연구』 20-1 (한국번역학회, 2019)  
 박현주 「문화재용어사전의 구축 현황 및 번역보조도구로서의 활용성에 관한 제언」 『번역학연구』 15-2 (한국번역학회, 2014)  
 한영희 「고고학 용어의 말바꾸기 작업」 『배달말』 10 (배달말학회, 1985)  
 최경봉 「쟁점: 일제강점기 조선어학회 활동의 역사적 의미—『해방 전후사의 재인식』에 나타난 인식 태도를 비판하며—」 『민족문화사연구』 (민족문화사학회 · 민족문화사연구소, 2006)  
 김석득 「근 · 현대의 국어 (학) 정신사—국어연구학회에서 조선어학회 수난까지, 그 역사적 의미—」 『한글』 272 (한글학회, 2006).  
 박용규 『식민지시기 언론과 언론인』 (소명출판, 2015)
- 『한영문화재용어집 (A Glossary of Korean Arts & Archeology (Korean-English))』 (문화공보부, 1979)  
 문화재청 『문화재용어 순화안』 (문화재청, 1999)  
 사회과학원 고고학연구소편 『조선 고고학개요』 (새날, 1989)  
 한국고고미술연구소編 『한국고고학개정용어집』 (한국고고미술연구, 1984)  
 문화재청 『쉽게 고친 문화재용어 자료집』 (문화재청, 2003)  
 한창균 『북한 고고학 미술사 용어집』 (백산자료집, 1996)  
 『韓國民族文化大百科事典』 <http://encykorea.aks.ac.kr/>  
 『標準國語大辭典』 <https://stdict.korean.go.kr/>

『東亜日報』 『朝鮮日報』 『京郷新聞』 『毎日経済』 『ハンギョレ』

# 初めて校閲者として経験したこと

魏 佳瑤

## Copy-Editing for the First Time

Wei ChiaJung

校閲者／Copy-editors 繁体字中国語／Traditional Chinese 簡体字中国語／Simplified Chinese

私の母は台湾南側の都市—台南で生まれ育ちました。台南は奈良と同じく、古都と呼ばれるほど文化財が多い地域です。私は毎年母の実家に行くついでに、さまざまな文化財を訪れていたもので、元々文化財に興味がありました。また、勝手に同じ古都の奈良に対して親近感を持っていて、日本に来てからもよく旅行に行きました。だから、去年からこの仕事で校閲者として奈良とつながる機会をいただけて、とてもうれしいです。

外国で生活しているときに常と感じたのは、トイレなどの表示からミュージアムなどの説明パネルまで、繁体字、簡体字を分けて表示するより、簡体字中国語でひとくくりされる場合が多いということです。中国語は地域によって、同じ言語でも全く違う意味になる場合があります。だから、奈良文化財研究所が繁体字、簡体字を分けて説明パネルやパンフレット、チラシを作成したことは、一繁体字中国語使用者として、心から感謝しています。やはり自分が生まれてから使っている母国語はずっと残ってほしいです。そのためにも、私も校閲の仕事で貢献したいと考えています。

日常生活で簡体字中国語を見て頭の中で繁体字中国語に切り替えることはできても、今回は初めて仕事として繁体字を校閲したので、元々文化財好きとはいえ、一般用語はさておき、文化財についての専門知識は不足していて、校閲するときに、調べないといけないことや学ばないといけないことがたくさんありました。忙しくなりましたが、私にとっては充実した時間でした。

文章を校閲すると、一般用語や文化財専門用語以外で、日常ではあまりふれていない別領域の専門用語が出てくることもあります。自分で調べることも当然しますが、もしその領域の専門知識を持つ友達がいれば、念のためその用語が今も使われているかどうかや、使い方の確認などをしていました。

一般用語に関しては、繁体字中国語は簡体字中国語より、日本の漢字の使用法に近いこともあります。例えば「不織布」の繁体字中国語は日本語と同じ「不織布」ですが、簡体字中国語は「无纺布」で、簡体字中国語を見るだけでは本来

の意味が伝わらない可能性があるので、簡体字中国語と日本語の文章を両方一緒に確認しています。

また、同じ文字で、簡体字中国語での意味と繁体字中国語の意味が違う場合もあります。日本語の「～による」の訳文に関しては、簡体字中国語の訳文は「通過」ですが、繁体字の「通過」の意味はどちらかという実際にトンネルなど実体の何かを通りぬけることを指しています。「透過」の方が簡体字中国語の「通過」と日本語の本来の意味と同じ意味になっているので、こちらに修正しています。

私が校閲者として気をつけているのは、どうやって意味を保ちつつ、一般の人に親しまれていない言葉を、簡単にわかるように修正するかということです。インターネットが発達している現代社会では、国や地域間の交流も多く、外来語に影響されて、創造された言語も多くなっていますが、私が校閲するときは、一般の方がわかるようになるべく元々ある類似語に修正しています。もし類似語が見つからない場合は、台湾の語感に近い方の訳文を選択するように心がけています。また、説明パネルのニュアンスは少し硬くでも大丈夫ですが、ブログの文章は硬すぎず、親近感も残るように努めています。

コロナの影響で、国と国の往来が難しい中、再度開放される時期をただ待っている人たちもいれば、逆にこれを機に、自分たちで工夫して充実した日々を過ごす人たちもいます。奈良文化財研究所は後者です。ただ待つだけではなく、この期間を利用して平城宮跡資料館などの施設とホームページの多言語化を進めました。まだ今は移動できなくても、インターネットでより多くの人に奈良の文化財の知識を吸収して興味を持ってもらい、再び気軽に旅行できる時期が到来したときに、来訪者にとってより良い体験ができるようにしようとする奈良文化財研究所の姿勢はとても前向きです。すてきだと思いましたが、私もすごく力をもらいました。

校閲には「正解」というものがないゆえに難しいと、私は思っています。

まだまだ未熟ですが、これからも奈良の文化財を世界へ発信することを担う一員として、頑張っていきます。

# II

## 事業報告



# 平城宮跡の文化財多言語展開

—文化庁文化財多言語解説整備事業の報告を中心に—

高田 祐一・奈良文化財研究所

## Developing Foreign-Language Materials for the Nara Palace Site: A Project Report

Takata Yuichi・Nara National Research Institute for Cultural Properties

多言語解説事業／Multilingual Explanation Development Project 平城宮跡／Nara Palace Site  
復元CG／CGI reconstruction リーフレット／Brochures  
奈良文化財研究所収蔵品データベース／NABUNKEN Collection

### はじめに

奈良文化財研究所（以下、奈文研）では、2020年度に平城宮跡を中心に多言語解説事業を推進した。本稿ではその意義や実績を報告するものである。

## 1. 事業の枠組みとねらい

### 1.1 文化庁補助事業

文化庁では「訪日外国人旅行者数の増加及び訪日外国人旅行者が地域を訪れた際の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して先進的・高次元な多言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施する事業」<sup>[1]</sup>として国庫補助を実施している。奈文研では令和2年度文化財多言語解説整備事業に申請し、採択された。また、国立文化財機構として多言語化に取り組んでいる事業もあったため、相乗効果があるよう推進した。

### 1.2 多言語化の目的と対象

特別史跡平城宮跡は、約1300年前の日本の中心であり、天皇の住まいや官公庁があった。奈文研は平城宮跡を1950年代から調査し、その貴重な成果を平城宮跡資料館で展示している。さらなる外国人観光客等の誘客や満足度の向上を目指

[1] 文化庁令和2年度文化財多言語解説整備事業  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/tagengokaiseiki\\_seibijigyo/92059901.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/tagengokaiseiki_seibijigyo/92059901.html) (2021年12月9日確認)

し、従来の解説パネルに加えて、総合的に多言語コンテンツを磨き上げ、体系的に連携させることで情報発信の劇的な強化を図った（図1）。

そのために、①幅広く知ってもらう（平城宮跡資料館Webサイトの4か国語対応）、②展示品に関心を持ってもらう（多言語対応展示解説データベース整備・多言語対応アプリ開発）、③平城宮跡を体感し感動する（平城宮跡CG制作・ARアプリ開発）、④より深く理解してもらう（アプリやデータベースと連携した多言語対応リーフレットの整備）、の大きな4つの施策を推進した。

本事業では、特別史跡平城宮跡や国宝平城宮跡出土木簡等を対象にした。これらは、日本における古代国家形成の重要な文化財である。外国人来館者には、より丁寧でわかりやすい解説や情報発信が必要である。奈文研で雇用する各言語ネイティブの研究者が従事し、外国人来館者にとってわかりやすい内容となっているか等のチェックおよび監修の体制を構築し、リライト・校正作業を実施した。

## 平城宮跡資料館 特別史跡平城宮跡に関する 多言語解説情報発信強化事業

4つの施策を体系的に連携させることで多言語コンテンツの劇的な強化を図る



図1 多言語化事業の全体構想図



### 1.3 体制と役割

奈文研の文化財多言語化は企画調整部文化財情報研究室が所管しているため、翻訳や全体統括は文化財情報研究室が担った。事務的な支援を研究支援推進部連携推進課経営戦略係が担当した。各コンテンツでは専門性が必要であるため、都城発掘調査部史料研究室、文化遺産部遺跡整備研究室、企画調整部展示企画室と共同で推進した。

## 2. 多言語化への各取り組み

### 2.1 幅広く知ってもらおう(奈文研および平城宮跡資料館Webサイトの4か国語対応)

外国人観光客は、日本への出発前および来日中にインターネットで情報収集を実施する。そのため、施設のWebサイトを多言語対応することは必須である。しかし、奈良文化財研究所のWebサイトは日本語と英語のみ、平城宮跡資料館のWebサイトは日本語版のみであったため、英語・中国語・韓国語版を作成した(図2)。Webサイトの多言語コンテンツの量については、まだ十分とはいえないため、継続的に増強していく予定である。



図2 平城宮跡資料館外国版のWebサイト



図3 多言語対応収蔵品データベース



図4 出典となる報告書PDFへのURL

## 2.2 展示品に関心を持ってもらう(多言語対応収蔵品データベース整備・多言語対応アプリ開発)

平城宮跡資料館では多数の資料を展示しキャプション・解説パネルを設置している。しかし場所の制限から簡易な解説しか掲載できないのが実情である。また展示品の底面や、見えにくい部分については、展示スペースからの閲覧が困難であり、観覧の効果として改善の余地がある。そこで、普段は見ない部分の写真や詳細解説を多言語対応収蔵品データベースとして整備することで、観覧の効果をより増大させることとした(図3)。より詳細情報にアクセスできるよう情報の出典となった調査報告書PDFへのリンクも設定した(図4)。閲覧には、スマートフォンアプリである多言語対応解説支援アプリを活用した。展示品のキャプションに展示番号を貼付し、多言語対応解説支援アプリにて呼び出し、スマートフォンやタブレット等で閲覧する。収蔵品データベースには早稲田システム開発株式会社のI.B.MUSEUM SaaSを採用した。解説支援アプリには同社の「ポケット学芸員」を導入した。



図5 解説支援アプリ「ポケット学芸員」の操作風景。現物の展示品をまえに多言語での詳細情報にアクセスできる。

### 2.3 平城宮跡を体感し感動する(平城宮跡復元CG制作・ARアプリ開発)

平城宮を含む平城京の面積は、約2500ヘクタールあり、広大である。実際にすべてを歩くのは困難なため、復元CGを閲覧することで、理解することが効果的である。既に日本語版の復元CGは開発済みであったため、多言語解説などを追加し公開した(図6・7)。ただし前回の開発から調査研究が進んでいるため、最新の知見を盛り込んでCGを修正した。平城宮跡資料館で上映やYouTubeにてインターネット公開(2021年8月)をしている。

奈良文化財研究所では幢旗ARアプリ(日本語版)を運用している。日本において、天皇の元日朝賀および即位式は、現代においても重要な儀式である。この儀式に幢旗が使われた。平城宮跡の大極殿前にその実際の遺構が発見されており、宮廷儀礼を解明するうえで、非常に重要な発見となっている。この重要性を現地で体感できるようARアプリを運用しており、外国人観光客にも理解してもらえるように多言語化を図った。ただし、ボランティアガイドの方がタブレットを持ちながら運用するため、2020年度・2021年度においてはコロナ禍によってまだ本格稼働はできていない。



図6 平城宮跡復元CG(韓国語版)動画のサムネイル



図7 平城宮跡資料館内での動画上映風景

## 2.4 より深く理解してもらう（アプリやデータベースと連携した多言語対応リーフレットの整備）

外国人観光客は、体験型アクティビティの満足度が高いことが判明している。2020年1～3月期の訪日外国人消費動向調査では、日本滞在中に満足したと回答した人の96.2%は「日本の歴史・伝統文化体験」である<sup>[2]</sup>。さらに、観光庁による訪日外国人消費動向調査（2019年7-9月期 【1次速報】）<sup>[3]</sup>によれば、来日前には知り合いの口コミを重視し、行き先を決める傾向がある。またSNSでも情報収集し、感想をSNSで発信している。そこで、実際の来館者にとって、お土産として母国に持ち帰りたくなる・SNSの発信素材となる などを実現した多言語対応リーフレットを作成した。リーフレットには、展示を深く理解できるような内容とするうえ、SNSや帰国後の口コミ素材となり宣伝素材にもなるため、理解促

[2] 国土交通省観光庁『訪日外国人の消費動向 2020年1-3月期（速報）報告書』2020年7月  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001354360.pdf>（2021年12月9日確認）

[3] 国土交通省観光庁『訪日外国人の消費動向 2019年7-9月期（速報）報告書』2020年1月  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001323884.pdf>（2021年12月9日確認）



進と宣伝という2つの効果を見込める。題材として、国宝平城宮跡出土木簡を対象とした。

リーフレットは、来館者に捨てられないために、持って帰りたくなるようなリーフレットを目指した。形状も工夫し、変わったギミックで来館者がアッと驚き、楽しめるものを作ることを目指した。特殊変形印刷を活用した博物館リーフレットを管見の限り他に類例を知らない。詳細は奈文研ニュース80号「多言語化木簡解説リーフレット作成の試み」<sup>[4]</sup> (図8)。



図8 多言語化木簡解説リーフレット

### 3. 効果を高めるため合わせて実施した施策

文化庁事業とは別に実施した作業について述べる。

#### 3.1 フリーWifiの設置

訪日外国人が前述の多言語対応収蔵品データベースや多言語対応アプリを資料館現地で利用するためにはインターネット接続が必須である。そのため、2020年12月、平城宮跡資料館に無料Wifiを設置した。同時に藤原宮跡資料室および飛鳥資料館にも設置した<sup>[5]</sup>。利用可能時間は、1回の接続当たり上限3時間(再接続可

[4] Yanase Peter・吳修喆・扈素妍「多言語化木簡解説リーフレット作成の試み」『奈文研ニュース』80号、2021年3月  
<https://repository.nabunken.go.jp/dspace/bitstream/11177/9448/1/AA11581556-80-1t.pdf>  
 (2021年12月9日確認)

[5] なぶんけんブログ「フリーWi-Fiははじめました」2020年12月22日公開  
<https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2020/12/20201223wifi.html> (2021年12月9日確認)



能)である。利用料金は無料である。いまやインターネット接続は社会インフラともいえるため、公共施設でWifi環境を提供することで、来館者の利便性が高まる。また、資料館の様子や感想等をSNSでリアルタイムに発信してもらうことで、周知の効果も高まることも見込まれる。

### 3.2 奈文研Webサイトの多言語化

展示施設の運営主体である奈良文化財研究所のWebサイトも多言語化(英語・韓国語・中国語(繁体字・簡体字))を図った。しかしながら、日本語ページのすべてを多言語化することは、必要リソースや更新性を考えると現実的ではないため、優先度の高いページのみを対象とした。コンテンツ不足であるため、今後増やしていく予定である。

### 3.3 資料館玄関ディスプレイ設置

資料館内部の多言語化を実現しても、それが外からわからない場合、入館する動機が低下する。資料館前の通行人にうまく訴求できれば、通行人から来館者に転じる。そのため、PRが重要であるが、特別史跡であることから新たに派手な設置物等は困難であることや、多様な情報をビジュアルで訴求することが効果的であるため、館内から外向けにPR用ディスプレイを新設した(図9)。ディスプレイの輝度の関係から見えにくいシーン(真夏日の晴れ日)は想定されうるものの、白を基調とした画面構成であれば、十分に外部から視認可能である。企画展情報なども流すことにより、PR効果が見込まれる。



図9 平城宮跡資料館入口のPR用ディスプレイ

## 4. 課題

---

2021年9月27日、文化庁多言語化事業の一環で公益社団法人日本観光振興協会から現地視察をうけた。翻訳文が高品質であることや、リーフレットのオリジナリティなど良い点を挙げていただいた一方、課題も指摘された。それは、Wifiや多言語解説アプリの存在や操作方法がわかりにくいといった点である。利用者目線で改善を継続していく必要がある。

## おわりに

---

奈文研は平城宮跡をフィールドに調査研究を長年継続している。さらに将来にわたって最新の知見が蓄積していく。それに合わせて多言語化も常にバージョンアップを図っていく必要があるだろう。



# III

## 実験



# 発掘調査報告書から 多言語対応収蔵品データベースへ

Yanase Peter・奈良文化財研究所

## From Fieldwork Report to Multilingual Database

Yanase Peter・Nara National Research Institute for Cultural Properties

キーワード／英訳 考古学／Archaeology データベース／Databases

Ⅲ  
実  
験

奈良文化財研究所（以下、奈文研）は2020年度に多言語化整備事業の一端として平城宮跡資料館（以下、資料館）の多言語化を掲げた。資料館の多言語化の目的は、展示室内における各種説明を英・中・韓の三言語で提供し、日本語ができない、または得意としない来館者が資料館を楽しめる環境を整えることと、多言語化によるWeb上の情報発信の強化であった。そのため、展示室内上映ビデオの吹き替え、言語別の木簡に関する解説シート、展示パネルの訳文、Web閲覧用データベース、スマホアプリ用のデータなどを作成した。その中から、今回は試行錯誤を重ねながら半年かけて一から作った多言語対応収蔵品データベースに焦点を当てる。

### 元データの問題点

今回作成したデータベースの作成過程は極めて特殊であった。なぜなら、今回は研究者と学芸員が事前に準備したテキストの翻訳を行ったのではなく、多言語データのために過去の日本語データを掘り起こして英・中・韓の三言語のデータとして再構築した。そうした理由をまず説明する。

資料館にはもともと公開データベースがなく、あるのは収蔵品管理のために作成された簡易なデータベースのみだった。内部向けデータベースなので、保管場所、貸出履歴、関連文献（報告書、図録）や関連写真の番号などの実務的な情報を中心に入力されていた。

資料館は奈文研の施設であり、奈文研の平城宮跡に関わる研究成果を中心に展示・解説している。奈文研は巨大な組織であり、遺物の種類によって扱う研究室が異なるだけでなく、各研究室で独自のデータ方式があり、登録されている情報にもばらつきがある。筆者は過去に各部屋のデータの項目を比較する機会があっ

た。同じ組織でありながら、統一的なフォーマットが未整備であることに驚いた記憶がある。今回問題となった資料館の展示品・収蔵品データベースは管理のための独自フォーマットであった。この情報をそのまま翻訳して外部に公開しても、それは来館者・Web閲覧者が求めている情報とマッチしないと判断した。そのため、多言語対応収蔵品のデータベースのために新たにデータを整理し、一からデータを作成することにした。

## 必要な項目の整理

今回新たに作成する多言語データの用途として二つが想定された。一つは、Web上での閲覧、もう一つは展示室内観覧中のスマホアプリでの閲覧であった。採用しているシステム上ではそれぞれに別々のデータを表示することも可能であったが、今回はデータ作成の効率化を考えて二つとも同じ内容にした。そのため、データベースで表示する情報をこの二つのユースケースに合わせる必要があった。

資料館の多言語化においてスマホアプリを導入した最大の理由は、展示室内のスペースが限られていて、すべての情報をアナログ型式で四言語で表示するのは困難だと判断されたことである。とはいえ、資料館を楽しむことをスマホ持ち込み前提にするのは避けたかった。そのため、「スマホがあってもなくても、展示は理解できるが、スマホがあった方が楽しい」という発想の下で情報を整理することにした。これにより、展示室内のパネルを全面的に四言語対応するようにした一方、展示品のキャプション・題箋はタイトルだけを四言語で表示し、詳細な説明をスマホで表示することにした。他方、データをパソコン上で閲覧するユーザーには展示室内の説明が見えていないため、収蔵品・展示品一個一個の情報が独立するように情報を整理する必要があった。また、Web上で提供するデータベースはデータセットとしても使用できるような形を取ることを視野に入れていた。

結果として、「名称」、「材質」、「寸法」、「時代」、「解説文」という基本情報に加えて、考古学の特有の情報として「出土場所」、またデータ連携のため、「関連発掘調査報告書」の項目を設定した。さらに、パソコン・スマホの特徴を生かし、展示室では見られない画像を多数掲載することにした。



## 情報収集

データベースの必要な項目が決まったら、次にそれらの項目を埋めるのに必要な情報を探し出す作業にかかった。真っ先に整理したのは関連発掘調査報告書の項目だった。ほかの項目は一番信頼にあたる情報源、つまり報告書から抽出することを決めていたので、まずそれぞれの遺物の詳細が記述されている報告書を選定する必要があった。幸いに、この情報は元データの中に含まれていた。

次にそれぞれの報告書から基本情報を探し出した。ほとんどの遺物に関しては報告書から寸法、材質などの記述をそのまま採用できた。ただ、報告書の解説文は専門家向けなので、細かくて難しい文章が多い。そのため、報告書の解説文だけをそのまま採用することは困難であった。

今回のプロジェクトではスマホのコンテンツを充実させるために収蔵品の中から100件に対して解説文を付けることにしたので、短時間で新たに100件の解説文を、しかも三言語で作る必要があった。この作業の効率化を図るために、すべての解説文を同じ構造に統一することにした。つまり、すべての解説文を「これは何?」、「どのように使われていた?」「他に何か面白いことはあるか?」の三つの質問に対して、1文ずつで答える構造に統一した。これを決めたのち、報告書と過去の図録からそれぞれの質問に対する答えをピンポイントで探し出した。そしてその情報をベースに英・中・韓の三言語でそれぞれのオーディエンスに合わせて文章を作成した。

文字データを作成した後、それを補う画像データを集めた。報告書やその他の過去の刊行物ではそれぞれの遺物に関連する画像が大量に含まれているので、ここでも解説文の文章の作成と同様に、前もって掲載したい画像の種類を整理した。今回は、展示品(多くの場合レプリカ)の表と裏、実物の記録写真(表と裏)、実測図、出土場所、出土場所の実測図、出土地区(遠景)、出土地区の実測図・地図を対象とした。資料館に展示されている実物とレプリカの撮影は展示企画室と写真室が行った。その他の画像は報告書から切り取った。

## 全国遺跡報告総覧との連携

発掘調査で発見された遺物の最大の特徴は、遺物単独でほとんど意味を持たないことと言える。そのため、遺物・展示品一つずつの説明をいくら充実させても、不完全になってしまう。この問題を解決するため、今回作成したデータベースに

はそれぞれの遺物が掲載された発掘調査報告書 PDF へのリンクを張った。また、PDF が公開されていなかった関連報告書を新たにデジタル化して登録した。これによってユーザーが一つの遺物から簡単に発掘調査全体の詳細な説明にジャンプできるようになり、遺物が置かれたコンテキストについて学ぶことができるようになった。

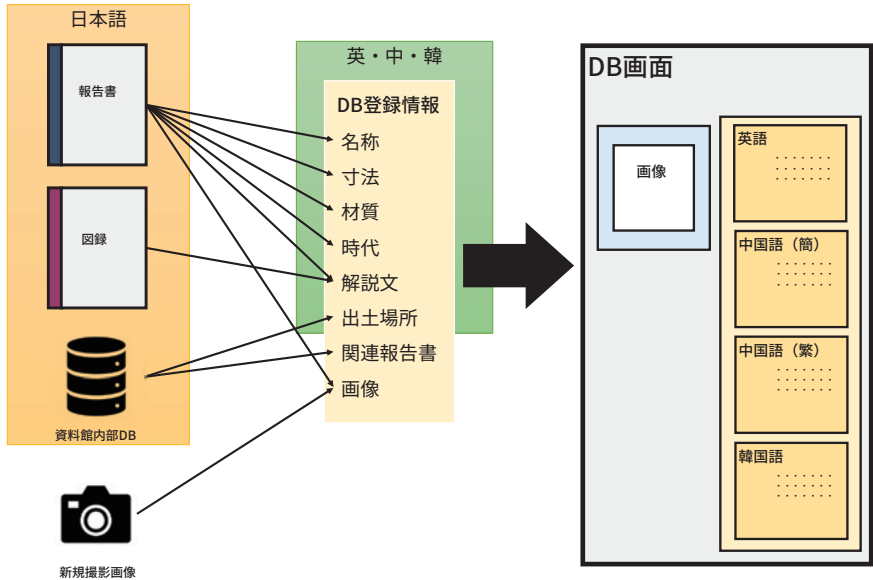


図1 多言語データ作成のワークフロー

## 結びに

奈文研の2020年度の多言語化事業の中で多言語対応収蔵データベースの作成はとりわけ大きなプロジェクトであった。その過程で最大の問題となったのは、データベース用の日本語データが整備されていなかったことであった。このような状況の中で、データベースの作成を実現できたのは、日本語テキストの作成ステップを経由せずに、直接遺跡の記録保存としての機能を持つ発掘調査報告書に基づいて多言語データを作成したからである。このような試みは奈文研としても初めてであったが、結果として発掘調査報告書の新たな活用方法が切りひらかれた。この手法は発掘調査報告書を刊行した実績のある自治体であれば今すぐ着手

することが可能であり、多言語化のコストダウンと作業時間短縮につながる  
ことが期待できる。

# IV

## 資料



# 2021年度日英対訳集

Yanase Peter • 奈良文化財研究所

## Japanese-English Glossary for FY2021

Yanase Peter • Nara National Research Institute for Cultural Properties

The following is an excerpt from the glossary and notes of the author made during FY2021 while preparing English texts for NABUNKEN. As is the case with any translation, the terms presented here only truly fit the context they were used in and do not present universal solutions.

### Archaeology

---

|         |   |
|---------|---|
| 調書      | data sheet  |
| 発掘調査    | archaeological excavation                                 |
| 記録      | record  |
| レベル     | (optical) level   |
| フルイ     | sieve   |
| 考古科学    | archaeometry  |
| 発掘調査報告書 | fieldwork report  |
| 報告書     | fieldwork report  |
|         | <i>if used in archaeological context</i>                  |
| 遺物      | artifact  |
| 貝塚      | shell midden  |
| 経塚      | sutra mound   |
| 移動コスト   | cost of travel  |
|         | <i>neologism</i>  |
| 保存処理    | conservation treatment                                    |
| 遺構      | (archaeological) features                                 |
| 下層      | subsoil   |
| 間       | bay   |
|         | <i>referring to the space between two or four columns</i> |
| 踏査      | field survey  |

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| ごみ捨て穴     | trash pit                     |
| ごみ穴       | trash pit                     |
| 産地推定      | provenance study              |
| 保存科学      | conservation science          |
| 遺跡        | (historical) site             |
| 出土        | excavated/found               |
| 堆積        | deposit                       |
| 実測図       | scale/measured drawing        |
| ホウ酸ホウ砂水溶液 | boric acid and borax solution |

## Architecture

---

|       |  |
|-------|--|
| 塼     | brick  |
| 基壇    | 1. (stone/rammed earth) podium<br><i>if it has stairs</i><br>2. (rammed earth) platform<br><i>if it does not have stairs</i><br>3. pedestal<br><i>when referring to part of a stone lantern</i>  |
| 礎石    | base stone   |
| 心礎    | central base stone   |
| 楼閣    | pavilion   |
| 二階建て  | two-storied  |
| 擁壁    | retaining wall   |
| 離宮    | imperial villa   |
| 古墳    | burial mound   |
| 横穴式石室 | passage grave  |
| 溝     | 1. gutter<br><i>when referring to a shallow cut in the ground used for drainage</i><br>2. ditch<br><i>when referring to a deep cut in the ground used for drainage</i><br>3. trench<br><i>when referring to a deep cut in the ground not limited to drainage usage</i> |



|       |  |
|-------|--|
| 掘立柱建物 | post-in-ground structure                                   |
| 大垣    | outer wall   |
| 講堂    | lecture hall   |
| 食堂    | refectory<br><i>in monasteries/temples</i>                 |
| 塔     | pagoda   |
| 鴟尾    | shibi (ridge-end) roof ornament                            |
| 回廊    | cloister   |
| 参道    | approach   |
| 僧房    | dormitory  |
| 金堂    | main hall  |
| 宝蔵    | treasury   |
| 経蔵    | sutra repository   |
| 中門    | central gate<br><i>in monasteries/temples</i>              |
| 伽藍    | temple complex   |
| 軒丸瓦   | semi-cylindrical eaves-end pendant tile<br>JAANUS term     |
| 軒平瓦   | concave eaves-end pendant tile<br>JAANUS term              |
| 卷斗    | bearing block  |
| 大斗    | (principal) bearing block                                  |
| 柱     | column   |
| 長押    | (column-embracing) tie beam<br><i>coined by the author</i> |
| 地覆    | sill beam  |
| 地覆石   | sleeper  |
| 束     | strut<br><i>in architecture</i>                            |
| 腰壁束   | (waist-level) strut  |
| 方立    | jamb<br><i>accompanying a window or door</i>               |
| 窓枠    | window frame   |

|      |  |
|------|--|
| 連子子  | paralell bar   |
| 頭貫   | (column-penetrating) tie beam<br><i>coined by the author</i> |
| 桁    | purlin   |
| 肘木   | bracket arm  |
| 茅負   | eaves support  |
| 棟木   | ridge beam   |
| 垂木栓  | (rafter-connecting) dowel<br><i>coined by the author</i>     |
| 扱首   | brace  |
| 垂木   | rafter   |
| 虹梁   | (curved) tie beam<br><i>coined by the author</i>             |
| 重層の門 | multi-entrance gate  |
| 宝物館  | treasury   |

## Artifacts

---

|         |  |
|---------|--|
| 鐙       | stirrup  |
| 箸       | chopsticks   |
| 扇       | folding fan  |
| サイコロ    | dice   |
| ちゅう木／籌木 | hygiene stick  |
| 土器      | earthenware  |
| 陶磁器     | pottery<br><i>avoid “pottery and porcelain”</i>  |
| 炆器      | stoneware  |
| 糸巻      | spool  |
| 石器      | lithic / stone tool ( <i>preferred term</i> )  |
| 瓦       | roof tile  |
| 木簡      | wooden tablet ( <i>established term</i> ) /<br>wooden document ( <i>preferred term</i> ) |
| 木屑      | wood chips   |

|       |   |
|-------|---|
| 木製品   | wooden artifact<br><i>if it was excavated</i> |
| 木質遺物  | wooden artifact                               |
| 有機質   | organic                                       |
| 有機質遺物 | organic material                              |

## Cultural resource management

---

|        |   |
|--------|---|
| 文化財    | cultural property ( <i>literal term</i> ) /<br>cultural heritage ( <i>preferred term</i> )          |
| 文化遺産   | cultural heritage   |
| 地方公共団体 | local government  |
| 埋蔵文化財  | “buried cultural properties” ( <i>literal translation</i> ) /<br>artifact ( <i>preferred term</i> ) |
| 教育委員会  | board of education  |
| 文化庁    | Agency for Cultural Affairs<br><i>official translation</i>  |

## Designations

---

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 特別史跡  | Special Historic Site       |
| 世界遺産  | UNESCO World Heritage Site  |
| 重要文化財 | Important Cultural Property |
| 国宝    | National Treasure           |

## Fujiwara Palace & Capital

---

|       |   |
|-------|---|
| 藤原宮   | Fujiwara Palace                               |
| 藤原宮跡  | Fujiwara Palace Site                          |
| 藤原京   | Fujiwara Capital                              |
| キトラ古墳 | Kitora Tumulus<br><i>official translation</i> |
| 山田寺   | Yamadadera                                    |

## Imperial matters

---

|      |  |
|------|--|
| 貴族   | aristocrat   |
| 即位式  | ascension to the throne  |
| 元日朝賀 | New Year's Day celebration<br><i>state ceremony under the ritsuryō system</i>  |
| 皇太子  | crown prince   |
| 天皇   | 1. sovereign<br><i>inclusive</i><br>2. emperor<br><i>male</i><br>3. empress regnant<br><i>female</i>                         |
| 皇后   | empress  |
| 太上天皇 | 1. retired sovereign<br><i>inclusive</i><br>2. retired emperor<br><i>male</i><br>3. retired empress regnant<br><i>female</i> |

## Nara Capital

---

|     |   |
|-----|---|
| 平城京 | Nara Capital  |
| 西市  | West Market   |
| 東市  | East Market   |
| 右京  | Right Capital   |
| 左京  | Left Capital  |
| 条坊  | grid-like layout  |
| 条   | 1. (row) avenue<br>2. row<br><i>when referring to the space between two row avenues</i> |

|      |  |
|------|--|
| 坊    | 1. (column) avenue<br>2. column<br><i>when referring to the space between two column avenues</i> |
| 坪    | block  |
| 条大路  | avenue   |
| 二条大路 | Second Row Avenue  |
| 朱雀大路 | Suzaku Boulevard   |
| 東大寺  | Tōdaiji  |
| 法華寺  | Hokkeji  |
| 興福寺  | Kōfukuji   |
| 大安寺  | Daianji  |
| 元興寺  | Gangōji  |
| 薬師寺  | Yakushiji  |
| 唐招提寺 | Tōshōdaiji   |
| 西大寺  | Saidaiji   |
| 西隆寺  | Sairyūji   |
| 田村第  | Tamura-no-dai  |
| 長屋王邸 | Prince Nagaya's residence  |
| 羅城門  | Rajō Gate  |
| 長安   | Chang'an   |

## Nara Palace & Palace Site

---

|      |                  |
|------|------------------|
| 平城宮  | Nara Palace      |
| 平城宮跡 | Nara Palace Site |
| 朱雀門  | Suzaku Gate      |
| 壬生門  | Mibu Gate        |
| 左伯門  | Saeki Gate       |
| 玉手門  | Tamate Gate      |
| 小子部門 | Chiisakobe Gate  |
| 建部門  | Takerube Gate    |
| 若犬養門 | Wakainukai Gate  |
| 内裏   | Royal Residence  |

|        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 大極殿    | Imperial Audience Hall          |
| 大極殿院   | Imperial Audience Hall Compound |
| 第一次大極殿 | Former Imperial Audience Hall   |
| 第二次大極殿 | Latter Imperial Audience Hall   |
| 朝堂院    | State Halls Compound            |
| 中央区朝堂院 | Central State Halls Compound    |
| 東区朝堂院  | Eastern State Halls Compound    |
| 朝集院    | State Assembly Hall             |
| 東院庭園   | East Palace Garden              |
| 西池宮    | Palace of the West Pond         |
| 遺構展示館  | Excavation Site Exhibition Hall |
|        | <i>official translation</i>     |
| 宇奈多理神社 | Unatari Shrine                  |
| 水上池    | Kamigami Pond                   |
| 御前池    | Omae Pond                       |
| 左紀池    | Saki Pond                       |
| 西池     | West Pond                       |

## General

---

|    |  |
|----|--|
| 儀式 | 1. ceremony<br>2. state ceremony<br><i>if the sovereign makes an appearance</i><br>3. ritual<br><i>in religious context</i>            |
| 高台 | high ground  |
| 旧宅 | former residence   |
| 寺院 | temples  |
| 寺  | 1. temple<br><i>general term, a place of worship</i><br>2. monastery<br><i>place of residence for members of a religious community</i> |

## 3. nunnery

*if managed by nuns*

|       |  |
|-------|--|
| 尼寺    | nunnery                                    |
| 氏寺    | tutelary temple                            |
| 官営    | state-run                                  |
| 堀河／堀川 | canal                                      |
| 運河    | canal                                      |
| 役所    | court office                               |
|       | <i>in Classical Japan</i>                  |
| 倉庫    | storehouse                                 |
| 和紙    | <i>washi</i> paper                         |
| 墨     | India ink                                  |
| 歴史的価値 | historical significance                    |
| 庶民    | commoners                                  |
| 地下水   | groundwater                                |
| 地下水位  | groundwater level                          |
| 国府    | provincial capital                         |
| 土     | soil                                       |
| 寺社    | temples and shrines / religious institutes |
| 目録    | catalogue                                  |
| 展示施設  | exhibition facility                        |
| 展示室   | exhibition room                            |
| 展示    | exhibition                                 |
| 展示品   | exhibit                                    |
| 企画展   | thematic exhibition                        |
| 特別展   | special exhibition                         |
| 壁画    | mural                                      |
| 容器    | vessel                                     |
| 史料集   | full-text corpora                          |
| 開眼供養  | consecration                               |



## 文化財関連用語日中対訳集

## 凡例

- (1) この対訳集は、2021年4月から2022年1月まで奈良文化財研究所における翻訳業務中、吳修喆が作成したものであり、対訳の決定版ではない。
- (2) 日本語仮名順で整理した。
- (3) 本対訳集の作成にあたり、関係研究員から幅広い助言を得た。
- (4) 繁体字の校閲は魏佳榕が担当した。

| 日本語        | ふりがな            | 中国語(簡体字)    | 中国語(繁体字)    |
|------------|-----------------|-------------|-------------|
| 3D復元       | すりーでいーふくげん      | 三维重建        | 3D復原        |
| 3Dレーザースキャン | すりーでいーおーざーすきゃん  | 三维激光扫描      | 3D雷射掃描      |
| 握斧/石斧      | あくふ/にぎりおの       | 手斧          | 手斧          |
| 阿修羅        | あしゅら            | 阿修罗         | 阿修羅         |
| 飛鳥池遺跡      | あすかいけいせき        | 飞鸟池遗址       | 飛鳥池遺址       |
| 飛鳥板蓋宮      | あすかいたぶきのみや      | 飞鸟板盖宫       | 飛鳥板蓋宮       |
| 飛鳥岡本宮      | あすかおかもとのみや      | 飞鸟冈本宫       | 飛鳥岡本宮       |
| 飛鳥京跡庭園遺構   | あすかきょうあとていえんいこう | 飞鸟京遗址园林遗迹   | 飛鳥京遗址園林遺跡   |
| 飛鳥浄御原宮     | あすかきよみはらのみや     | 飞鸟净御原宫      | 飛鳥淨御原宮      |
| 飛鳥浄御原令     | あすかきよみはらりょう     | 飞鸟净御原令      | 飛鳥淨御原令      |
| 阿武山古墳      | あぶやまこふん         | 阿武山古坟       | 阿武山古墳       |
| 安倍寺遺跡      | あべでらいせき         | 安倍寺遗址       | 安倍寺遺址       |
| 甘樫丘        | あまかしのおか         | 甘樫丘         | 甘樫丘         |
| 奄美         | あまみ             | 奄美          | 奄美          |
| 阿弥陀浄土院     | あみだじょうどいん       | 阿弥陀净土院      | 阿彌陀淨土院      |
| 阿弥陀堂       | あみだどう           | 阿弥陀堂        | 阿彌陀堂        |
| アミノ酸ラセミ化法  | あみのさんらせみかほう     | 氨基酸外消旋法断代   | 氨基酸外消旋法斷代   |
| アリアドネプラス   | ありあどねぷらす        | ARIADNEplus | ARIADNEplus |
| 暗号化        | あんごうか           | 加密          | 加密          |
| 家形土器       | いえがたどき          | 房形陶器        | 房形陶器        |
| 位階         | いかい             | 地位/位阶       | 地位/位階       |
| 移住         | いじゅう            | 迁徙/迁移       | 遷徙/遷移       |
| 伊勢大神宮      | いせだいじんぐう        | 伊势大神宫       | 伊勢大神宮       |
| 異体字銘帯鏡     | いたいじめいたいきょう     | 异体字铭带镜      | 異體字銘帶鏡      |
| 一乘院        | いちじょういん         | 一乘院         | 一乘院         |
| 一乘谷朝倉氏遺跡   | いちじょうだにあさくらしいせき | 一乘谷朝仓氏遗址    | 一乘谷朝倉氏遺址    |
| 一段基石鑑      | いちだんけいせきぞく      | 一段基石鑑       | 一段基石鑑       |

| 日本語        | ふりがな                     | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字) |
|------------|--------------------------|----------|----------|
| 乙巳の変       | いっしのへん                   | 乙巳之变     | 乙巳之變     |
| 厳島神社       | いつくしまじんじゃ                | 严岛神社     | 嚴島神社     |
| 井戸枠        | いどわく                     | 井栏       | 井欄       |
| 稲荷山古墳      | いなりやまこふん                 | 稻荷山古坟    | 稻荷山古墳    |
| 犬走り        | いぬばしり                    | 埽地       | 埽地       |
| 入母屋造       | いりもやづくり                  | 歇山顶      | 歇山頂      |
| 岩陰         | いわかげ                     | 岩洞       | 岩洞       |
| 岩宿遺跡       | いわじゅくいせき                 | 岩宿遗址     | 岩宿遺址     |
| 印花文        | いんかもん                    | 印花紋      | 印花紋      |
| 印章         | いんしょう                    | 印章/图章    | 印章/圖章    |
| 植木         | うえき                      | 苗木       | 苗木       |
| 歌姬瓦窯       | うたひめがよう                  | 歌姬瓦窑     | 歌姬瓦窯     |
| 駅家         | うまや                      | 驿站       | 驛站       |
| 厩坂寺        | うまやさかでら                  | 厩坂寺      | 厩坂寺      |
| 梅谷瓦窯       | うめだにがよう                  | 梅谷瓦窑     | 梅谷瓦窯     |
| ウラン系列法     | うらんけいれつほう                | 铀系法      | 鈾系法      |
| 蔚山型住居跡     | うるさんがたじゅうきょあと            | 蔚山式房址    | 蔚山式房址    |
| ウワナベ古墳     | うわなべこふん                  | 宇和奈边古坟   | 宇和奈邊古墳   |
| 衛滿朝鮮       | えいまんちょうせん                | 卫满朝鲜     | 衛滿朝鮮     |
| エキスパートシステム | えきすぱーとしすてむ               | 专家系統     | 專家系統     |
| 柄香炉        | えこうろ/えごうろ                | 长柄香炉     | 長柄香爐     |
| 蝦夷         | えぞ/えみし                   | 虾夷       | 蝦夷       |
| 絵馬         | えま                       | 绘马       | 繪馬       |
| 絵巻物        | えまきもの                    | 画卷       | 繪卷       |
| 遠隔探査(RS)   | えんかくたんさ(あーるえす/りもーとせんしんぐ) | 遥感       | 遙測       |
| 延喜式        | えんぎしき                    | 延喜式      | 延喜式      |
| 縁石         | えんせき                     | 路缘石      | 路緣石      |
| 煙台         | えんだい                     | 烽火台      | 烽火台      |
| 猿面硯        | えんめんけん                   | 猿面砚      | 猿面硯      |
| 王城         | おうじょう                    | 王城       | 王城       |
| 甕城         | おうじょう                    | 瓮城       | 甕城       |
| 横置成形       | おうちせいけい                  | 横置成型     | 橫置成型     |
| 押捺文        | おうなつもん                   | 压印纹      | 壓印紋      |
| 大峯山寺       | おおみねさんじ                  | 大峰山寺     | 大峯山寺     |
| 岡田池瓦窯      | おかだいけがよう                 | 冈田池瓦窑    | 岡田池瓦窯    |

| 日本語         | ふりがな                 | 中国語(簡体字)  | 中国語(繁体字)  |
|-------------|----------------------|-----------|-----------|
| 岡本山古墳       | おかもとやまこふん            | 岡本山古坟     | 岡本山古墳     |
| 沖ノ島         | おきのしま                | 冲岛        | 冲島        |
| 押熊瓦窯        | おしくまがよう              | 押熊瓦窑      | 押熊瓦窯      |
| 押引文土器       | おしひきもんどき             | 压印纹陶器     | 壓印紋陶器     |
| 尾垂木先瓦/方形椽先瓦 | おたるきさがわら/ほうけいたるきさがわら | 方形椽头瓦     | 方形椽頭瓦     |
| 落とし穴遺構      | おとしあないこう             | 陷阱遗迹/陷坑遗迹 | 陷阱遺構/陷坑遺構 |
| 小墾田宮        | おはりだのみや              | 小垦田宫      | 小墾田宮      |
| オルソ画像       | おるそがぞう               | 正射影像      | 正射影像      |
| 蔭位          | おんい                  | 荫位        | 蔭位        |
| オンドル        | おんどる                 | 炕/火坑      | 炕/火炕      |
| 開基勝宝        | かいきしょうほう             | 开基胜宝      | 開基勝寶      |
| 回帰分析        | かいきぶんせき              | 回归分析      | 回歸分析      |
| 貝釧          | かいくしろ                | 贝钏        | 貝釧        |
| 開元通宝        | かいげんつうほう             | 开元通宝      | 開元通寶      |
| 海獣葡萄鏡       | かいじゅうぶどうきょう          | 海兽葡萄镜     | 海獸葡萄鏡     |
| 外城          | がいじょう                | 外城        | 外城        |
| 戒壇院         | かいだんいん               | 戒坛院       | 戒壇院       |
| 開地遺跡        | かいちいせき               | 露天遗址      | 露天遺址      |
| 貝塚          | かいづか                 | 贝冢/贝丘     | 貝塚/貝丘     |
| 回転ケズリ       | かいてんけずり              | 轮修刮削      | 輪修刮削      |
| 懐風藻         | かいふうそう               | 怀风藻       | 懷風藻       |
| 貝面          | かいめん                 | 贝制面具      | 貝製面具      |
| 灰釉陶器        | かいうとうき               | 灰釉陶器      | 灰釉陶器      |
| 回廊          | かいろう                 | 回廊        | 迴廊        |
| 鏡板          | かがみいた                | 鑿         | 鑿         |
| 額田寺         | がくてんじ                | 額田寺       | 額田寺       |
| 角杯          | かくはい                 | 角杯        | 角杯        |
| 確率論的分析      | かくりつろんてきぶんせき         | 概率分析      | 概率分析      |
| 花崗岩         | かこうがん                | 花岗岩       | 花崗岩       |
| 瓦質土器        | がしつどき                | 瓦质陶器      | 瓦質陶器      |
| 可視領域分析      | かしりょういきぶんせき          | 视域分析      | 視域分析      |
| 春日社/春日大社    | かすがしや/かすがたいしや        | 春日社/春日大社  | 春日社/春日大社  |
| 火葬          | かそう                  | 火葬        | 火葬        |
| 刀           | かたな                  | 刀         | 刀         |
| 甲冑          | かつちゆう                | 铠甲        | 鎧甲        |

| 日本語        | ふりがな                  | 中国語(簡体字)   | 中国語(繁体字)   |
|------------|-----------------------|------------|------------|
| 金藏山古墳      | かなぐらやまこふん             | 金藏山古坟      | 金藏山古墳      |
| 窯          | かま                    | 窑          | 窯          |
| 竈          | かまど                   | 灶台         | 竈台         |
| 甕形土器       | かまどがたどき               | 陶灶/灶形陶器    | 陶甕/甕形陶器    |
| 甕棺墓        | かめかんぼ                 | 瓮棺墓        | 甕棺墓        |
| 加耶/加羅      | かや/から                 | 加耶/伽耶      | 加耶/伽耶      |
| ガラス玉       | がらすだま                 | 琉璃珠        | 琉璃珠        |
| 伽藍配置       | がらんはいち                | 伽藍配置       | 伽藍配置       |
| カリウム・アルゴン法 | かりうむ・あるごんほう           | 鉀-氫法       | 鉀-氫法       |
| 官営工房       | かんえいこうぼう              | 官营作坊       | 官营作坊       |
| 雁鴨池        | がんおうち                 | 雁鸭池        | 雁鸭池        |
| 環境考古学      | かんきょうこうがく             | 环境考古学      | 環境考古學      |
| 還元焰        | かんげんえん                | 还原气氛       | 還元燒成       |
| 環濠         | かんごう                  | 环濠         | 環濠         |
| 環濠集落       | かんごうしゅうらく             | 环濠聚落       | 環濠聚落       |
| 岩刻画        | がんこくが                 | 岩刻画        | 岩刻畫        |
| 乾漆         | かんしつ                  | 干漆         | 乾漆         |
| 環状棺金具      | かんじょうひつぎかなぐ           | 棺环         | 棺環         |
| 冠飾         | かんしょく                 | 冠饰         | 冠飾         |
| 鑑真         | がんじん                  | 鉴真         | 鑒真         |
| 完新世        | かんしんせい                | 全新世        | 全新世        |
| 観世音寺       | かんぜおんじ                | 观世音寺       | 觀世音寺       |
| 乾田         | かんでん                  | 旱田         | 旱田         |
| 環頭大刀       | かんとうち/かんとち/かんと<br>うだち | 环首大刀       | 環首大刀       |
| 間氷期        | かんびょうき                | 间冰期        | 間冰期        |
| 冠帽         | かんぼう                  | 冠帽         | 冠帽         |
| キーホルダー木簡   | きーほるだーもっかん            | 钥匙扣木简      | 鑰匙扣木簡      |
| 器高         | きこう                   | 器高         | 器高         |
| 器台         | きだい                   | 器座/器台/托    | 器座/器臺/托    |
| 基壇外装       | きだんがいそう               | 台基包边       | 基壇外裝       |
| 切先         | きっさき                  | 锋部         | 鋒部         |
| キトラ古墳      | きとらこふん                | Kitora古坟   | Kitora古墳   |
| 牛角形銅器      | ぎゅうかくがたどき             | 牛角形銅器      | 牛角形銅器      |
| 牛角形把手      | ぎゅうかくがたはしゅ            | 牛角形耳/牛角形把手 | 牛角形耳/牛角形把手 |
| 旧人         | きゅうじん                 | 早期智人       | 早期智人       |

| 日本語           | ふりがな          | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字) |
|---------------|---------------|----------|----------|
| 旧石器時代         | きゅうせっきじだい     | 旧石器时代    | 舊石器時代    |
| 宮都            | きゅうと          | 宮都       | 宮都       |
| 宮門            | きゅうもん         | 宫门       | 宮門       |
| 胸甲            | きょうこう         | 胸甲       | 胸甲       |
| 経蔵            | きょうぞう         | 藏经阁      | 藏經閣      |
| 共存            | きょうはん         | 共存/共存    | 共存/共存    |
| 曲刀            | きょくとう         | 曲刃刀      | 曲刃刀      |
| 魚骨文           | ぎょこつもん        | 鱼骨纹      | 魚骨紋      |
| 鋸歯緑石器         | きょしえんせつき      | 鋸形石器/石鋸  | 鋸形石器/石鋸  |
| 鋸歯文           | きょしもん         | 鋸齿纹      | 鋸齒紋      |
| 拠点集落          | きょてんしゅうらく     | 核心聚落     | 據點聚落     |
| 漁網錘           | ぎょうもうすい       | 网坠       | 網墜       |
| 虺龍文鏡          | きりゅうもんきょう     | 虺龙纹镜     | 虺龍紋鏡     |
| 儀礼            | ぎらい           | 仪式       | 儀式       |
| 禁苑            | きんえん          | 禁苑       | 禁苑       |
| 金冠            | きんかん          | 金冠       | 金冠       |
| 巾着型壺          | きんちゃくがたつぼ     | 袋状壺      | 袋狀壺      |
| 区画反復文         | くかくはんぷくもん     | 区间反复纹    | 區間反覆紋    |
| 櫛             | くし            | 梳        | 梳        |
| 櫛目文土器         | くしめもんどき       | 篦纹陶器     | 篦紋陶器     |
| 管玉            | くだたま          | 玉管       | 玉管       |
| 屈葬            | くっそう          | 屈身葬/屈肢葬  | 屈身葬/屈肢葬  |
| 首飾り           | くびかざり         | 颈饰       | 頸飾       |
| 凹石            | くぼみいし         | 凹石       | 凹石       |
| クラウドコンピューティング | くらうどこんぴゅーていんぐ | 云计算      | 雲端運算     |
| 鞍橋            | くらぼね          | 鞍桥       | 鞍橋       |
| クリーヴァー        | くりーうゝ あー      | 砍斫器/砍砸器  | 砍斫器/砍砸器  |
| グリッド          | ぐりっど          | 探方       | 探方       |
| 郡符木簡          | ぐんふもっかん       | 郡符木简     | 郡符木簡     |
| 蛍光X線          | けいこうえつくすせん    | X射线荧光    | X光螢光     |
| 傾向面解析         | けいこうめんかいせき    | 趋势面分析    | 趨勢面分析    |
| 型式学           | けいしきがく        | 类型学      | 類型學      |
| 茎部            | けいぶ           | 茎/茎部     | 莖/莖部     |
| 下駄            | げた            | 木屐       | 木屐       |
| 螭羽瓦/袖瓦        | けらばがわら/そでがわら  | 带折边仰瓦    | 袖瓦       |

| 日本語      | ふりがな         | 中国語(簡体字)   | 中国語(繁体字)   |
|----------|--------------|------------|------------|
| 間        | けん           | 开间         | 開間         |
| 剣        | けん           | 剑          | 劍          |
| 巻雲文      | けんうんもん       | 云纹         | 雲紋         |
| 遣新羅使     | けんしらぎし       | 遣新罗使       | 遣新羅使       |
| 遣隋使      | けんずいし        | 遣隋使        | 遣隋使        |
| 献納物      | けんのうぶつ       | 贡品         | 貢品         |
| 源平合戦     | げんべいがっせん     | 源平合战       | 源平合戰       |
| 口縁       | こうえん         | 口沿         | 口沿         |
| 高級アルコール法 | こうきゅうあるこーほう  | 高级醇浸漬法     | 高級醇浸漬法     |
| 皇居       | こうきょ         | 皇居         | 皇居         |
| 高句麗      | こうくり         | 高句丽        | 高句麗        |
| 口径       | こうけい         | 口径         | 口径         |
| 皇后宮      | こうごうぐう       | 皇后宫        | 皇后宮        |
| 皇后宮職     | こうごうぐうしき     | 皇后宫职       | 皇后宮職       |
| 考古地磁気    | こうちじき        | 古地磁勘探/古地磁学 | 古地磁勘探/古地磁學 |
| 庚午年籍     | こうごねんじやく     | 庚午年籍       | 庚午年籍       |
| 交差年代     | こうさねんだい      | 交叉年代       | 交叉年代       |
| 格子タタキ    | こうしたたき       | 拍印格子       | 拍印格子       |
| 格子文      | こうしもん        | 格子纹/方格纹    | 格子紋/方格紋    |
| 口唇       | こうしん         | 唇/口唇       | 唇/口唇       |
| 更新世      | こうしんせい       | 更新世        | 更新世        |
| 合子       | ごうす          | 盒          | 盒          |
| 高台       | こうだい         | 圈足         | 圈足         |
| 好太王碑     | こうたいおうひ      | 好太王碑       | 好太王碑       |
| 坑道       | こうどう         | 坑道         | 坑道         |
| 口頭伝承     | こうとうでんしょう    | 口头传承       | 口頭傳承       |
| 黄冶窯      | こうやよう        | 黄冶窑        | 黄冶窯        |
| 高麗       | こうらい         | 高丽         | 高麗         |
| 鴻臚館      | こうろかん        | 鸿臚馆        | 鴻臚館        |
| コールドデータ  | こーどでーた       | 冷数据        | 冷資料        |
| 黄金山産金遺跡  | こがねやまさんきんいせき | 黄金山産金遗址    | 黄金山産金遺址    |
| 後漢鏡      | ごかんきょう       | 东汉镜        | 東漢鏡        |
| 黒曜石      | こくようせき       | 黑曜石        | 黑曜石        |
| 極楽坊      | ごくらくぼう       | 极乐坊        | 極樂坊        |
| 腰壁       | こしかべ         | 槛墙         | 檻牆         |

| 日本語        | ふりがな          | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字) |
|------------|---------------|----------|----------|
| 腰壁束        | こしかべづか        | 槛牆短柱     | 檻牆短柱     |
| 五重塔        | ごじゅうのとう       | 五重塔      | 五重塔      |
| 五銖銭        | ごしゅせん         | 五銖钱      | 五銖錢      |
| 戸籍         | こせき           | 戸籍       | 戶籍       |
| 護石         | ごせき           | 护石       | 護石       |
| 古地磁気法      | こちじきほう        | 古地磁法     | 古地磁法     |
| 骨角器        | こっかくき         | 骨角器      | 骨角器      |
| 骨針         | こっしん          | 骨针       | 骨針       |
| 骨蔵器        | こつぞうき         | 骨壺       | 骨壺       |
| 骨鏃         | こつぞく          | 骨鏃       | 骨鏃       |
| コップ形土器     | こっぷがたどき       | 陶杯/杯形陶器  | 陶杯/杯形陶器  |
| コナベ古墳      | こなべこふん        | 小奈边古坟    | 小奈邊古墳    |
| 碁盤式支石墓     | ごばんしきしせきぼ     | 棋盘式支石墓   | 棋盤式支石墓   |
| 古墳         | こふん           | 古墓/陵墓    | 古墳       |
| 古墳時代       | こふんじだい        | 古坟时代     | 古墳時代     |
| 独楽         | こま            | 陀螺       | 陀螺       |
| コマ形土器/角形土器 | こまがたどき        | 陀螺型陶器    | 陀螺型陶器    |
| ゴミ捨て穴      | ごみすてあな        | 垃圾坑      | 垃圾坑      |
| 鼓楼         | ころう           | 鼓楼       | 鼓樓       |
| 壱田永年私財法    | こんでんえいねんしざいほう | 垦田永年私财法  | 墾田永年私財法  |
| 金銅冠        | こんどうかん        | 鍍金銅冠     | 鍍金銅冠     |
| 金銅大香炉      | こんどうだいこうろ     | 鍍金銅制大香炉  | 鍍金銅製大香爐  |
| 金銅塔        | こんどうとう        | 鍍金銅塔     | 鍍金銅塔     |
| 祭祀遺跡       | さいしいせき        | 祭祀遗址     | 祭祀遺址     |
| 細石刃        | さいせきじん        | 细石刃/细石叶  | 細石刃/細石葉  |
| 細石刃石核      | さいせきじんせっかく    | 细石刃石核    | 細石刃石核    |
| 細石器        | さいせっき         | 细石器      | 細石器      |
| 西塔         | さいとう          | 西塔       | 西塔       |
| サイバー考古学    | さいばーこうこがく     | 虚拟考古     | 虛擬考古     |
| 境ヶ谷戸遺跡     | さかいがやといせき     | 境谷戸遗址    | 境谷戶遺址    |
| 叉首         | さす            | 叉手       | 叉手       |
| 削器/スクレイパー  | さっき/すくれいぱー    | 刮削器      | 刮削器      |
| 佐波理        | さはり           | 响铜       | 響銅       |
| 寂び         | さび            | 闲寂       | 閒寂       |
| 鞘          | さや            | 鞘        | 鞘        |



| 日本語      | ふりがな           | 中国語(简体字) | 中国語(繁体字)     |
|----------|----------------|----------|--------------|
| 皿        | さら             | 碟/盘      | 碟/盤          |
| 酸化焰      | さんかえん          | 氧化气氛     | 氧化燒          |
| 三角縁神獣鏡   | さんかくぶちしんじゅうきょう | 三角縁神兽鏡   | 三角縁神獸鏡       |
| 三韓       | さんかん           | 三韩       | 三韓           |
| 三次元計測機   | さんじげんけいそくき     | 3D測量儀    | 3D量測儀        |
| 三枝槍      | さんしそう          | 三齿叉      | 三齒叉          |
| 三時代法     | さんじだいほう        | 三时代法     | 三時代法         |
| 三世一身法    | さんぜいっしんほう      | 三世一身法    | 三世一身法        |
| 三足器      | さんそくき          | 三足器      | 三足器          |
| サンドボックス  | さんどぼくす         | 沙盘       | 沙盤           |
| 三内丸山遺跡   | さんないまるやまいせき    | 三内丸山遗址   | 三内丸山遺址       |
| 紫香楽宮     | しがらきのみや        | 紫香乐宫     | 紫香樂宮         |
| 信貴山縁起絵巻  | しぎさんえんぎえまき     | 信贵山縁起絵巻  | 信貴山緣起繪卷      |
| 磯城嶋金刺宮   | しきしまのかなさしのみや   | 磯城島金刺宮   | 磯城島金刺宮       |
| 食堂       | じきどう           | 食堂       | 食堂           |
| 試掘       | しくつ            | 试掘       | 試掘           |
| 次元削減     | じげんさくげん        | 降维       | 降維           |
| 寺号       | じごう            | 寺号       | 寺號           |
| 四神図      | ししんず           | 四神图      | 四神圖          |
| 支石墓      | しせきぼ           | 支石墓/石棚   | 支石墓/石棚       |
| シソーラス    | しそーらす          | 主题词表/叙词表 | 主題詞表/索引典/叙詞表 |
| 実験考古学    | じっけんこうがく       | 实验考古学    | 實驗考古學        |
| 湿田       | しつでん           | 水田       | 水田           |
| 四天王寺     | してんのうじ         | 四天王寺     | 四天王寺         |
| 刺突文      | しとつもん          | 刺突纹      | 刺突紋          |
| 鑄造       | しのぎづくり         | 鑄造       | 鑄造           |
| 地覆石      | じふくいし          | 土衬石      | 土襯石          |
| シミュレーション | しみゅれーしょん       | 模拟/仿真    | 模擬/仿真        |
| 遮光器土偶    | しゃこうきどくう       | 遮光器土偶    | 遮光器土偶        |
| 写真測量法    | しゃしんそくりょうほう    | 摄影测量     | 攝影測量         |
| 舍利装厳具    | しゃりしょうごんぐ      | 舍利装置     | 舍利裝置         |
| 住居址      | じゅうきよし         | 房址       | 房址           |
| 周溝       | しゅうこう          | 围沟       | 圍溝           |
| 重弧文      | じゅうこもん         | 重弧纹      | 重弧紋          |
| 集線文      | しゅうせんもん        | 集线纹      | 集線紋          |

| 日本語          | ふりがな            | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字)    |
|--------------|-----------------|----------|-------------|
| 獸帯鏡          | じゅうたいきょう        | 兽带镜      | 獸帶鏡         |
| 十二支          | じゅうにし           | 十二生肖     | 十二生肖        |
| 集落           | しゅうらく           | 聚落       | 聚落          |
| 須弥山石         | しゅみせんせき         | 須弥山石     | 須彌山石        |
| 須弥壇          | しゅみだん           | 須弥坛      | 須彌壇         |
| 狩猟           | しゅりょう           | 狩猎       | 狩獵          |
| 城郭           | じょうかく           | 城郭       | 城郭          |
| 使用痕          | しょうこん           | 使用痕      | 使用痕         |
| 将台           | しょうだい           | 点将台/将台   | 點將臺/將臺      |
| 鎌斗           | しょうと            | 鎌斗       | 鎌斗          |
| 縄文時代         | じょうもんじだい        | 绳纹时代     | 繩紋時代        |
| 鐘楼           | しょうろう           | 钟楼       | 鐘樓          |
| 丈六仏          | じょうろくぶつ         | 丈六佛      | 丈六佛         |
| 続日本紀         | しよくにほんぎ         | 续日本纪     | 續日本紀        |
| 植物考古学        | しよくぶつこうこがく      | 植物考古学    | 植物考古學       |
| 新羅           | しらぎ/しんら         | 新罗       | 新羅          |
| シルクロード       | しるくろード          | 丝绸之路     | 絲綢之路        |
| 辰韓           | しんかん            | 辰韩       | 辰韓          |
| 神獸鏡          | しんじゅうきょう        | 神兽镜      | 神獸鏡         |
| 心礎           | しんそ             | 塔心柱础     | 塔心柱礎        |
| 伸展葬          | しんでんそう          | 仰身直肢葬    | 仰身直肢葬       |
| 新益京          | しんやくのみやこ        | 新益京      | 新益京         |
| 水中考古学        | すいちゅうこうこがく      | 水下考古学    | 水下考古學       |
| 数値標高モデル(DEM) | すうちひょうこうもでる(でむ) | 数字高程模型   | 數值高程模型      |
| 数理形態学        | すうりけいたいがく       | 数学形态学    | 數理形態學/數學形態學 |
| 陶邑窯          | すえむらよう          | 陶邑窑      | 陶邑窯         |
| 透彫           | すかしぼり           | 镂雕       | 鏤雕          |
| 杉山古墳         | すぎやまこふん         | 杉山古坟     | 杉山古墳        |
| 硯            | すずり             | 砚        | 硯           |
| 炭窯           | すみがま            | 炭窑       | 炭窯          |
| 製塩土器         | せいえんどぎ          | 制盐陶器     | 製鹽陶器        |
| 生業           | せいぎょう           | 生业形态     | 生業形態        |
| 青銅器          | せいどうき           | 青铜器      | 青銅器         |
| 青銅器時代        | せいどうきじだい        | 青铜时代     | 青銅時代        |
| 西方官衙         | せいほうかんが         | 西方官衙     | 西方官衙        |

| 日本語           | ふりがな                | 中国語(簡体字)  | 中国語(繁体字)  |
|---------------|---------------------|-----------|-----------|
| 石棺墓           | せつかんぼ               | 石棺墓       | 石棺墓       |
| 摂津職           | せつつしき               | 摂津职       | 攝津職       |
| 前漢鏡           | ぜんかんきょう             | 西汉镜       | 西漢鏡       |
| 全国遺跡報告総覧      | ぜんこくいせきほうこくそうらん     | 全国遗址报告总览  | 全國遺址報告總覽  |
| 層位学/層位論/層序学   | そういがく/そういろん/そうじょがく  | 层位学/地层学   | 層位學/地層學   |
| 造東大寺司         | ぞうとうだいじし            | 造东大寺司     | 造東大寺司     |
| 即位式           | そくいしき               | 即位式       | 即位式       |
| 即位の大礼         | そくいのたいれい            | 即位大典      | 即位大典      |
| 台石            | だいいし                | 石砧        | 石砧        |
| 台座            | だいざ                 | 底座        | 底座        |
| 大僧正           | だいそうじょう             | 大僧正       | 大僧正       |
| 大宝律令          | たいほうりつりょう           | 大宝律令      | 大寶律令      |
| 卓子式支石墓        | たくじしきしせきぼ           | 桌子式支石墓/石棚 | 桌子式支石墓/石棚 |
| 高市大寺          | たけちだいじ              | 高市大寺      | 高市大寺      |
| 多言語化          | たげんごか               | 多语化       | 多語化       |
| 太宰府           | だざいふ                | 太宰府       | 太宰府       |
| 打製石斧          | だせいせきふ              | 打制石斧      | 打製石斧      |
| 打製石器          | だせいせっき              | 打制石器      | 打製石器      |
| タタキ板          | たたきいた               | 陶拍        | 陶拍        |
| 単面器           | たんめんき               | 砍砸器(单刃)   | 砍砸器(單刃)   |
| 地質学           | ちしつがく               | 地质学       | 地質學       |
| 知的財産権         | ちてきざいさんけん           | 知识产权(IP)  | 智慧財產權(IP) |
| 地表調査          | ちひょうちょうさ            | 地表调查/踏查   | 地表調查/踏查   |
| 中央集権          | ちゅうおうしゅうけん          | 中央集权      | 中央集權      |
| 中新世           | ちゅうしんせい             | 中新世       | 中新世       |
| 鑄銭所           | ちゅうせんしょ             | 铸钱所       | 鑄錢所       |
| 彫刻器           | ちょうこくき              | 雕刻器       | 雕刻器       |
| 直口壺           | ちよっこうつぼ             | 直口壺       | 直口壺       |
| 地理情報システム(GIS) | ちりじょうほうしすてむ(じーあいえす) | 地理信息系统    | 地理資訊系統    |
| 鎮墓獣           | ちんぼじゅう              | 镇墓兽       | 鎮墓獸       |
| 坏/杯           | つき                  | 浅陶碗       | 淺陶碗       |
| 鎚             | つち                  | 锤         | 錘         |
| 壺             | つぼ                  | 壺         | 壺         |
| 釣針            | つりばり                | 鱼钩        | 魚鉤        |
| 底径            | ていけい                | 底径        | 底徑        |

| 日本語                    | ふりがな                       | 中国語(簡体字)     | 中国語(繁体字)     |
|------------------------|----------------------------|--------------|--------------|
| 泥質系土器                  | でいしつけいどき                   | 泥质陶器         | 泥質陶器         |
| 定住生活                   | ていじゅうせいいかつ                 | 定居生活         | 定居生活         |
| 定置成形                   | ていちせいけい                    | 正置成型         | 正置成型         |
| 底部                     | ていぶ                        | 底部           | 底部           |
| データクラスタリング             | でーたくらすたりんぐ                 | 聚类分析         | 聚類分析         |
| データベース(DB)             | でーたべーす(でいーびー)              | 数据库          | 資料庫          |
| 敵台                     | てきだい                       | 敌楼/敌台        | 敵樓/敵臺        |
| デジタル化                  | でじたるか                      | 数字化          | 數位化          |
| 手づくね法                  | てづくねほう                     | 捏塑法/手制法      | 捏塑法/手製法      |
| 点群/ポイントクラウド            | てんぐん/ぽいんとくらうど              | 点云           | 點雲           |
| 電子スピン共鳴(ESR)法          | でんしすびんきょうめい(いーえすあー)ほう      | 电子自旋共振(ESR)法 | 電子自旋共振(ESR)法 |
| 天然痘                    | てんねんとう                     | 天花           | 天花           |
| 天平勝宝                   | てんぴょうしょうほう                 | 天平胜宝         | 天平勝寶         |
| 天平宝字                   | てんぴょうほうじ                   | 天平宝字         | 天平寶字         |
| 陶器                     | とうき                        | 陶器           | 陶器           |
| 銅剣                     | どうけん                       | 铜剑           | 銅劍           |
| 動作連鎖/操作連鎖/シェーン・オペラトワール | どうされんさ/そうされんさ/しゅーん・おぺらとわーる | 操作链          | 操作鏈          |
| 陶質土器/炆器                | とうしつどき/せっき                 | 炆器           | 炆器           |
| 堂舎跡                    | どうしゃあと                     | 堂舍址          | 堂舍址          |
| 東大寺要録                  | とうだいじようろく                  | 东大寺要录        | 東大寺要錄        |
| 倒置成形                   | とうちせいけい                    | 倒置成型         | 倒置成型         |
| 東塔                     | とうとう                       | 东塔           | 東塔           |
| 同範                     | どうはん                       | 同範           | 同範           |
| 東方官衙                   | とうほうかなが                    | 东方官衙         | 東方官衙         |
| トータルステーション             | とーたるとすてーしょん                | 全站仪          | 全站儀          |
| 塗金                     | とぎん                        | 鑱金           | 鑱金           |
| 土偶                     | どぐう                        | 土偶           | 土偶           |
| 土壙墓/土坑墓                | どこうぼ                       | 土圹墓          | 土壙墓          |
| 祈年の祭                   | としごいのまつり                   | 祈年祭          | 祈年祭          |
| 都城                     | とじょう                       | 都城           | 都城           |
| 土城                     | どじょう                       | 土城           | 土城           |
| 土地区画(パーセル)             | とちくかく(ぱーせる)                | 图斑           | 土地區劃         |
| トポロジー/位相幾何学            | とぼろじー/いそうきかがく              | 拓扑           | 拓撲           |
| 長登銅山                   | ながのぼりどうざん                  | 长登铜山         | 長登銅山         |
| 中山瓦窯                   | なかやまがよう                    | 中山瓦窑         | 中山瓦窯         |

| 日本語                 | ふりがな                | 中国語(简体字)    | 中国語(繁体字)    |
|---------------------|---------------------|-------------|-------------|
| 魚々子                 | ななこ                 | 鱼子地         | 魚子地         |
| 難波京                 | なにわきょう              | 难波京         | 難波京         |
| 難波長柄豊碕宮             | なにわのながらとよさきのみや      | 难波长柄丰碕宫     | 難波長柄豐碕宮     |
| 難波宮                 | なにわのみや              | 难波宮         | 難波宮         |
| 奈保山                 | なほやま                | 奈保山         | 奈保山         |
| 鉛釉陶器                | なまりゆうとうき/えんゆうとうき    | 鉛釉陶器        | 鉛釉陶器        |
| 西堀河                 | にしほりかわ              | 西堀河         | 西堀河         |
| ニューラルネットワーク         | にゅーらるねっとわーく         | 神经网络        | 神經網路        |
| 額見町遺跡               | ぬかみまちいせき            | 額見町遗址       | 額見町遗址       |
| 熱ルミネッセンス法           | ねつるみねっせんすほう         | 热释光断代法      | 熱釋光斷代法      |
| 年縞                  | ねんこう                | 纹泥          | 紋泥          |
| 後飛鳥岡本宮              | のちのあすかおかもとのみや       | 后飞鸟冈本宫      | 後飛鳥岡本宮      |
| 登り窯                 | のぼりがま               | 龙窑/还焰窑      | 龍窯/還焰窯      |
| バーチャル展示             | ばーちゃるてんじ            | 虚拟展示        | 虛擬展示        |
| バーチャル復元             | ばーちゃるふくげん           | 虚拟复原        | 虛擬復原        |
| バーチャルリアリティー(VR)     | ばーちゃるりありてぃー(ぶいあーる)  | 虚拟现实        | 虛擬實境        |
| 馬韓                  | ばかん                 | 马韩          | 馬韓          |
| 剥片                  | はくへん                | 石片/剥片       | 石片/剝片       |
| 白鳳文化                | はくほうぶんか             | 白凤文化        | 白鳳文化        |
| 橋寺                  | はしてら                | 桥寺          | 橋寺          |
| 柱                   | はしら                 | 柱           | 柱           |
| 埴輪                  | はにわ                 | 埴轮          | 埴輪          |
| 隼人                  | はやと                 | 隼人          | 隼人          |
| 梁                   | はり                  | 梁           | 樑           |
| PEG                 | ぴーいーじー/ぼりえちれんぐりこーる  | PEG/聚乙二醇    | PEG/聚乙二醇    |
| 東堀河                 | ひがしほりかわ             | 东堀河         | 東堀河         |
| 肘木                  | ひじき                 | 横拱          | 橫拱          |
| 棺                   | ひつぎ                 | 棺           | 棺           |
| ヒューマンコンピュータインタラクション | ひゅーまんこんぴゅーたいんたらくしょん | 人机交互        | 人機交互        |
| 兵衛府                 | ひょうえふ               | 兵卫府         | 兵衛府         |
| 氷河時代                | ひょうがじだい             | 冰河时代        | 冰河时代        |
| 氷期                  | ひょうき                | 冰期          | 冰期          |
| 広口壺                 | ひろくちつぼ              | 广口壺         | 廣口壺         |
| ファジィ論理              | ふぁじいろんり             | 模糊逻辑        | 模糊邏輯        |
| フィッション・トラック法        | ふいっしょん・とらっくほう       | 裂变径迹法断代/FT法 | 裂變徑跡法斷代/FT法 |

| 日本語                | ふりがな                                   | 中国語(簡体字)       | 中国語(繁体字)       |
|--------------------|--|----------------|----------------|
| 副葬品                | ふくそうひん                                 | 随葬品            | 隨葬品            |
| 蓋                  | ふた                                     | 盖/器盖           | 蓋/器蓋           |
| 蓋石式支石墓             | ふたいししきしせきぼ                             | 盖石式支石墓         | 蓋石式支石墓         |
| 蓋坏                 | ふたつき                                   | 带盖浅陶碗          | 帶蓋淺陶碗          |
| ブレイン               | ぶれいん                                   | 石核刮削器          | 石核刮削器          |
| プロセス考古学            | ぶろせすこうがく                               | 过程主义考古学        | 過程主義考古學        |
| 文化財イベントナビ          | ぶんかざいいべんとナビ                            | 文化财活动导航        | 文化財活動導航        |
| 文化財総覧WebGIS        | ぶんかざいそうらんうえぶじーあいえす                     | 文化财总览WebGIS    | 文化財總覽WebGIS    |
| 文化財動画ライブラリー        | ぶんかざいどうがらいぶらりー                         | 文化财视频库         | 文化財影片庫         |
| 文化財論文ナビ            | ぶんかざいろんぶんナビ                            | 文化财论文导航        | 文化財論文導航        |
| 墳丘墓                | ふんきゅうぼ                                 | 坟丘墓            | 墳丘墓            |
| 分子量                | ぶんしりょう                                 | 相对分子质量/分子量     | 分子量            |
| 平安宮                | へいあんきゅう                                | 平安宮            | 平安宮            |
| ベイズ分析              | べいずぶんせき                                | 贝叶斯分析          | 貝氏分析           |
| 宝亀                 | ほうき                                    | 宝龟             | 寶龜             |
| 放射性炭素年代測定法/炭素14年代法 | ほうしゃせいたんそねんだいそくてい<br>ほう/たんそじゅうよんねんだいほう | 放射性碳素断代/碳14測年法 | 放射性碳素斷代/碳14測年法 |
| 放射線文               | ほうしゃせんもん                               | 放射状条纹          | 放射線紋           |
| 紡錘車                | ぼうすいしゃ                                 | 纺轮             | 紡輪             |
| ポストプロセス考古学         | ぼすとぶろせすこうがく                            | 后过程主义考古学       | 後過程主義考古學       |
| 卜骨                 | ぼっこつ                                   | 卜骨             | 卜骨             |
| ホットデータ             | ほっとでーた                                 | 热数据            | 熱資料            |
| ホログラフィー            | ほろぐらふいー                                | 全息             | 全息             |
| 本瓦葺                | ほんがわらぶき                                | 筒板瓦屋面          | 圓平瓦屋面          |
| マイクロコンピューター        | まいくろこんぴゅーたー                            | 微机             | 微型電腦           |
| 勾玉                 | まがたま                                   | 曲玉/勾玉          | 曲玉/勾玉          |
| 巻上げ法               | まきあげほう                                 | 泥条盘筑法          | 泥條盤築法          |
| 蒔絵                 | まきえ                                    | 蒔绘             | 蒔繪             |
| 纏向遺跡               | まきむくいせき                                | 缠向遗址           | 纏向遺址           |
| 枕                  | まくら                                    | 头枕             | 頭枕             |
| 磨研                 | まけん                                    | 抛光/研磨          | 拋光/研磨          |
| 真弧                 | まこ                                     | 轮廓量规/仿形尺       | 輪廓量規/仿形規       |
| 磨製石器               | ませいせっき                                 | 磨制石器           | 磨製石器           |
| 末醬                 | まつしょう                                  | 末醬(类似味噌的古代调味料) | 末醬(類似味噌的古代調味料) |
| まな板                | まないた                                   | 砧板             | 砧板             |
| 丸木舟                | まるきぶね                                  | 独木舟            | 獨木舟            |

| 日本語     | ふりがな        | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字) |
|---------|-------------|----------|----------|
| 丸玉      | まるだま        | 环玉/珠玉/珠料 | 環玉/珠玉/珠料 |
| 磨き      | みがき         | 研磨       | 研磨       |
| 詔       | みことりのり      | 詔        | 詔        |
| 港川人     | みなとがわじん     | 港川人      | 港川人      |
| 耳飾り     | みみかざり       | 耳饰       | 耳飾       |
| 屯倉      | みやけ         | 屯仓       | 屯倉       |
| 無文土器    | むもんどき       | 无纹陶器     | 無紋陶器     |
| 木柵      | もくさく        | 围栏/柵栏    | 圍欄/柵欄    |
| 裳階      | もこし         | 副阶       | 裳階       |
| 木棺墓     | もっかんぼ       | 木棺墓      | 木棺墓      |
| 本薬師寺    | もとやくしじ      | 本药师寺     | 本藥師寺     |
| 銚       | もり          | 鱼叉       | 魚叉       |
| モンテカルロ法 | もんてかるろほう    | 随机模拟法    | 蒙地卡罗模拟法  |
| 山形文     | やまがたもん      | 山形纹      | 山形紋      |
| 山城      | やまじろ        | 山城       | 山城       |
| 弥生文化    | やよいぶんか      | 弥生文化     | 彌生文化     |
| 弓矢      | ゆみや         | 弓箭       | 弓箭       |
| 溶解炉     | ようかいろう      | 熔炉       | 熔爐       |
| 様式      | ようしき        | 样式       | 樣式       |
| 甬道      | ようどう        | 甬道       | 甬道       |
| 瓔珞      | ようらく        | 瓔珞/摇叶    | 瓔珞       |
| 养老律令    | ようろうりつりょう   | 养老律令     | 養老律令     |
| 横穴式石室墓  | よこあなしきせきしつぼ | 横穴式石室墓   | 橫穴式石室墓   |
| 横大路     | よこおおじ       | 横大路      | 橫大路      |
| 横口式石室墓  | よこぐちしきせきしつぼ | 横口式石室墓   | 橫口式石室墓   |
| 吉野ヶ里遺跡  | よしのがりいせき    | 吉野里遗址    | 吉野里遺址    |
| 礼拝石     | らいはいせき      | 礼拜石      | 禮拜石      |
| 雷文土器    | らいもんどき      | 雷纹陶器     | 雷紋陶器     |
| 楽浪郡     | らくろうぐん      | 乐浪郡      | 樂浪郡      |
| 隆起線文    | りゅうきせんもん    | 附加堆纹     | 附加堆紋     |
| 隆起帯文    | りゅうきたいもん    | 附加堆纹     | 附加堆紋     |
| 隆起文土器   | りゅうきもんどき    | 附加堆纹陶器   | 附加堆紋陶器   |
| 両鈕付小甕   | りょうちゅうつきこがめ | 双钮小瓮     | 雙鈕小甕     |
| 令義解     | りょうのぎげ      | 令义解      | 令義解      |
| 両面器     | りょうめんき      | 砍砸器(双刃)  | 砍砸器(雙刃)  |



| 日本語  | ふりがな    | 中国語(簡体字) | 中国語(繁体字) |
|------|---------|----------|----------|
| 類型   | るいけい    | 类型       | 類型       |
| 盧舍那仏 | るしゃなぶつ  | 卢舍那佛     | 盧舍那佛     |
| レーザー | れーざー    | 鐳射       | 雷射       |
| 礫器   | れっき/れきき | 砾石器      | 礫石器      |
| 連子子  | れんじこ    | 直椽       | 直椽       |
| 連子窓  | れんじまど   | 直椽窗      | 直椽窗      |
| 輪積み法 | わづみほう   | 泥条圈筑法    | 泥條圈築法    |
| 侘び   | わび      | 枯淡       | 枯淡       |

## 文化財関連用語日韓対訳集

## 凡例

- (1) この対訳集に収録されている単語は、奈文研企画調整部文化財情報研究室の扨素妍が2021年2月～11月の間におこなった翻訳業務で取扱ったものから収集した。
- (2) 各固有名詞の表記は、扨2021「平城京・平城宮の遺跡名や地名の韓国語表記方法に関する方針（案）」『文化財多言語化研究報告』中の「奈文研としての案」に従った。
- (3) 二重表記をさけるため、「韓国語」対訳語の部分には、翻訳文には（ ）の中で併記している日本語部分は除いて、ハングル表記のみを載せた。
- (4) 日本語は単語であっても、韓国語翻訳する際に説明が必要で文章になったものはそのまま記入した。
- (5) 日本語単語を五十音順に表記している。

| 日本語       | 한국어                   |
|-----------|-----------------------|
| アカガシ亜属    | 복가시나무 아속              |
| 犬走り       | 빗물받이용 흙               |
| ガラス小玉     | 작은 유리구슬               |
| かりうち      | 카리우치                  |
| 査読制       | 심사제                   |
| ストロボ      | 스트로보라는 강한 섬광 전구       |
| デジタル・トレース | 디지털 트레이싱              |
| 東回廊       | 동회랑                   |
| 平城地区      | 헤이조 지구                |
| ぶんまわし     | 봉마와시(고대의 컵퍼스)         |
| モッコク      | 후피향나무                 |
| 伊勢国       | 이세노쿠니                 |
| 伊豆国       | 이즈노쿠니                 |
| 遺例        | 남아있는 예                |
| 猿石        | 원숭이 모양 돌              |
| 凹部厚       | 오목한 부분 두께             |
| 横材        | 가로재                   |
| 架構        | 부재 짜임새                |
| 茄子瓜入醬     | 가지와 오이 요리             |
| 雅楽寮       | 궁정의 음악을 담당하는 관청인 가가쿠료 |
| 界圏の径      | 내구 지름                 |
| 外縁の厚さ     | 주연부 두께                |
| 外枠内径      | 외곽선 안쪽 지름             |
| 格段の情報量    | 일등히 많은 정보량            |
| 隔年        | 2년에 한 번               |

| 日本語                | 한국어                                   |
|--------------------|---------------------------------------|
| 鎌倉                 | 카마쿠라                                  |
| 瓦礫                 | 와록                                    |
| 卷斗                 | 소로                                    |
| 官寺                 | 관사                                    |
| 觀音堂                | 관음당                                   |
| 岐阜県岐阜市             | 기후켄 기후시                               |
| 旗竿                 | 깃간: 깃발을 거는 막대                         |
| 吉備内親王              | 키비 내친왕                                |
| 脚部径                | 각부 지름                                 |
| 魚子                 | 나나코라는 금속 표면에 작은 돌기를 새기는 세공 방식         |
| 京都市岡崎              | 쿄토시 오카자키                              |
| 京都府宇治市             | 쿄토후 우지시                               |
| 熊本県                | 쿠마모토켄                                 |
| 桂竹                 | 참대                                    |
| 桁                  | 도리                                    |
| 月光                 | 갓코                                    |
| 碗面径                | 연당 지름                                 |
| 肩の径                | 견부 직경                                 |
| 元正                 | 겐쇼                                    |
| 袴腰付き鐘楼             | 하츄부가 끝으로 갈수록 넓어지는 하카마고시라는 구조로 만들어진 종루 |
| 菰川                 | 코모가와 강                                |
| 後皇子尊               | 노치노미코노미코토                             |
| 護国寺                | 고코쿠지 절                                |
| 広報                 | 홍보                                    |
| 弘法                 | 일본 진언종을 연 헤이안 시대 승려 코보                |
| 甲斐国                | 카이노쿠니                                 |
| 皇居                 | 황거                                    |
| 皇后宮(聖武天皇の皇后光明子の宮殿) | 황후궁(쇼무 천황의 황후인 코묘시의 궁전)               |
| 荒堅魚                | 아라가쓰오란 쥘 가다랑어를 살짝 말린 상태의 가다랑어 가공품     |
| 高屋連家麻呂             | 다카야노 무라지야카마로                          |
| 高市皇子               | 타케치노미코 황자                             |
| 高所作業車              | 고소작업차                                 |
| 高松塚古墳壁画            | 타카마쓰즈카 고분 벽화                          |
| 高精細な               | 고화질로 자세한 부분까지 확인할 수 있는                |
| 高精度な               | 정밀도 높게                                |

| 日本語      | 한국어                     |
|----------|-------------------------|
| 高知県      | 코치켄                     |
| 腰板       | 앉을개                     |
| 腰壁束      | 머름동자                    |
| 紺琉璃坏     | 감색 유리잔                  |
| 砂岩製      | 사암제                     |
| 坂田寺      | 사카타데라 절                 |
| 作業の省力化   | 작업의 생력화                 |
| 山田寺      | 야마다데라 절                 |
| 山田殿像     | 야마다도노의 상                |
| 四天王寺式    | 시텐노지 식                  |
| 四万十川     | 시만토가와 강                 |
| 糸巻横木     | 실패                      |
| 悉皆調査     | 전체조사                    |
| 漆紙文書     | 옷칠된 종이 문서               |
| 積読       | 읽을 수 있도록 풀어 쓰는 석독       |
| 若かりし頃    | 젊었을 적                   |
| 手測り      | 손수 실측 작업                |
| 珠紋       | 구슬 무늬                   |
| 十二支八卦鏡   | 십이지 팔괘 거울               |
| 駿河国      | 스루가노쿠니                  |
| 諸寺縁起集    | 쇼지엔기슈                   |
| 衝立       | 칸막이                     |
| 上宮聖徳法王帝説 | 쇼토쿠 태자의 전기인 조구쇼토쿠오테이세쓰  |
| 条間路      | 조칸로                     |
| 浄土寺      | 조도지 절                   |
| 埴輪       | 하니와                     |
| 心礎       | 탑의 가운데 세우는 기둥의 주춧돌인 심초  |
| 新潟県佐渡市   | 니가타켄 사도시                |
| 森蘊       | 모리 오사무                  |
| 真弧       | 작은 나무 봉을 이용한 윤곽 계측기인 마코 |
| 垂木栓      | 서까래 나무 못                |
| 水須々保理    | 질임요리                    |
| 崇峻       | 수순                      |
| 生態学      | 생태학                     |
| 西海道      | 사이카이도                   |

| 日本語       | 한국어                         |
|-----------|-----------------------------|
| 西橋        | 니시타치바나                      |
| 西塔        | 서탑                          |
| 西堀川       | 서쪽의 니시호리카와                  |
| 石神遺跡      | 이시가미 유적                     |
| 石川朝臣年足    | 이시카와노 아손토시타리                |
| 赤漆小櫃      | 적칠 작은 껌                     |
| 赤米献上隊     | 아카마이 헌상대                    |
| 切り盛り      | 꾸려나가다                       |
| 切り石       | 마름돌                         |
| 蘇我倉山田石川麻呂 | 소가노쿠라 야마다 이시카와노 마로          |
| 曹司正殿      | 조시의 세이덴                     |
| 草戸千軒町遺跡   | 쿠사도 센겐마치 유적                 |
| 側縁部厚      | 측면 가장자리 부분 두께               |
| 村岡正       | 무라오카 타다시                    |
| 体部最大幅     | 몸통 부분 최대너비                  |
| 対訳集       | 맞춤번역용어집                     |
| 大安寺       | 다이안지 절                      |
| 大化山山田寺    | 다이카잔야마다테라 절                 |
| 大炊寮       | 오이료(대취료)                    |
| 大斗        | 주두                          |
| 豎櫛        | 나무빗                         |
| 豎櫛の歯      | 빗의 살                        |
| 地質学       | 지질학                         |
| 地理学       | 지리학                         |
| 池上曾根遺跡    | 이케가미소네 유적                   |
| 中川地区      | 나카가와 지구                     |
| 中務省       | 나카쓰카사쇼(중무성)                 |
| 柱根        | 기둥밑동                        |
| 町割        | 마을 구획                       |
| 長押        | 중인방                         |
| 長屋王家令所    | 나가야왕가의 집안 업무를 총괄하는 나가야오카레이쇼 |
| 長良川       | 나가라가와 강                     |
| 鳥取県智頭町    | 토토리켄 치즈초                    |
| 鳥木石夾纈屏風   | 협힐 방식으로 새 나무 돌을 염색해 넣은 병풍   |
| 底径        | 바닥 지름                       |

| 日本語          | 한국어   |
|--------------|---|
| 底部心厚         | 바닥 부분 골지름   |
| 廷喜内膳司式       | 엔기나이젠시키   |
| 天平寶字         | 텐표호지  |
| 田村第          | 타무라노다이  |
| 都市工学         | 도시공학  |
| 砥石           | 숫돌  |
| 土坑           | 흙구덩이  |
| 土木工学         | 토목공학  |
| 東金堂          | 토콘도   |
| 東堀川          | 동쪽의 히가시호리카와   |
| 棟木           | 종도리   |
| 盗掘孔          | 도굴 구멍   |
| 藤原宮朝堂院東第六堂跡  | 후지와라궁 초도인 동쪽 제6당터   |
| 藤原仲麻呂        | 후지와라노 나카마로  |
| 透かし孔         | 투각한 구멍  |
| 陶硯           | 도자기 베투  |
| 頭貫           | 창방  |
| 道具瓦          | 도구 기와   |
| 奈文研論叢        | 나문연논총   |
| 南都           | 난토, 현재의 나라  |
| 日光           | 닛코  |
| 日高山          | 히다카야마 산   |
| 杯            | 잔   |
| 剥落           | 벗겨져 떨어져버리는 박락   |
| 白瑠璃水瓶        | 백색 유리병  |
| 八鹿小学校        | 요우카 초등학교  |
| 版位           | 현이·울렁 규정에 따라 조정의 의식 때에 참석자의 위치를 정해 놓고 그 안표를 표시해둔 판과 그 판으로 인해 정해진 위계의 순서 |
| 扉板           | 문짝 판  |
| 肥後国          | 히고노쿠니   |
| 飛鳥池遺跡        | 아스카이케 유적  |
| 備前国          | 비젠노쿠니   |
| 肘木           | 침차  |
| 桧扇の各骨の下端部(要) | 부챗살의 하단부(군안)  |
| 不破関          | 후와노세키   |
| 富本銭          | 후혼센   |

| 日本語    | 한국어                              |
|--------|----------------------------------|
| 扶桑略記   | 후소랴쿠기                            |
| 舞人     | 춤을 추는 직인인 마이비토                   |
| 風招     | 풍판(風板)                           |
| 風鐸     | 풍탁                               |
| 文化的景観  | 문화적 경관                           |
| 文武     | 문무                               |
| 兵部卿    | 효부교(병부경)                         |
| 柄の中央で径 | 자루 한가운데 지름                       |
| 閉塞石    | 막음돌                              |
| 方立     | 중간 문설주                           |
| 法隆寺    | 호류지 절                            |
| 豊岡市    | 토요오카시                            |
| 坊間路    | 보칸로                              |
| 北山杉    | 키타야마 삼나무 숲                       |
| 堀川     | 시장으로 물자를 운반하는 운하인 호리카와           |
| 本薬師寺跡  | 모토야쿠시지 절터                        |
| 本薬師寺   | 모토야쿠시지 절                         |
| 民俗学    | 민속학                              |
| 夢殿     | 유메도노                             |
| 名勝     | 명승                               |
| 面取り    | 모서리가 깎인                          |
| 木質遺物   | 나무질 유물                           |
| 木彫像    | 목조 조각상                           |
| 役行者    | 일본 수험도의 개조인 엔노교자                 |
| 窠跡     | 가마티                              |
| 養父市    | 야부시                              |
| 流紋岩製   | 유문암제                             |
| 留針     | 유침                               |
| 靈龜     | 레이키                              |
| 刹柱     | 탑의 상륜부를 지탱하기 위해 세우는 탑의 중심 기둥인 찰주 |
| 授首     | '사'자대공                           |
| 檜扇     | 노송나무 부채                          |
| 笥(木型)  | 목제 형틀                            |
| 緞銭     | 돈 꿰미                             |



# 多言語に関するガイドラインリスト

(関係法令・ガイドライン等)

高田 祐一・奈良文化財研究所

## A List of Japanese Guidelines for Developing Foreign-Language Materials

Takata Yuichi・Nara National Research Institute for Cultural Properties

多言語に関するガイドライン等は、様々な分野で作成されている。文化財多言語化に資するガイドラインもあることから、リスト化した。根拠法や指針についても対象とした。

| 項番 | タイトル   | 発行機関        | 発行年          | 内容 | URL   |
|----|--|-------------|--------------|----|---|
| 1  | 外国人観光旅客の来訪の促進等による国際観光の振興に関する法律施行規則(平成九年六月十八日運輸省令第三十九号) | 観光庁         | 平成9年<br>6月   |    | <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html">http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html</a>                 |
| 2  | 観光立国推進基本法(平成十八年十二月二十日法律第百十七号)                          | 観光庁         | 平成18年<br>12月 |    | <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html">http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html</a>                 |
| 3  | 文部科学省委託事業博物館の望ましい姿シリーズ 4「誰にもやさしい博物館づくり事業 パリアフリーのために」   | 財団法人日本博物館協会 | 平成17年<br>3月  |    | —   |
| 4  | 外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律施行令                  | 観光庁         | 平成18年        |    | <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html">http://www.mlit.go.jp/kankocho/about/houritsu.html</a>                 |
| 5  | 多言語防災リーフレットの作成   | 横浜市         | 平成21年<br>9月  |    |   |
| 6  | 横浜市多言語広報指針   | 横浜市         | 平成22年<br>7月  |    |   |
| 7  | 観光立国推進基本計画   | 観光庁         | 平成24年<br>3月  |    | <a href="https://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/kihonhou.html">https://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/kihonhou.html</a> |
| 8  | 観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン                        | 観光庁         | 平成26年<br>3月  |    | <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf</a>                               |
| 9  | 観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン(概要)                    | 観光庁         | 平成26年<br>3月  |    |   |
| 10 | 外国人向け多言語説明資料(診療申込書、入院申込書、問診票等)                         | 厚生労働省       | 平成26年<br>3月  |    |   |

| 項番 | タイトル  | 発行機関              | 発行年          | 内容 | URL |
|----|---|-------------------|--------------|----|-----|
| 11 | 道路標識、区画線及び道路標示に関する命令の一部を改正する命令                        | 国土交通省             | 平成26年<br>3月  |    |     |
| 12 | 多言語対応の基本的な考え方   | オリンピック・パラリンピック準備局 | 平成26年<br>3月  |    |     |
| 13 | 観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014                            | 観光庁               | 平成26年<br>6月  |    |     |
| 14 | 観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014 「訪日外国人 2000万人時代」に向けて       | 観光庁               | 平成26年<br>6月  |    |     |
| 15 | 自然災害発生時の訪日外国人旅行者への初動対応マニュアル策定ガイドライン ～観光・宿泊施設の皆さまに向けて～ | 観光庁               | 平成26年<br>10月 |    |     |
| 16 | 訪日外国人旅行者の安全確保のための手引き～地域防災計画等に訪日外国人旅行者への対応を記載するための指針～  | 観光庁               | 平成26年<br>10月 |    |     |
| 17 | 自然災害発生時の訪日外国人旅行者への初動対応マニュアル策定ガイドライン ～観光・宿泊施設の皆さまに向けて～ | 観光庁               | 平成26年<br>10月 |    |     |
| 18 | 訪日外国人旅行者の安全確保のための手引き～地域防災計画等に訪日外国人旅行者への対応を記載するための指針～  | 観光庁               | 平成26年<br>10月 |    |     |
| 19 | 外国人向け防災リーフレット   | 東京都(生活文化局)        | 平成26年<br>10月 |    |     |
| 20 | 多言語対応 取組方針  | オリンピック・パラリンピック準備局 | 平成26年<br>11月 |    |     |
| 21 | 国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針                            | 東京都(産業労働局)        | 平成27年<br>2月  |    |     |
| 22 | 緊急地震速報の多言語化について —緊急地震速報に関する表現を多言語に翻訳した辞書の作成—          | 内閣府               | 平成27年<br>3月  |    |     |

| 項番 | タイトル   | 発行機関                     | 発行年          | 内容               | URL   |
|----|--|--------------------------|--------------|------------------|---|
| 23 | 平成26年度 多言語対応表示・標識等に関する調査(概要報告)                                       | 東京都                      | 平成27年<br>3月  |                  |   |
| 24 | 千葉県多言語観光案内板の表記等に関するガイドライン  | 千葉県                      | 平成27年<br>3月  |                  |   |
| 25 | 観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2015   | 観光庁                      | 平成27年<br>6月  |                  |   |
| 26 | 観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2015 —「2000万人時代」早期実現への備えと地方創生への貢献、観光を日本の基幹産業へ— | 観光庁                      | 平成27年<br>6月  |                  |   |
| 27 | 東京防災(英語・中国語・韓国語版)  | 東京都(総務局)                 | 平成27年<br>8月  |                  |   |
| 28 | 「緊急地震速報・津波警報の多言語辞書」  | 内閣府                      | 平成27年<br>10月 |                  |   |
| 29 | YOKOHAMA 訪日外国人受入対応マニュアル  | 公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー | 平成27年<br>11月 |                  |   |
| 30 | 東京みちしるべ2020 ~誰にでもわかりやすい道路案内標識~                                       | 東京都(建設局)                 | 平成28年<br>1月  |                  |   |
| 31 | 文化施設の多言語対応に係る調査報告書   | 公益財団法人東京都歴史文化財団          | 平成28年<br>3月  | 調査編集:株式会社文化科学研究所 | <a href="https://www.rekibun.or.jp/wp-content/uploads/2017/12/multi-lingualefforts2016.pdf">https://www.rekibun.or.jp/wp-content/uploads/2017/12/multi-lingualefforts2016.pdf</a> |
| 32 | 地名等の英語表記ルールと外国人向け地図記号  | 国土地理院                    | 平成28年<br>3月  |                  |   |
| 33 | 新宿ターミナル基本ルール   | 新宿ターミナル協議会<br>東京都(都市整備局) | 平成28年<br>3月  |                  |   |
| 34 | 明日の日本を支える観光ビジョン:世界が訪れたい日本へ   | 観光庁                      | 平成28年<br>3月  |                  |   |
| 35 | 多言語による災害時マニュアル   | 茨城県                      | 平成28年<br>3月  |                  |   |
| 36 | 「外国人のための医療情報ハンドブック ~日常から災害時の備えまで~」                                   | 栃木県                      | 平成28年<br>3月  |                  |   |
| 37 | 平成27年度 多言語対応表示・標識等に関する調査(概要報告)                                       | 東京都                      | 平成28年<br>3月  |                  |   |

| 項番 | タイトル  | 発行機関            | 発行年          | 内容  | URL  |
|----|---|-----------------|--------------|---|--|
| 38 | 平成28年度 多言語対応表示・標識等に関する調査  | 東京都             | 平成28年<br>3月  |   |  |
| 39 | 小売業の店内の多言語表示ガイドライン  | 経済産業省           | 平成28年<br>4月  |   |  |
| 40 | やさしい日本語で伝える<br>分かりやすく伝わりやすい日本語を目指して   | 横浜市             | 平成28年<br>6月  |   |  |
| 41 | 文化財の英語解説のあり方について ～訪日外国人観光客に文化財の魅力を伝えるための視点～                                     | 文化庁・観光庁         | 平成28年<br>7月  | 訪日外国人旅行者が日本の文化財の魅力を十分に楽しめるような環境整備に向け、文化財の英語解説にあたり必要な視点を整理するとともに、具体的な取組事例をとりまとめた報告書  | <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000083.html">http://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000083.html</a><br><a href="http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/eigo_kaisetsu/">http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/eigo_kaisetsu/</a> |
| 42 | 多言語防災ビデオ「地震! その時どうする?」多言語防災パンフレット『地震から身を守るためのアドバイス』(11言語)リーフレット『防災訓練のポイント』(6言語) | 仙台国際交流協会        | 平成28年<br>9月  |   |  |
| 43 | シーン別会話集(外国人との会話でよく使われる会話355文例)  | 横浜市             | 平成28年<br>10月 |   |  |
| 44 | いばらき多言語表記ガイドライン   | 茨城県             | 平成28年<br>10月 |   |  |
| 45 | 千代田区公共サインデザインマニュアル・千代田区サインガイドライン  | 千代田区            | 平成28年<br>12月 |   |  |
| 46 | 文化施設のための多言語対応ガイド  | 公益財団法人東京都歴史文化財団 | 平成29年<br>3月  |   | <a href="https://www.rekibun.or.jp/wp-content/uploads/2017/12/multi-lingual_efforts2017.pdf">https://www.rekibun.or.jp/wp-content/uploads/2017/12/multi-lingual_efforts2017.pdf</a>  |
| 47 | 案内用図記号などのJISを制定・改正  | 経済産業省           | 平成29年<br>7月  |   |  |
| 48 | 文化施設の観光誘致・多言語推進に係る調査報告書   | 国立文化財機構         | 平成29年<br>8月  | 調査編集:株式会社文化科学研究所  |  |
| 49 | 文化財に関する国際発信力強化の方策について (本文、概要)   | 文化庁             | 平成29年<br>9月  | ポイント:①「日本語解説を翻訳するのではなく、ネイティブのライターが書き起こした文章に監修を入れて内容をチェックする」②「英語解説を一度仕上げてから、他の言語にも展開することが有効である」③「文化財解説のテキストが日本人向けと外国人向けで異なっている問題はなく、むしろ異なっている方が理にかなっている」 | <a href="http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/2017090803.html">http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/2017090803.html</a>  |

| 項番 | タイトル                                   | 発行機関       | 発行年     | 内容   | URL   |
|----|--|------------|---------|--|---|
| 50 | 美術館・博物館のインバウンド集客力向上及び受入環境整備に係る海外事例調査事業 | 観光庁        | 平成30年   |  |   |
| 51 | 外国人旅行者の安全確保のための災害時初動対応マニュアル            | 東京都(産業労働局) | 平成30年3月 |  |   |
| 52 | 滋賀県翻訳・多言語ガイドライン                        | 滋賀県        | 平成30年3月 | 各分野における詳細の対訳表までは定めず、言語環境改善のための留意点を総合的にまとめるまでに留めたものとなっています。そのため、このガイドラインは翻訳・多言語対応に対する姿勢・考え方を共有するためのもの。翻訳・多言語対応3つの基本姿勢。翻訳・多言語対応15の留意点。対象言語の選定。翻訳。媒体の掲載。役割分担。翻訳・多言語対応チェックリスト。 | <a href="https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/10892.html">https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/10892.html</a> |
| 53 | 多言語解説整備を行うために盛り込むべき必要事項を整理したスタイルマニュアル  | 観光庁        | 平成31年3月 | 魅力的な多言語解説文を作成・執筆する際のライティング技術等細かなポイントを取りまとめたもの。   |   |
| 54 | 多言語解説整備を行うために盛り込むべき必要事項を整理した用語集        | 観光庁        | 平成31年3月 | 地域観光資源の多言語解説整備支援事業で42地域、1,502点の英語解説文において、解説文作成の際に丁寧な説明が必要である用語や注意が必要な用語等を抽出したもの。   |   |
| 55 | 解説文事例集                                 | 観光庁        | 平成31年3月 | 地域観光資源の多言語解説整備支援事業で作成した42地域、1,502点の英語解説文をまとめたもの。   |   |
| 56 | 専門人材リスト                                | 観光庁        | 平成31年3月 | 地域観光資源の多言語解説整備支援事業で解説文作成に携わった専門人材をリストにまとめたもの。  |   |
| 57 | 魅力的な多言語解説作成指針                          | 観光庁        | 平成31年3月 | 魅力的な多言語解説を整備する際の基本的な考え方及びポイントを取りまとめたもの。多言語対応における現状と課題。魅力的な多言語解説文の作成にあたっての方針。訪日外国人の興味・関心の把握。媒体の特性の考慮。解説文制作工程の整理。英語解説文に対する訪日外国人のアンケート調査調査票(日本語・英語)。解説文の内容向上の具体的事例            | <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001281941.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001281941.pdf</a>                                     |

| 項番 | タイトル                   | 発行機関                 | 発行年         | 内容   | URL   |
|----|------------------------|----------------------|-------------|--|---|
| 58 | 英文スタイル・マニュアル:基礎編       | 国立文化財機構(編集:奈良文化財研究所) | 令和4年<br>2月  | 国立文化財機構が推進する多言語化事業において、英文表示に関するガイダンスを提供するために刊行   |   |
| 59 | YOKOHAMA訪日外国人受入対応マニュアル |                      | 平成29年<br>3月 | 国・地域別来訪者の特徴、シーン別会話集、外貨両替について、横浜市の観光案内所/横浜観光情報サイト、食事について、外国人観光客受入のための多言語対応支援メニュー/無料Wi-Fiサービス、近隣観光地アクセス図/ジャパン・レール・パスの引換えについて/横浜のお得な乗車券について | <a href="https://business.yokohamajapan.com/media/ja/travel/glossary/">https://business.yokohamajapan.com/media/ja/travel/glossary/</a> |
| 60 | 横浜市内固有名詞の対訳語一覧         |                      | —           | 横浜市内の地図やサインの外国語表記を統一するためのリスト。内容:横浜市内の観光施設や橋・公園などの公共物(138語)。言語:英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語   | <a href="https://business.yokohamajapan.com/media/ja/travel/glossary/">https://business.yokohamajapan.com/media/ja/travel/glossary/</a> |



# Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 2

## I. Theoretical Framework

- [ 1 ] Beyond Interlingual Translation: Rethinking Foreign-Language Texts on Japanese Cultural Heritage Through Science and Technology Studies  
Wu Xiuzhe (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 6
- [ 2 ] Tips on Translating Cultural Heritage Information: A Case Study  
Wu Xiuzhe (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 20
- [ 3 ] What Happened to ‘Jill-gurut’? The Cultural Heritage Terminology Purification Movement in Korea  
Ho Soyeon (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 27
- [ 4 ] Copy-Editing for the First Time  
Wei ChiaJung ..... 47

## II. Reports

- [ 5 ] Developing Foreign-Language Materials for the Nara Palace Site: A Project Report  
Takata Yuichi (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 50

## III. Experiments

- [ 6 ] From Fieldwork Report to Multilingual Database  
Yanase Peter (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 62

## IV. Glossaries

- [ 7 ] Japanese-English Glossary for FY2021  
Yanase Peter (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 68
- [ 8 ] A Japanese-Chinese Glossary of Terminology Related to Japanese Cultural Heritage  
Wu Xiuzhe (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 77
- [ 9 ] A Japanese-Korean Glossary of Terminology Related to Japanese Cultural Heritage  
Ho Soyeon (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 92
- [10] A List of Japanese Guidelines for Developing Foreign-Language Materials  
Takata Yuichi (Nara National Research Institute for Cultural Properties) ..... 98



奈良文化財研究所研究報告 第32冊

## 文化財多言語化研究報告 2

Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 2

Issued on 15 March 2022

Written and Published by  
Nara National Research Institute for Cultural Properties,  
(Independent Administrative Agency)  
National Institute for Cultural Heritage  
2-9-1, Nijō -chō, Nara City, Nara Prefecture, Japan, #630-8577

発行日 2022年3月15日  
編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所  
〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1  
印刷者 能登印刷株式会社  
〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7-10

ISBN: 978-4-909931-61-0



